

# 男女共同参画に関するアンケート調査

## 報 告 書

令和3年10月

早島町



# 目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査の方法	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1
II	調査結果	
1	属性	2
2	男女の地位の平等感や性別による役割分担に関する考えについて	5
(1)	各分野での男女の地位の平等感	5
(2)	性別役割分担意識	13
3	家庭における男女共同参画について	16
(1)	家庭内での役割分担	16
(2)	家事・子育て・介護にかかる時間	20
(3)	男女がともに家事等に積極的に参加するために必要だと思うこと	23
4	男女平等教育について	25
5	様々な場での方針決定過程への男女の参画について	27
(1)	早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度	27
(2)	女性の意見が反映されていない理由	28
(3)	役職への就任や公職への立候補依頼に対する対応	30
6	職業生活について	42
(1)	テレワーク（在宅勤務等）の実施状況	42
(2)	育児休業制度・介護休業制度の利用状況	44
(3)	仕事を退職、中断、転職した理由	46
(4)	新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況への影響	48
(5)	女性が職業をもつことについて	50
(6)	現在の社会における女性の働きやすさ	53
(7)	現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思わない理由	55
7	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	57
(1)	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望と現実・現状	57
(2)	ワーク・ライフ・バランスの状況	61
(3)	ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なと思うこと	63
8	地域での男女共同参画の推進について	65
(1)	参加した地域活動	65
(2)	地域活動に参加しなかった理由	68
(3)	性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと	71

9	男女間の暴力について	74
(1)	配偶者・パートナーや恋人の有無	74
(2)	配偶者・パートナーや恋人から暴力行為を受けた経験	75
(3)	配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先	76
(4)	配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関して相談しなかった理由	79
(5)	配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度	81
(6)	暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制	82
(7)	男女間の暴力を防止するために必要なこと	85
10	女性の健康について	87
11	性の多様性について	89
(1)	性的マイノリティ（LGBT等）の認知度	89
(2)	身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるか	91
(3)	性的マイノリティの人にとっての生活環境	92
(4)	性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組	93
12	情報提供について	96

# I 調査の概要

## 1 調査目的

男女共同参画、女性活躍、男女間の暴力に関する町民の意識や実態を把握し、「はやしまウイズプラン（第3次早島町男女共同参画基本計画）」策定中間見直しの基礎資料とする。

## 2 調査の方法

- (1) 調査地域 早島町全域
- (2) 対象 20歳以上の町民 2,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査時期

令和3年8月26日（木）～令和3年9月13日（月）（9月28日回収分まで含む）

## 3 回収結果

- (1) 調査票配布数 2,000票
- (2) 有効回収数 640票 有効回収率 32.0%

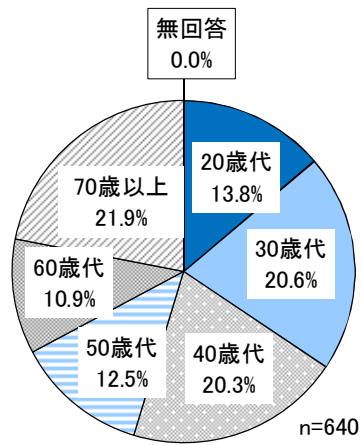
## 4 報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（%）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 2つ以上の回答（複数回答）を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

## II 調査結果

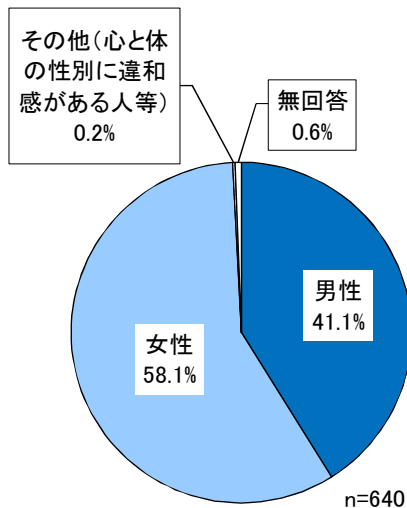
### 1 属性

#### (1) 年齢



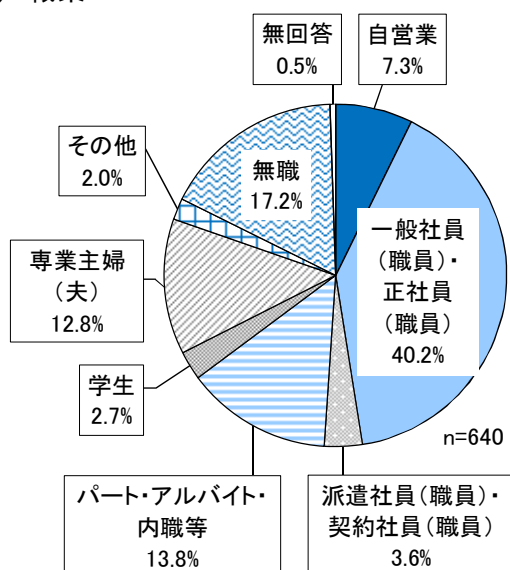
	回答数	割合
20歳代	88	13.8%
30歳代	132	20.6%
40歳代	130	20.3%
50歳代	80	12.5%
60歳代	70	10.9%
70歳以上	140	21.9%
無回答	-	-
全体	640	100.0%

#### (2) 性別



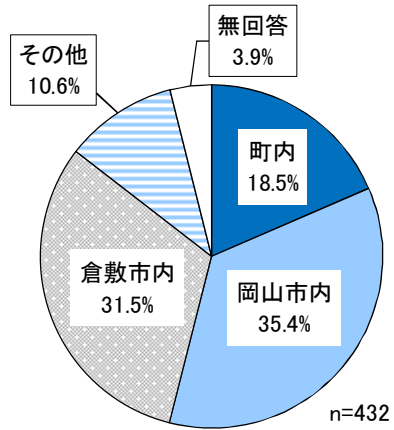
	回答数	割合
男性	263	41.1%
女性	372	58.1%
その他(心と体の性別に違和感がある人等)	1	0.2%
無回答	4	0.6%
全体	640	100.0%

#### (3) 職業



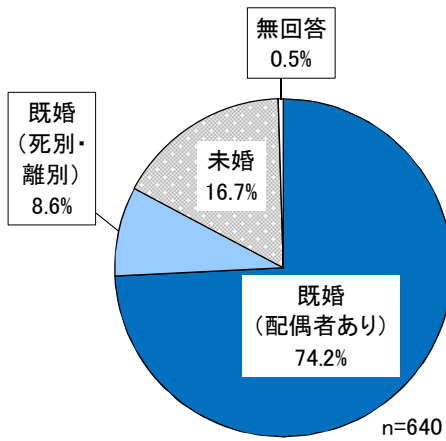
	回答数	割合
自営業	47	7.3%
一般社員(職員)・正社員(職員)	257	40.2%
派遣社員(職員)・契約社員(職員)	23	3.6%
パート・アルバイト・内職等	88	13.8%
学生	17	2.7%
専業主婦(夫)	82	12.8%
その他	13	2.0%
無職	110	17.2%
無回答	3	0.5%
全体	640	100.0%

(3)-1 勤め先、通学先



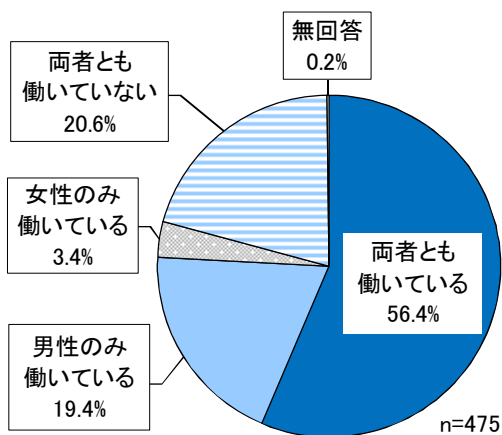
	回答数	割合
町内	80	18.5%
岡山市内	153	35.4%
倉敷市内	136	31.5%
その他	46	10.6%
無回答	17	3.9%
全体	432	100.0%

(4) 婚姻の有無



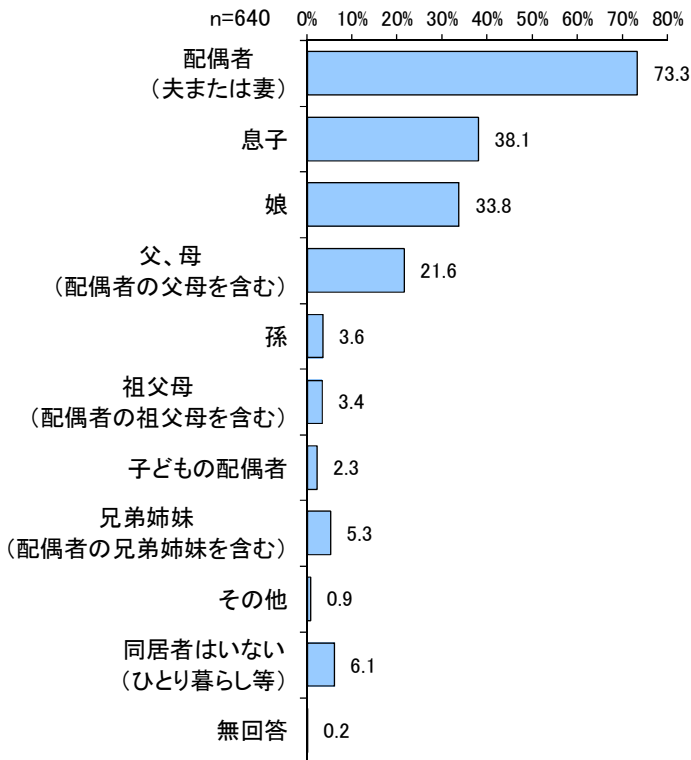
	回答数	割合
既婚(配偶者あり)	475	74.2%
既婚(死別・離別)	55	8.6%
未婚	107	16.7%
無回答	3	0.5%
全体	640	100.0%

(4)-1 就業状況 (配偶者がいる人のみ回答)



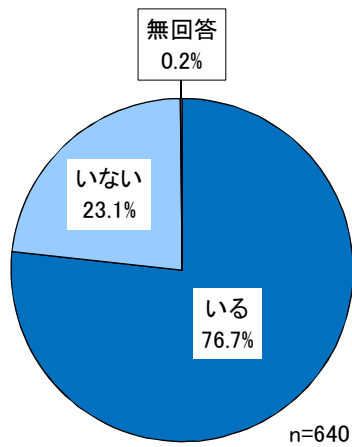
	回答数	割合
両者とも働いている	268	56.4%
男性のみ働いている	92	19.4%
女性のみ働いている	16	3.4%
両者とも働いていない	98	20.6%
無回答	1	0.2%
全体	475	100.0%

(5) 同居家族



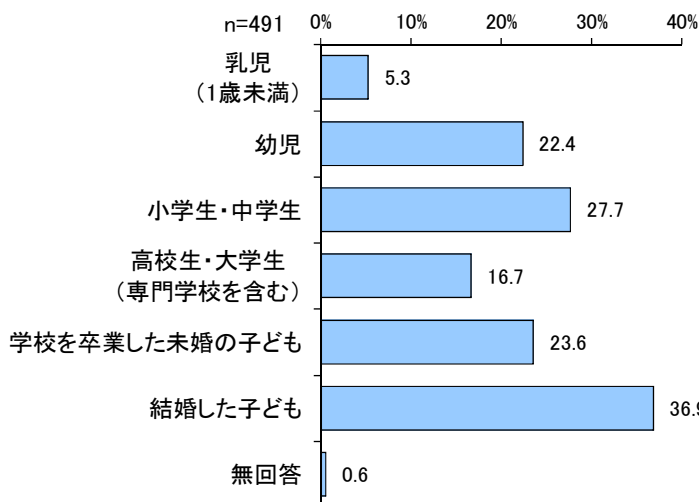
	回答数	割合
配偶者 (夫または妻)	469	73.3%
息子	244	38.1%
娘	216	33.8%
父、母 (配偶者の父母を含む)	138	21.6%
孫	23	3.6%
祖父母 (配偶者の祖父母を含む)	22	3.4%
子どもの配偶者	15	2.3%
兄弟姉妹 (配偶者の兄弟姉妹を含む)	34	5.3%
その他	6	0.9%
同居者はいない (ひとり暮らし等)	39	6.1%
無回答	1	0.2%
全体	640	100.0%

(6) 子どもの有無



	回答数	割合
いる	491	76.7%
いない	148	23.1%
無回答	1	0.2%
全体	640	100.0%

(6)-1 子どもの年齢層



	回答数	割合
乳児 (1歳未満)	26	5.3%
幼児	110	22.4%
小学生・中学生	136	27.7%
高校生・大学生 (専門学校を含む)	82	16.7%
学校を卒業した未婚の子ども	116	23.6%
結婚した子ども	181	36.9%
無回答	3	0.6%
全体	491	100.0%

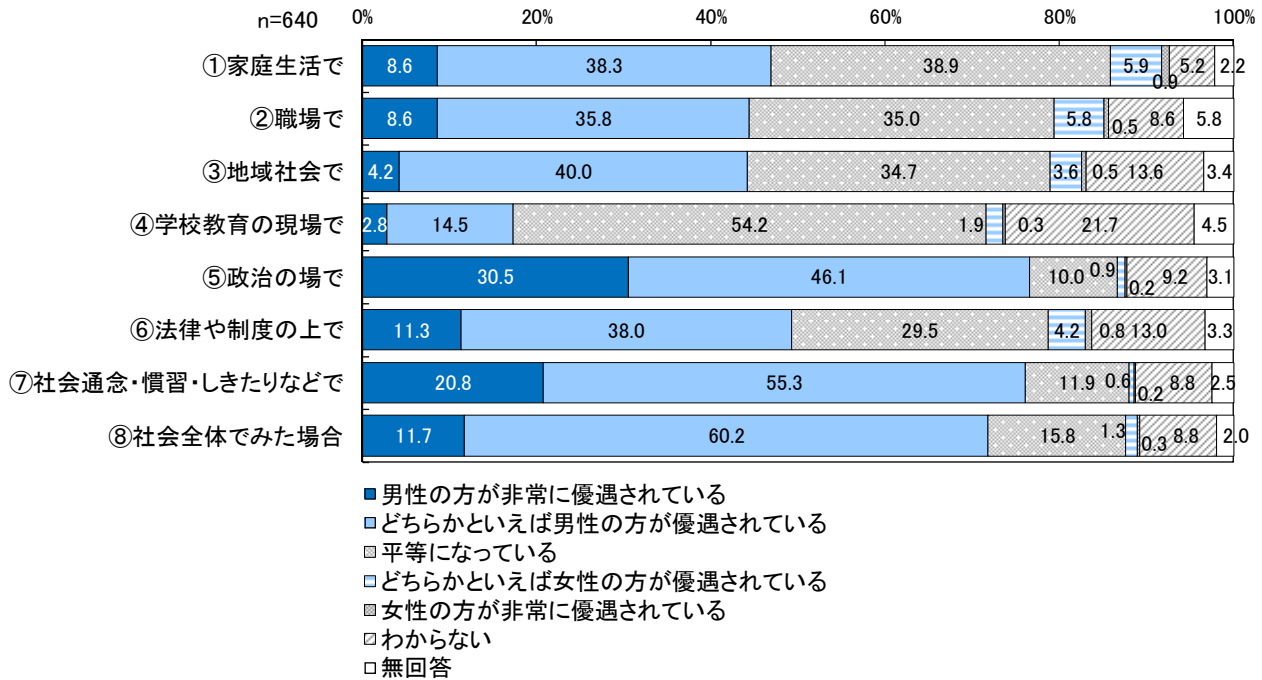


## 2 男女の地位の平等感や性別による役割分担に関する考えについて

### (1) 各分野での男女の地位の平等感

問7 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。①～⑧のそれぞれについて回答してください。(○はそれぞれ1つ)

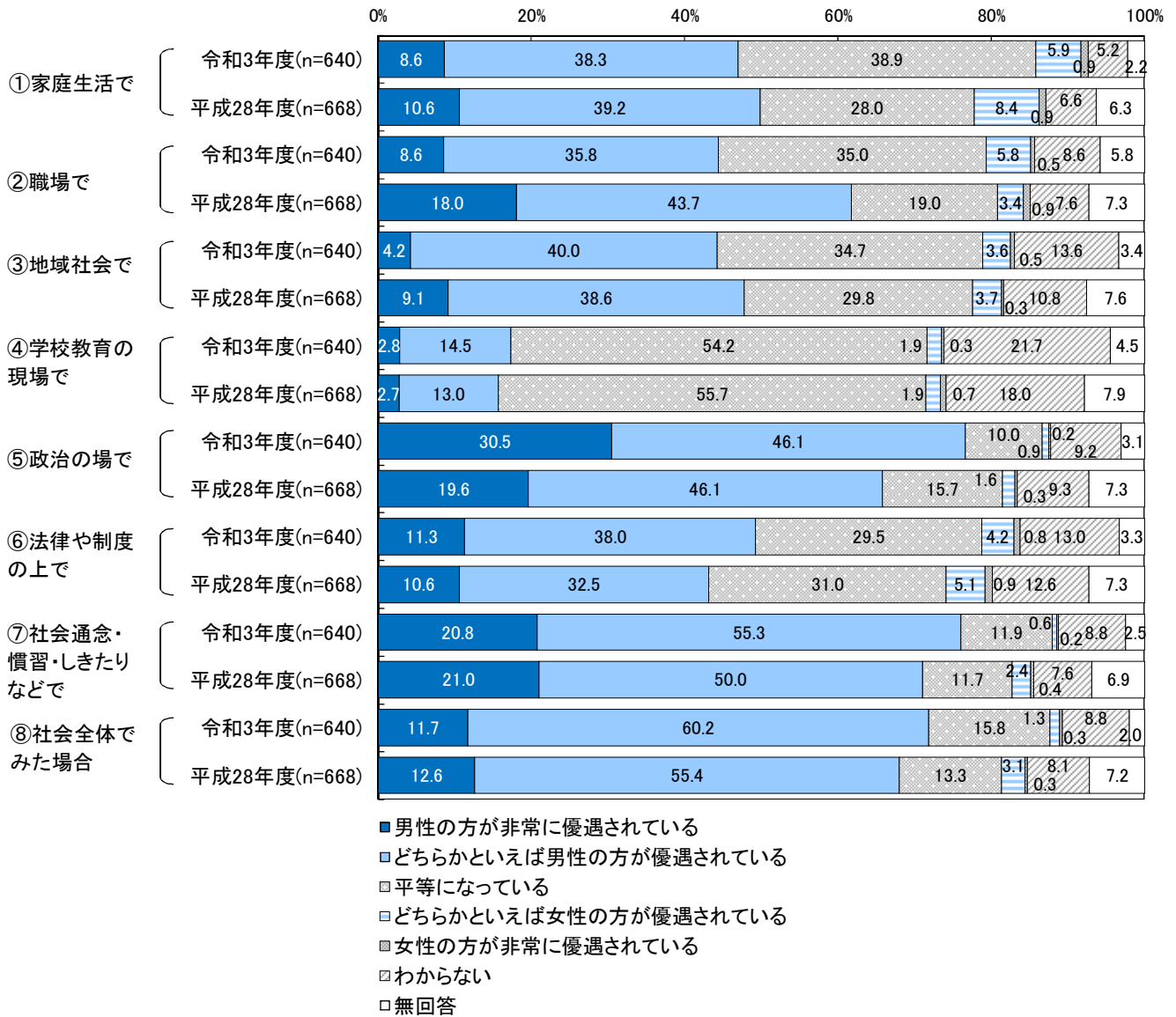
【各分野での男女の地位の平等感】



各分野での男女の地位の平等感について、「平等になっている」と回答した人の割合は、「家庭生活」で38.9%、「職場」で35.0%、「地域社会」で34.7%、「学校教育の現場」で54.2%、「政治の場」で10.0%、「法律や制度の上」で29.5%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で11.9%、「社会全体でみた場合」で15.8%となっており、「学校教育の現場」が最も高く、「政治の場」が最も低くなっている。

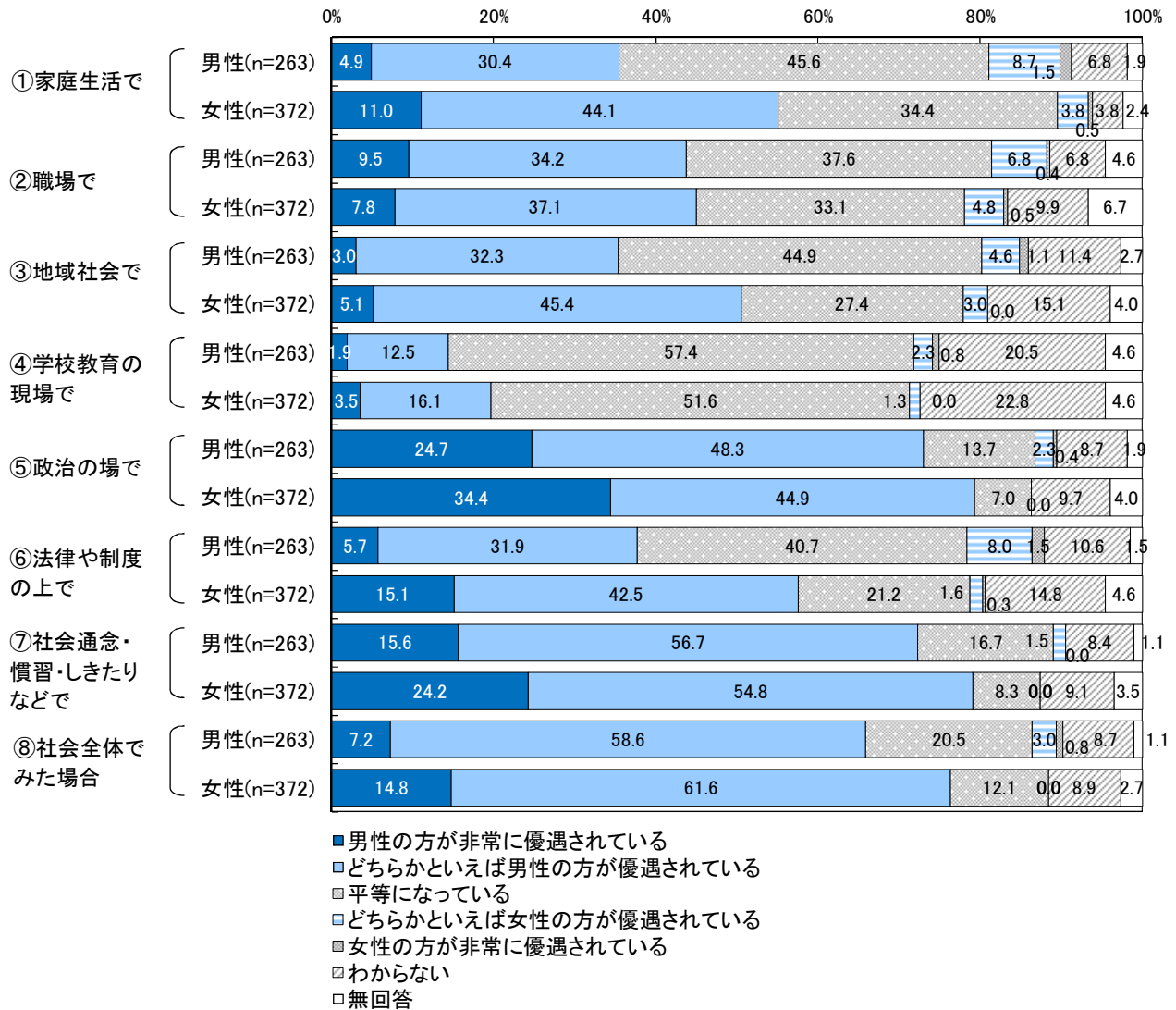
一方、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答した人の割合は、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体でみた場合」で7割を超えている。

【各分野での男女の地位の平等感（前回調査結果との比較）】



前回調査結果と比較すると、「平等になっている」と回答した人の割合は、「家庭生活」、「職場」で平成28年度調査結果よりも上昇している。

【各分野での男女の地位の平等感（性別）】

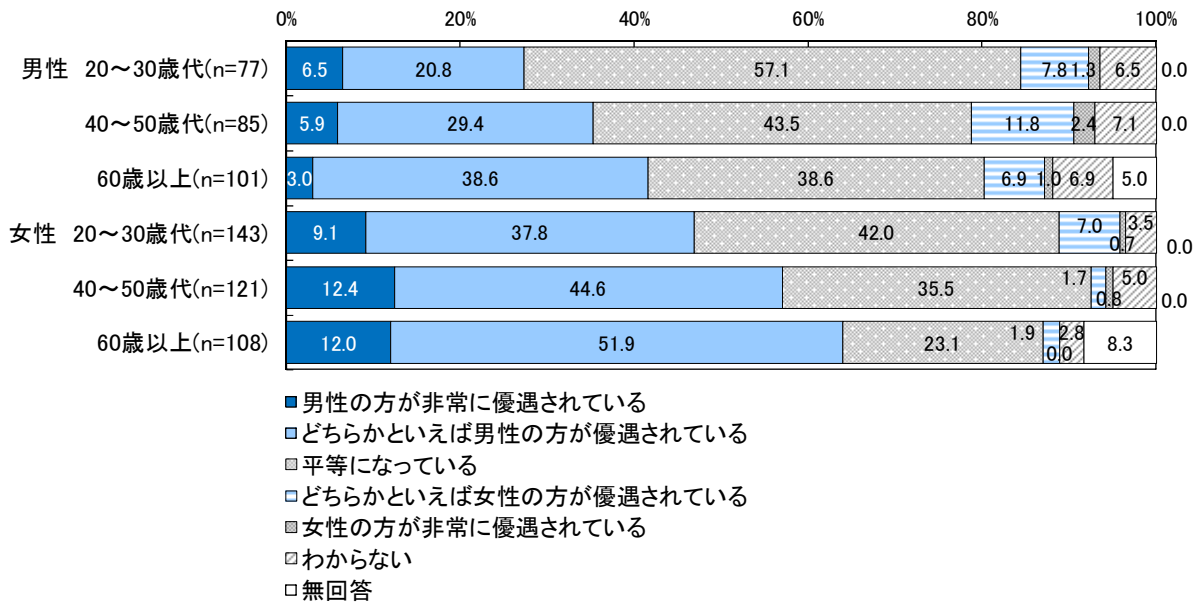


性別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、「学校教育の現場」について男女ともに5割台となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、「家庭生活」、「地域社会」、「法律や制度の上」について女性で5割を超えており、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体でみた場合」について男女ともに6割を超えている。

【各分野での男女の地位の平等感（性・年齢別）】

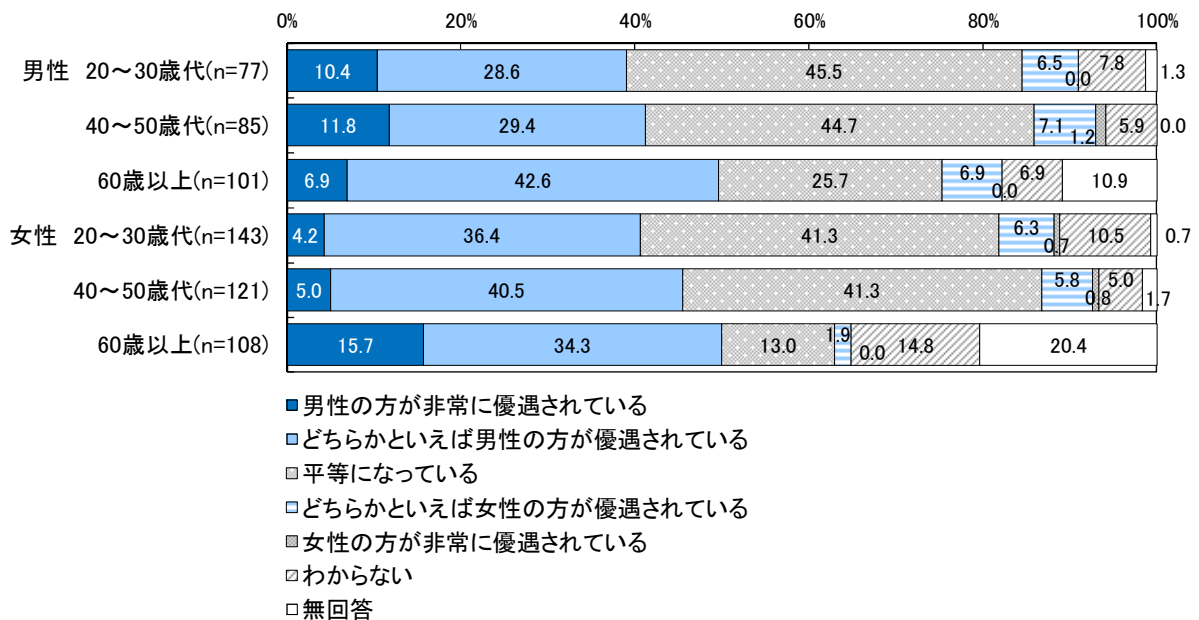
（家庭生活で）



性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男性20～30歳代で5割台後半となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性60歳以上で6割台前半となっている。

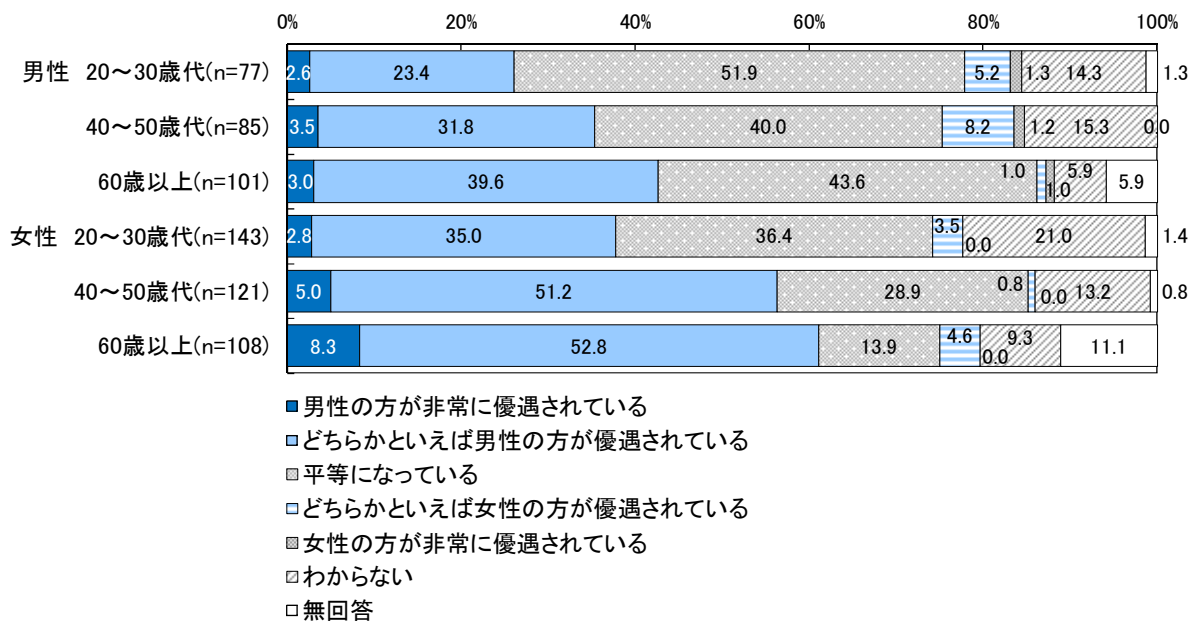
（職場で）



性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男女ともに20～30歳代、40～50歳代で4割台となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、男女ともに60歳以上で約5割となっている。

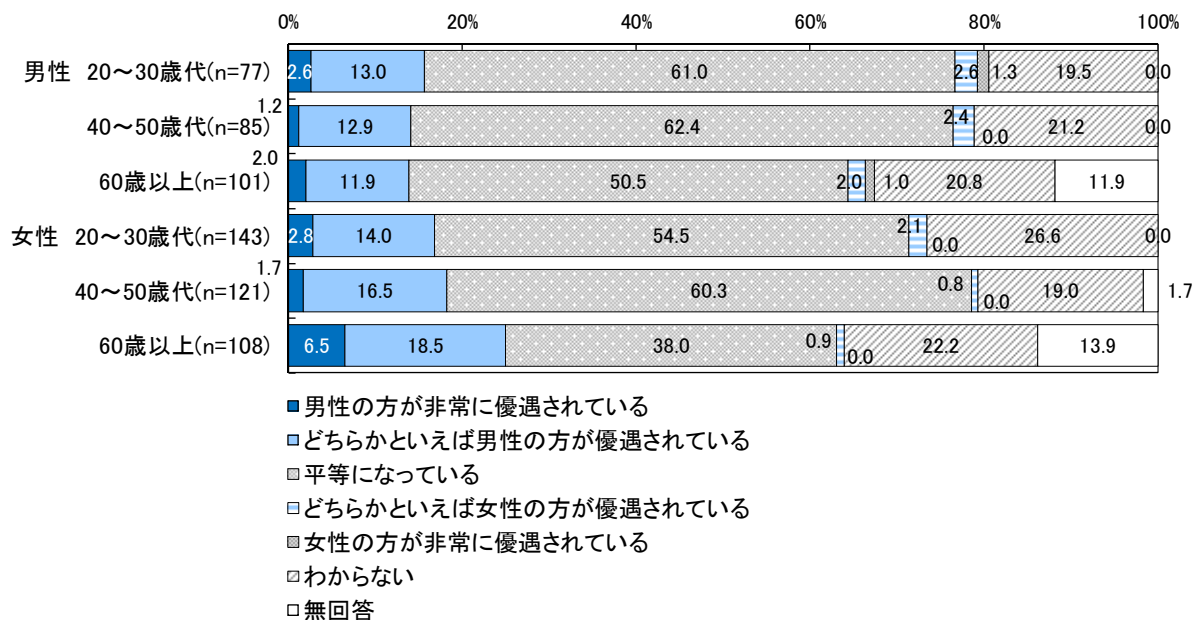
(地域社会で)



性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男性20～30歳代で5割台前半となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性60歳以上で6割台前半となっている。

(学校教育の現場で)

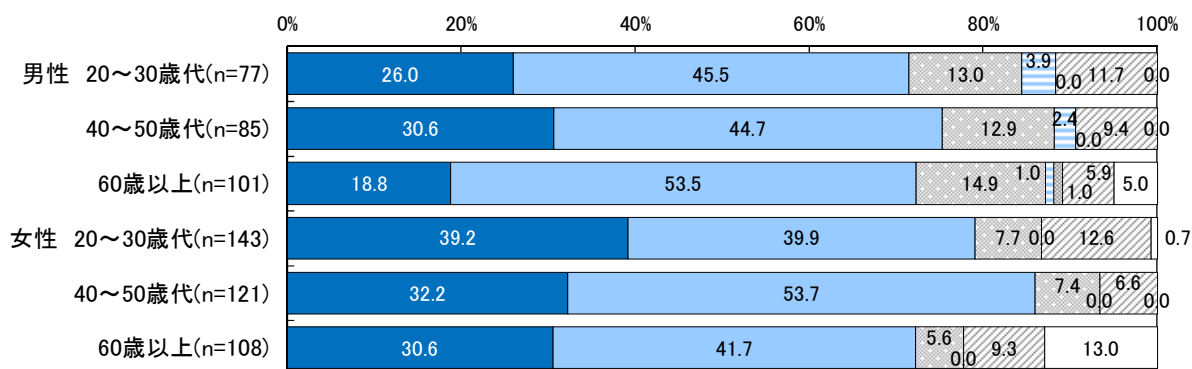


性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男性20～30歳代、男性40～50歳代、女性40～50歳代で6割台となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性60歳以上で2割台半ばとなっている。



(政治の場で)

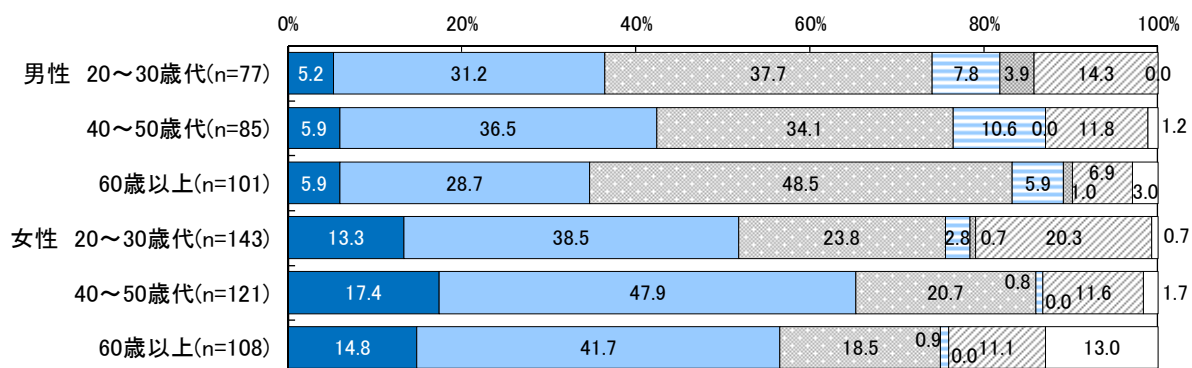


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、女性のすべての年齢層で1割に満たない。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性40～50歳代で8割台半ばとなっている。

(法律や制度の上で)

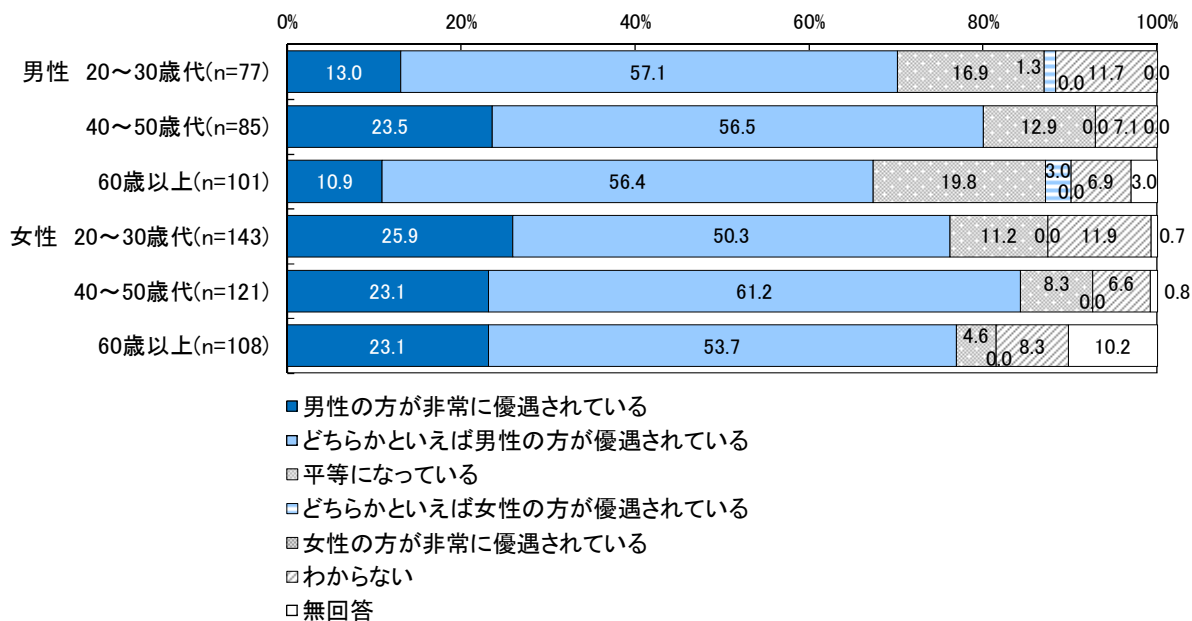


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男性60歳以上で4割台後半となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性40～50歳代で6割台半ばとなっている。

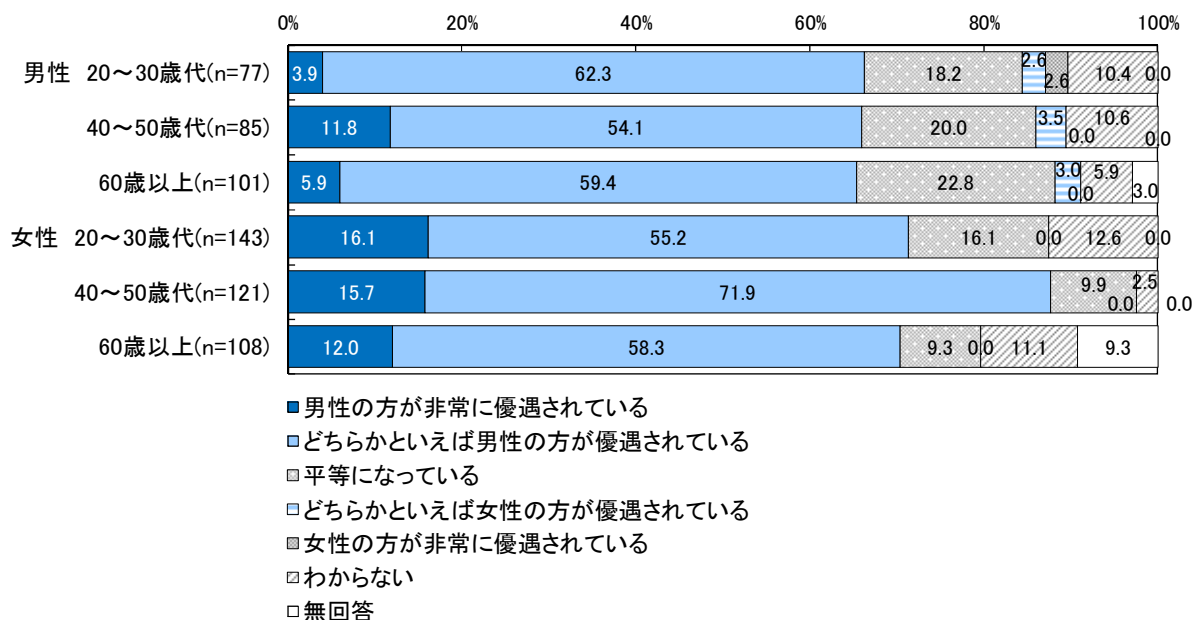
(社会通念・慣習・しきたりなどで)



性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、男性60歳以上で約2割となっている。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、男女ともに40～50歳代で8割台となっている。

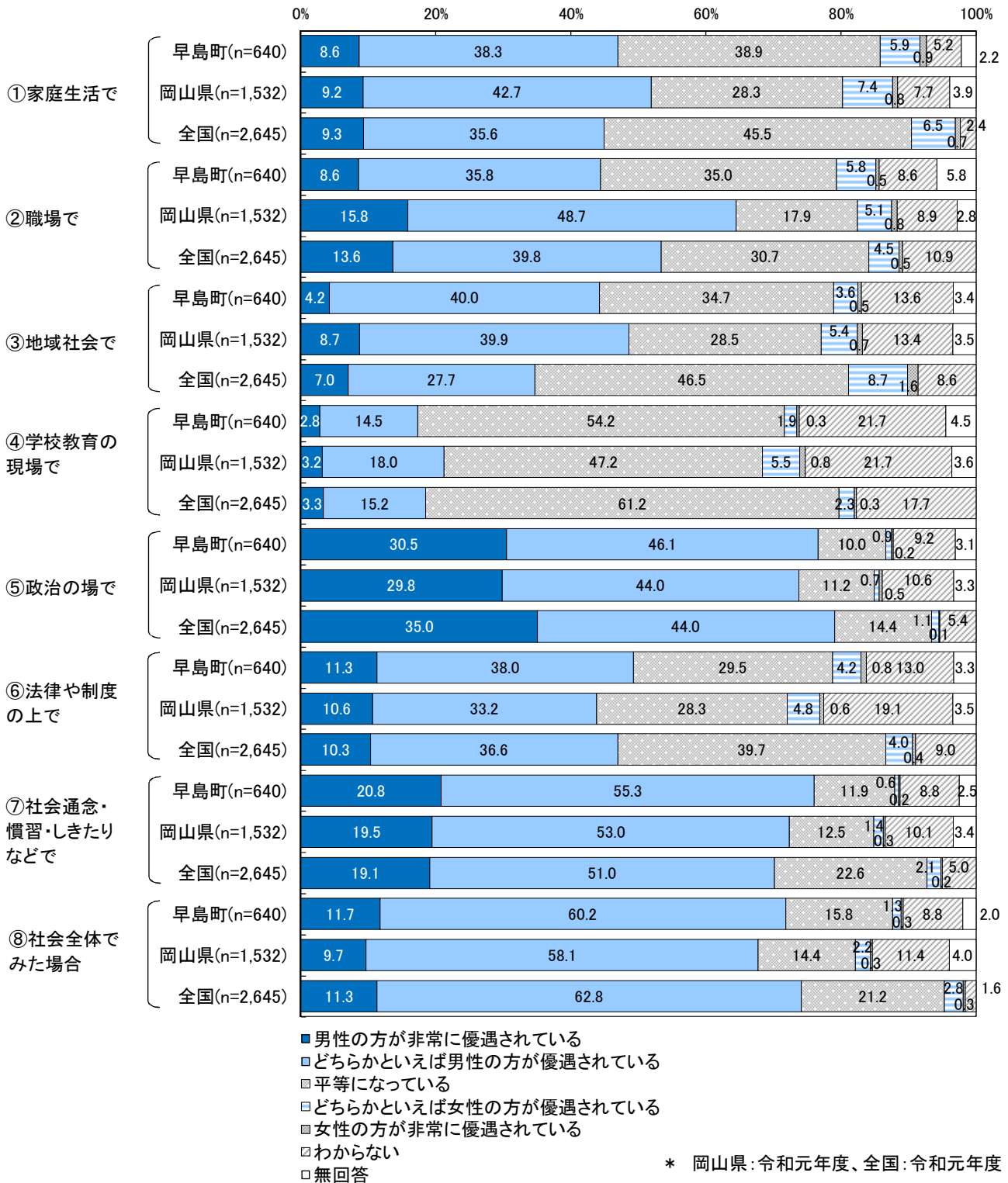
(社会全体でみた場合)



性・年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は、女性40～50歳代、女性60歳以上で1割に満たない。

また、『男性優遇』と回答した人の割合は、女性40～50歳代で8割台後半となっている。

【各分野での男女の地位の平等感（岡山県・全国調査結果との比較）】



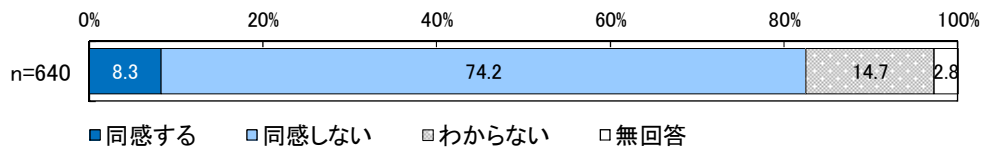
岡山県・全国調査結果と比較すると、「平等になっている」と回答した人の割合は、「家庭生活」、「職場」、「地域社会」、「学校教育の現場」で3割を超えているものの、「職場」を除いたすべての項目で全国調査結果よりも低くなっている。



(2) 性別役割分担意識

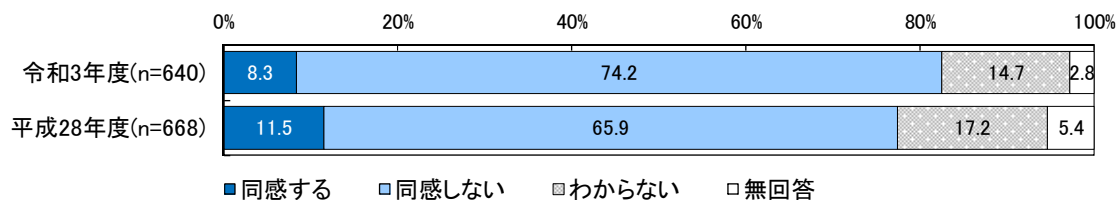
問 8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。  
(○は1つ)

【性別役割分担意識について】



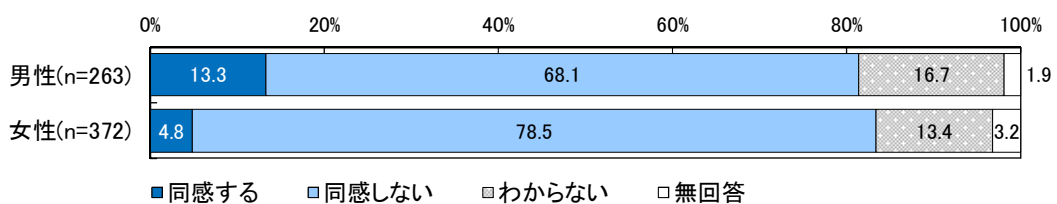
性別役割分担意識について、「同意する」と回答した人の割合が 8.3%、「同意しない」と回答した人の割合が 74.2%となっている。

【性別役割分担意識について（前回調査結果との比較）】



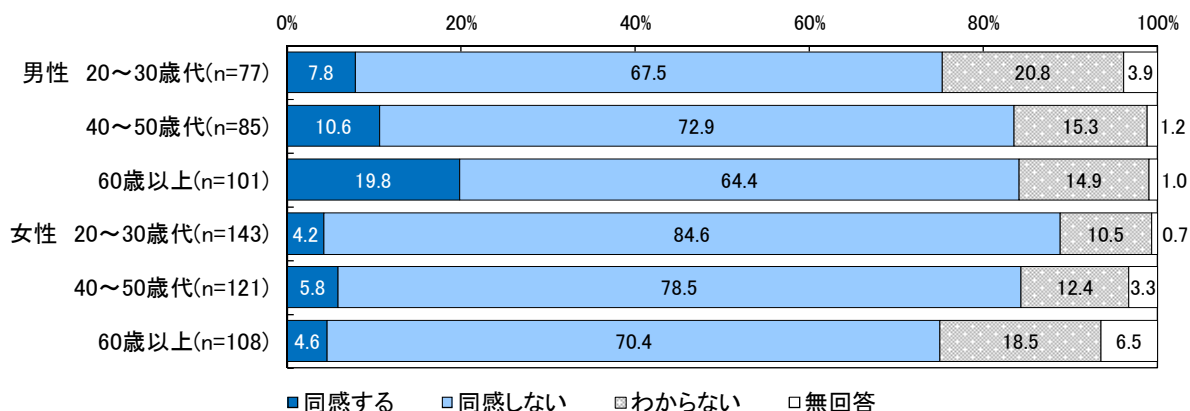
前回調査結果と比較すると、「同意しない」と回答した人の割合は、平成 28 年度調査結果よりも上昇している。

【性別役割分担意識について（性別）】



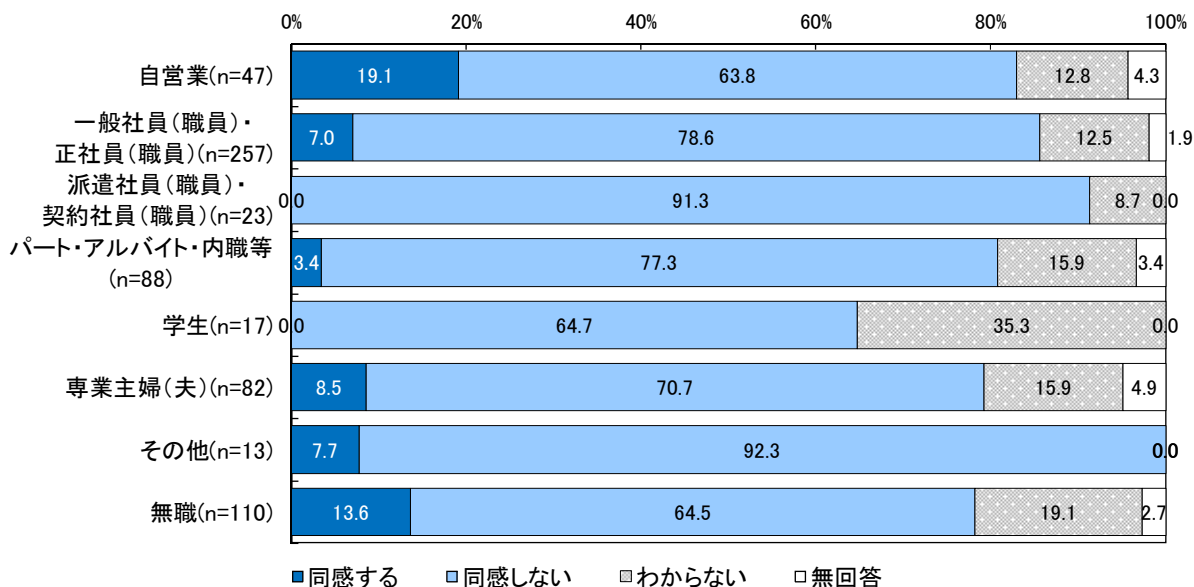
性別にみると、「同意する」と回答した人の割合は、男性で 1 割を超えている。

【性別役割分担意識について（性・年齢別）】



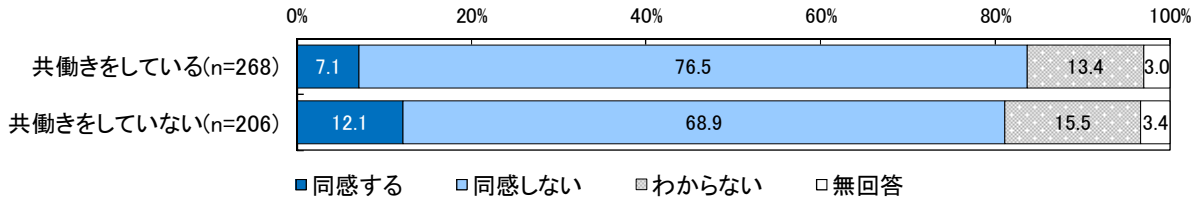
性・年齢別にみると、「同意する」と回答した人の割合は、男性60歳以上で約2割となっている。

【性別役割分担意識について（職業別）】



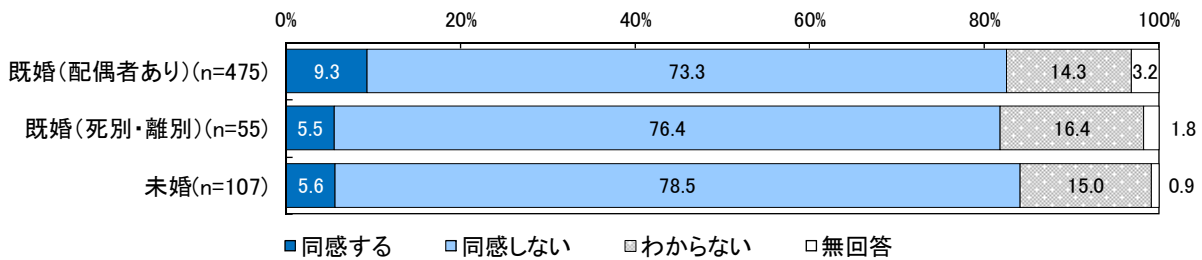
職業別にみると、「同意する」と回答した人の割合は、「自営業」で約2割となっている。

【性別役割分担意識について（共働きの状況別）】



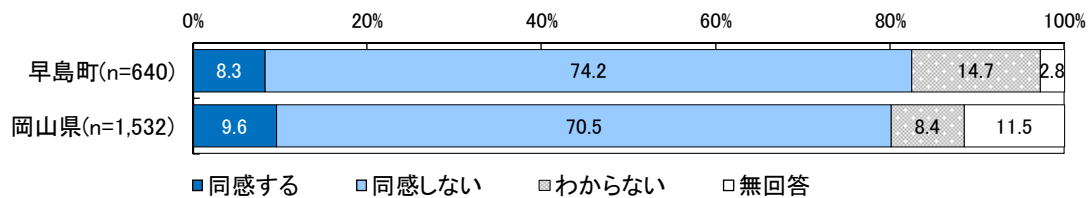
共働きの状況別にみると、「同意する」と回答した人の割合は、共働きの状況にかかわらず1割前後となっている。

【性別役割分担意識について（未既婚別）】



未既婚別にみると、「同意する」と回答した人の割合は、既婚（配偶者あり）の層で約1割となっている。

【性別役割分担意識について（岡山県調査結果との比較）】



\* 岡山県:令和元年度

岡山県調査結果と比較すると、大きな差はみられない。

### 3 家庭における男女共同参画について

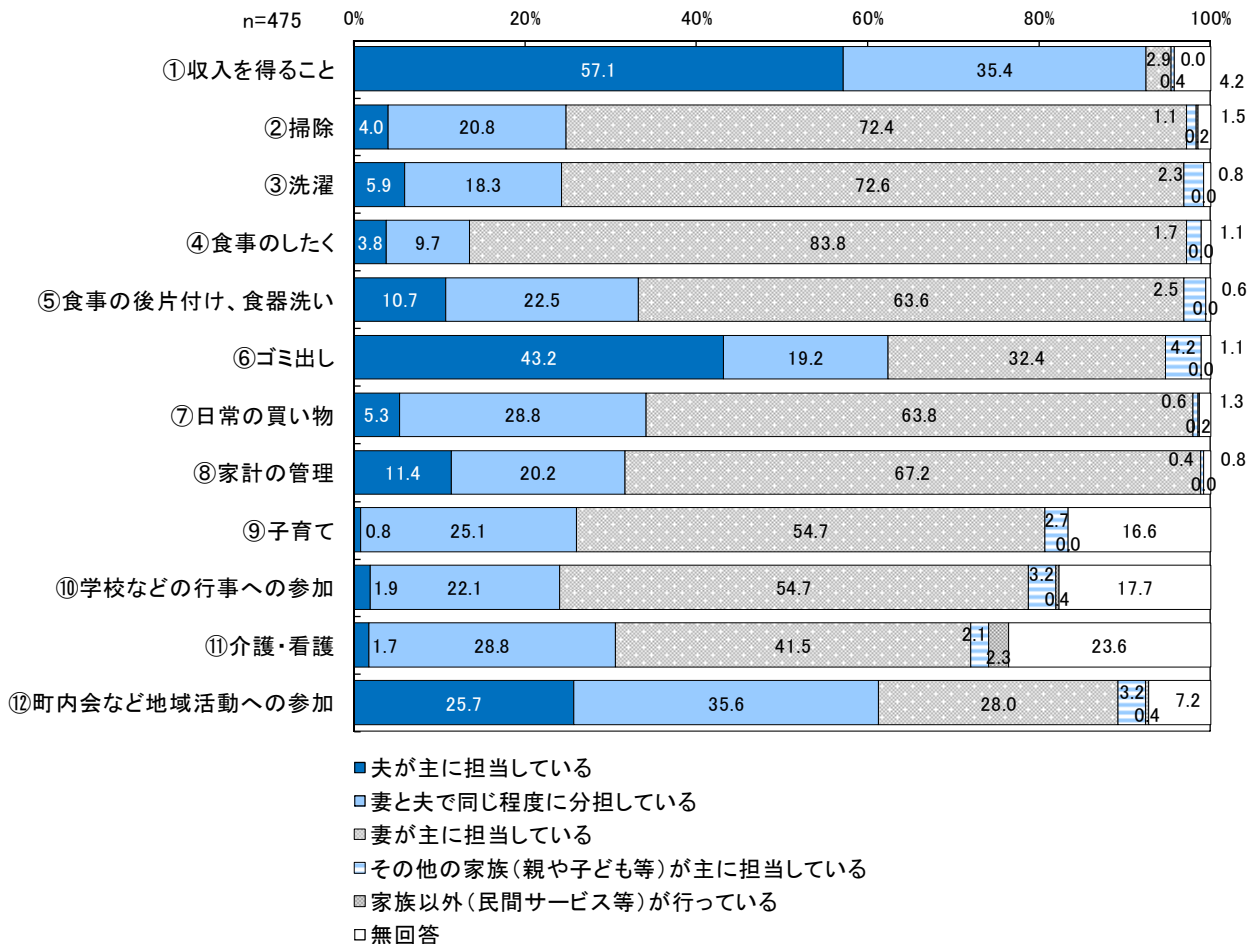
#### (1) 家庭内での役割分担

配偶者またはパートナーと同居している人のみ回答

問9 あなたの家庭では、次の①～⑫について、主に誰が担当していますか。

(○はそれぞれ1つ)

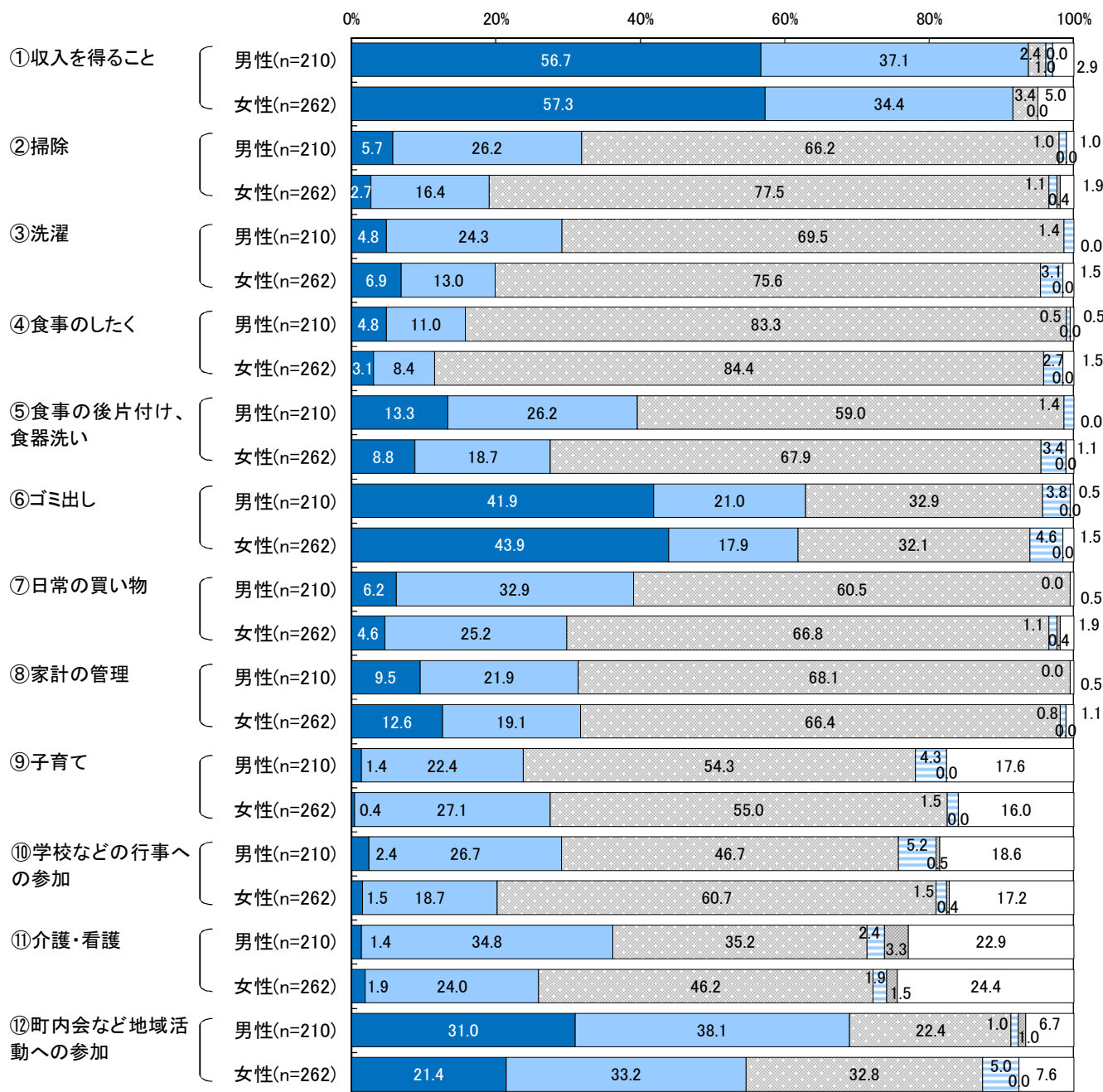
【家庭内での役割分担】



家庭内での役割分担について、「掃除」、「洗濯」、「食事のしたく」、「食事の後片付け、食器洗い」、「日常の買い物」、「家計の管理」、「子育て」、「学校などの行事への参加」、「介護・看護」について、「妻が主に担当している」と回答した人の割合が「夫が主に担当している」、「妻と夫で同じ程度に分担している」と回答した人の割合よりも高くなっている。

また、「妻が主に担当している」と回答した人の割合が特に高い項目は、「食事のしたく」(83.8%)、「洗濯」(72.6%)、「掃除」(72.4%)、「家計の管理」(67.2%)、「日常の買い物」(63.8%)、「食事の後片付け、食器洗い」(63.6%)となっている。

### 【家庭内での役割分担（性別）】

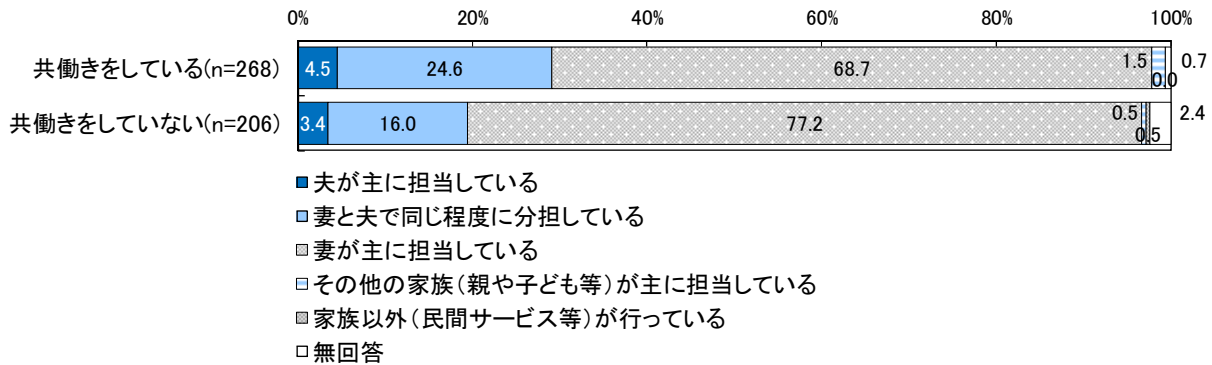


- 夫が主に担当している
- 妻と夫で同じ程度に分担している
- 妻が主に担当している
- その他の家族(親や子ども等)が主に担当している
- 家族以外(民間サービス等)が行っている
- 無回答

性別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、女性で「掃除」、「洗濯」、「食事のしたく」で7割を超えている。

【家庭内での役割分担（共働きの状況別）】

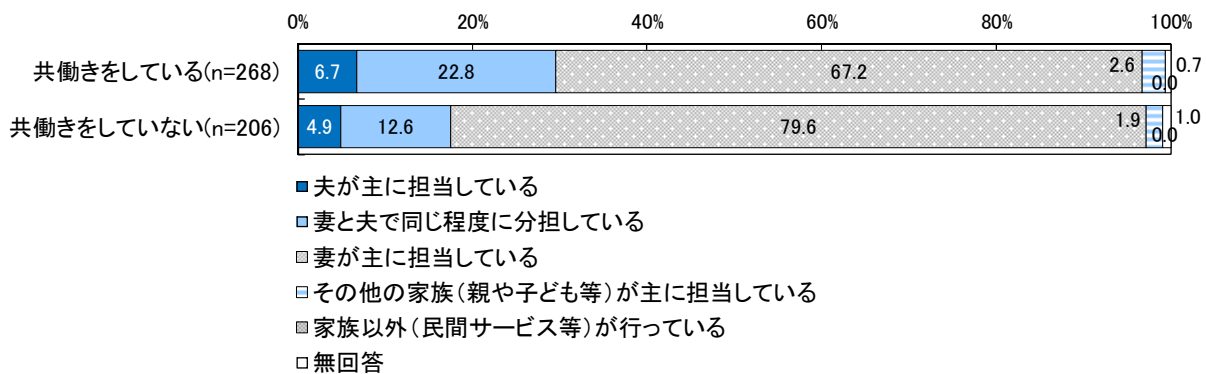
（掃除）



掃除について、共働きの状況別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、共働きをしていない層で7割台後半となっており、共働きをしている層でも6割台後半となっている。

【家庭内での役割分担（共働きの状況別）】

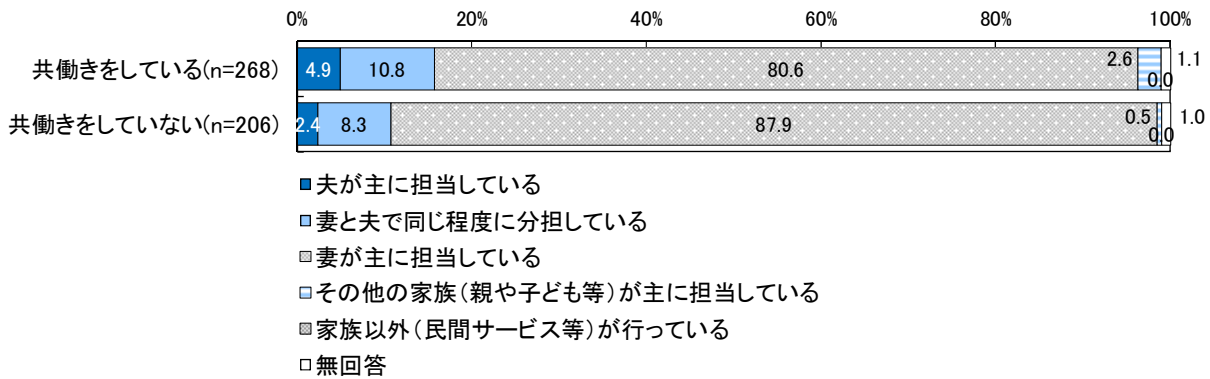
（洗濯）



洗濯について、共働きの状況別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、共働きをしていない層で約8割となっており、共働きをしている層でも6割台後半となっている。

【家庭内での役割分担（共働きの状況別）】

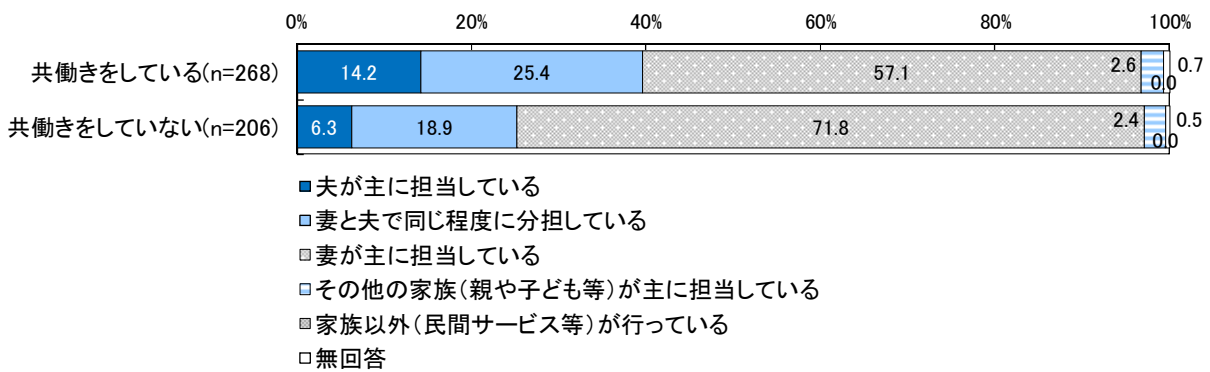
（食事のしたく）



食事のしたくについて、共働きの状況別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、共働きの状況にかかわらず8割を超えている。

【家庭内での役割分担（共働きの状況別）】

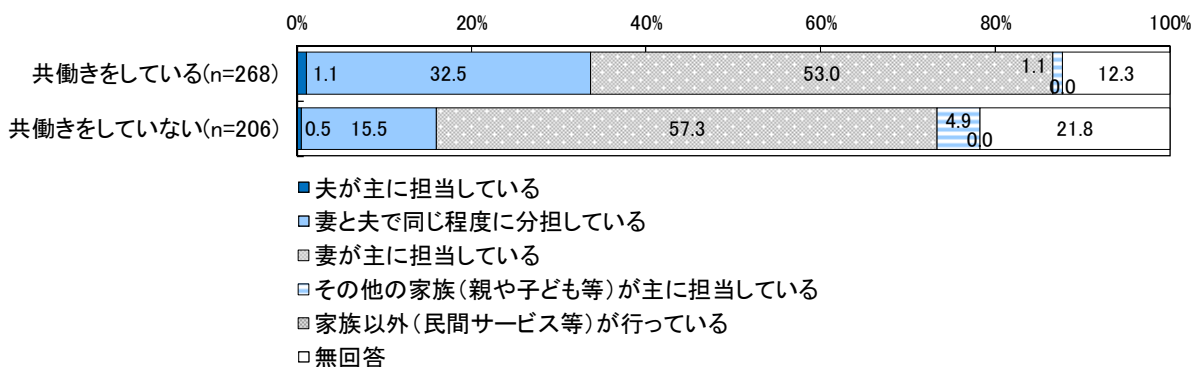
（食事の後片付け、食器洗い）



食事の後片付け、食器洗いについて、共働きの状況別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、共働きをしていない層で7割を超えており、共働きをしている層でも5割台後半となっている。

【家庭内での役割分担（共働きの状況別）】

（子育て）

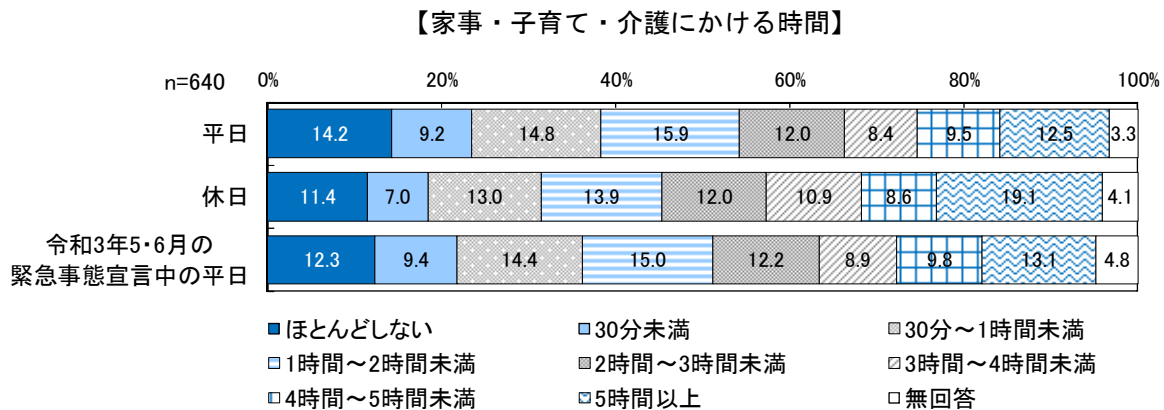


子育てについて、共働きの状況別にみると、「妻が主に担当している」と回答した人の割合は、共働きの状況にかかわらず5割を超えている。



(2) 家事・子育て・介護にかかる時間

問 10 あなたが家事・子育て・介護にかかる時間は、平均すると1日合計どのくらいですか。通常の平日、休日、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言中について、それぞれ回答してください。※5時間以上の場合は具体的な時間を記入してください。  
(○はそれぞれ1つ)



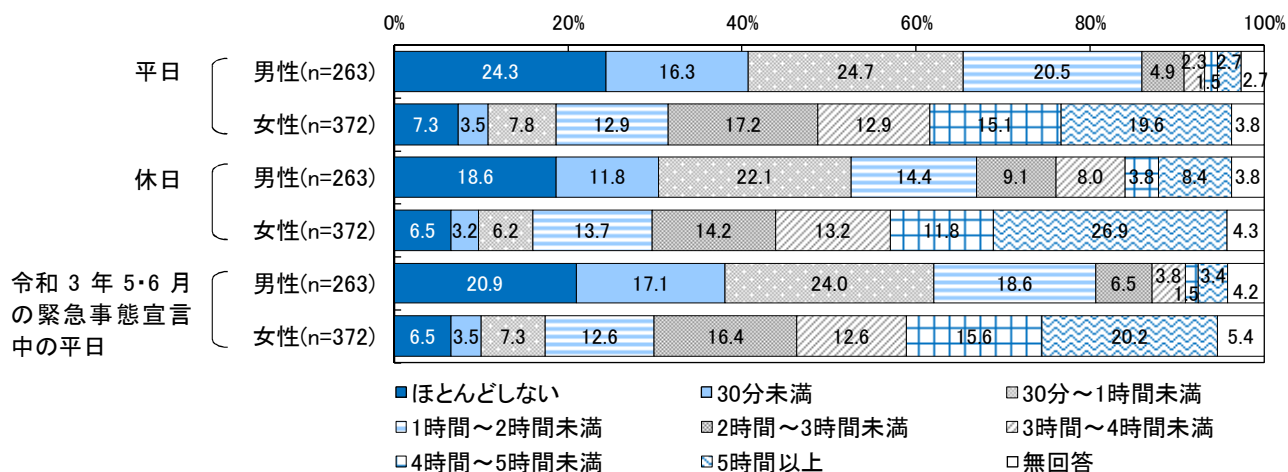
家事・子育て・介護にかかる時間について、平日では、「1時間～2時間未満」と回答した人の割合が15.9%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」(14.8%)となっている。

休日では、「5時間以上」と回答した人の割合が19.1%と最も高く、次いで「1時間～2時間未満」(13.9%)となっている。

緊急事態宣言中の平日では、「1時間～2時間未満」と回答した人の割合が15.0%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」(14.4%)となっている。



【家事・子育て・介護にかかる時間（性別）】



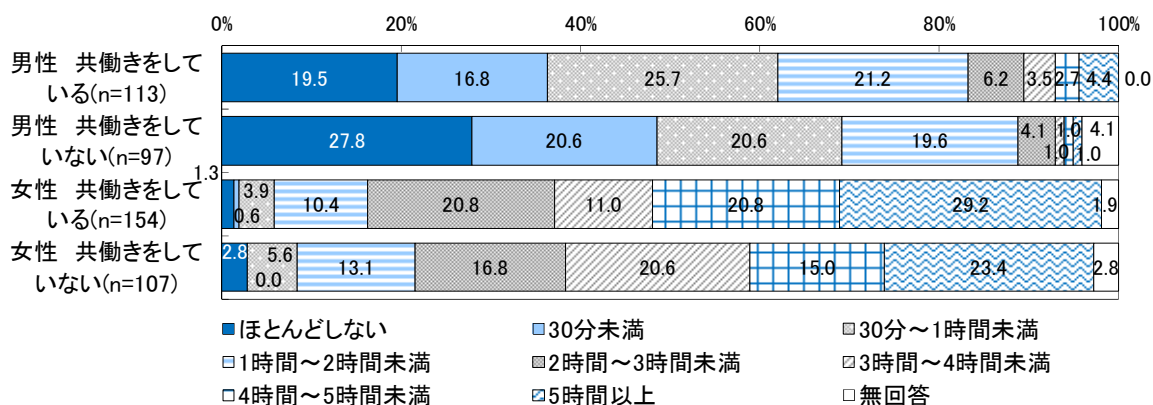
性別にみると、平日では、「ほとんどしない」と回答した人の割合は、男性で24.3%、女性で7.3%となっており、『2時間以上』と回答した人の割合は、男性で11.4%、女性で64.8%となっている。

休日では、「ほとんどしない」と回答した人の割合は、男性で18.6%、女性で6.5%となっており、『2時間以上』と回答した人の割合は、男性で29.3%、女性で66.1%となっている。

令和3年5・6月の緊急事態宣言中の平日では、「ほとんどしない」と回答した人の割合は、男性で20.9%、女性で6.5%となっており、『2時間以上』と回答した人の割合は、男性で15.2%、女性で64.8%となっている。

【家事・子育て・介護にかかる時間（性・共働きの状況別）】

（平日）

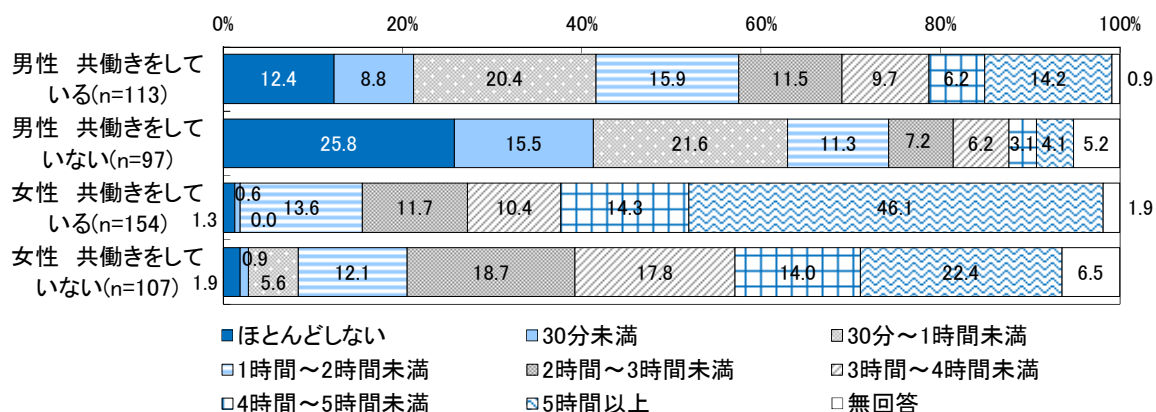


性・共働きの状況別にみると、平日では、男性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で16.8%、共働きをしていない層で7.1%となっている。

一方、女性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で81.8%、共働きをしていない層で75.8%であり、共働きの状況にかかわらず7割を超えている。

【家事・子育て・介護にかかる時間（性・共働きの状況別）】

（休日）

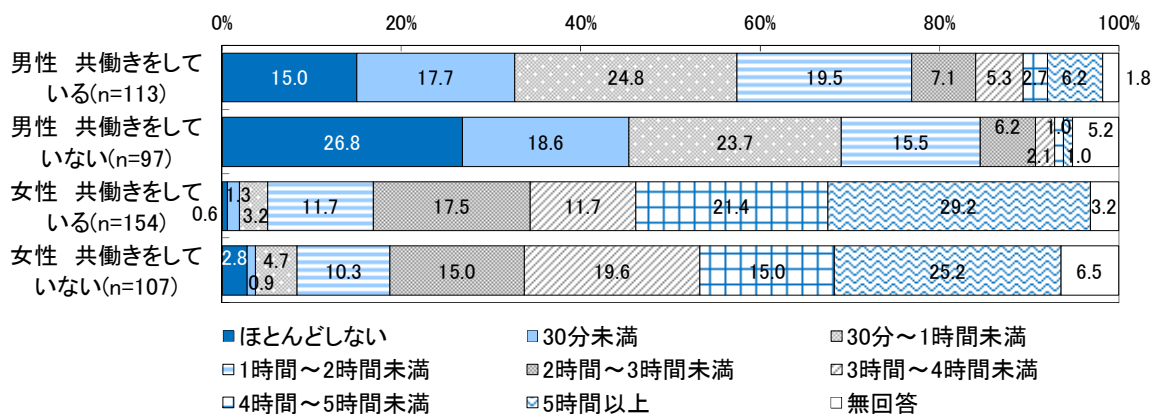


性・共働きの状況別にみると、休日では、男性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で41.6%、共働きをしていない層で20.6%となっている。

一方、女性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で82.5%、共働きをしていない層で72.9%であり、共働きの状況にかかわらず7割を超えており、「5時間以上」と回答した人の割合は、共働きをしている層でも4割を超えて平日よりも高くなっている。

【家事・子育て・介護にかかる時間（性・共働きの状況別）】

（令和3年5・6月の緊急事態宣言中の平日）



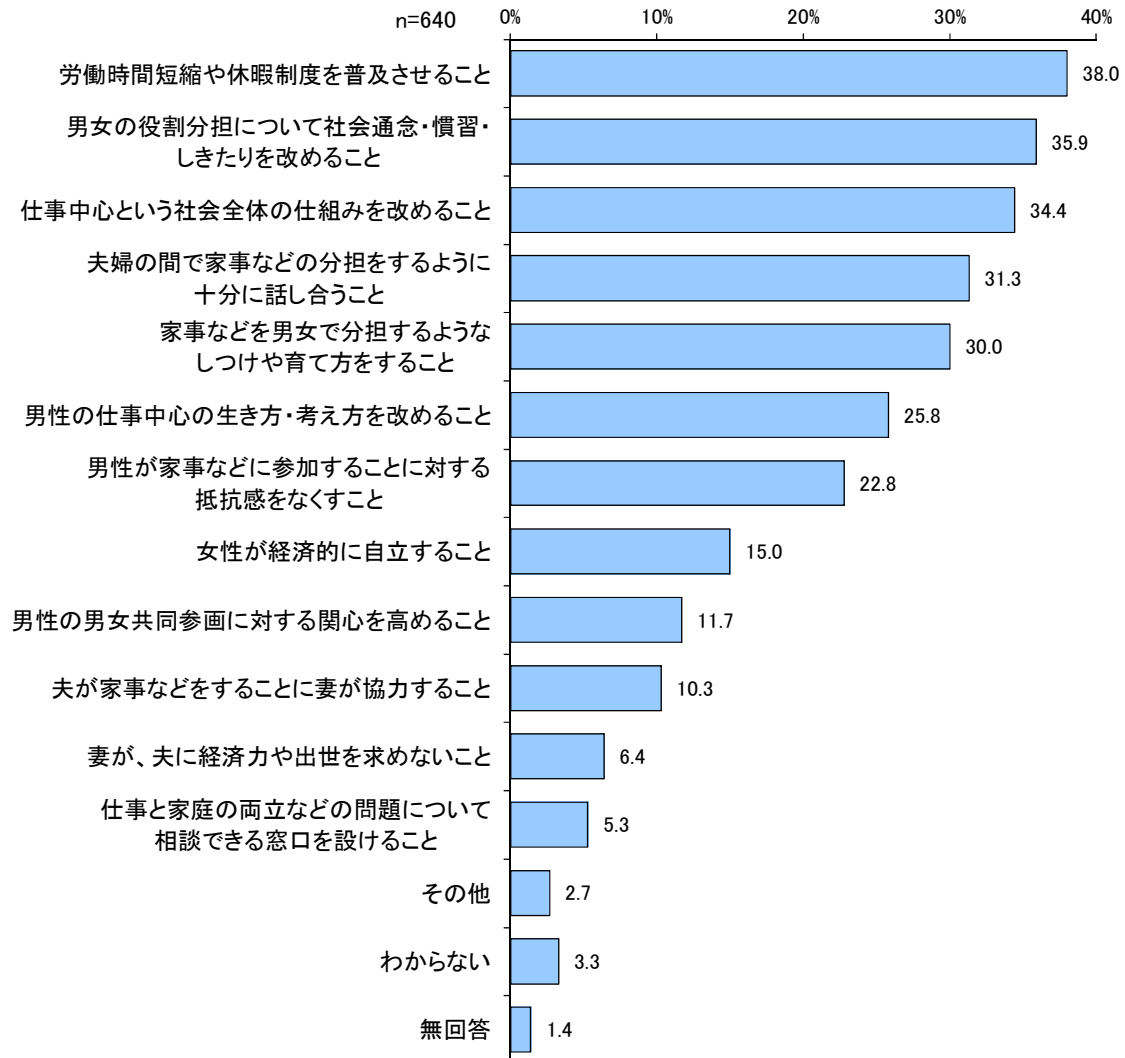
性・共働きの状況別にみると、令和3年5・6月の緊急事態宣言中の平日では、男性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で21.3%、共働きをしていない層で10.3%となっている。

一方、女性で『2時間以上』と回答した人の割合は、共働きをしている層で79.8%、共働きをしていない層で74.8%であり、共働きの状況にかかわらず7割を超えている。

(3) 男女がともに家事等に積極的に参加するために必要だと思うこと

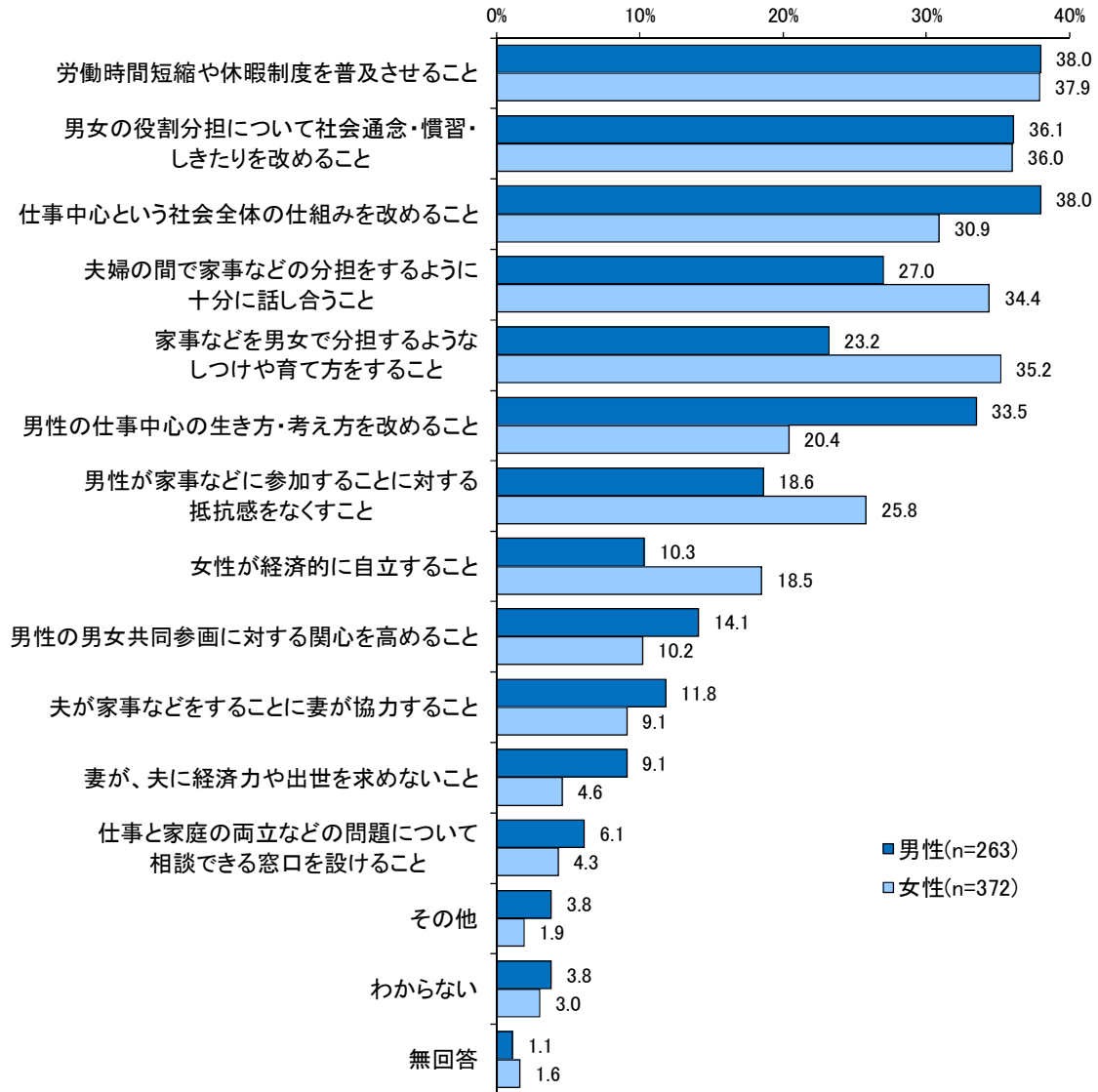
問 11 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

【男女がともに家事等に積極的に参加するために必要だと思うこと】



男女がともに家事等に積極的に参加するために必要だと思うことについて、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」と回答した人の割合が 38.0%と最も高く、「男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりを改めること」(35.9%)、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(34.4%)、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」(31.3%)、「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」(30.0%)が続いている。

【男女がともに家事等に積極的に参加するために必要だと思うこと（性別）】



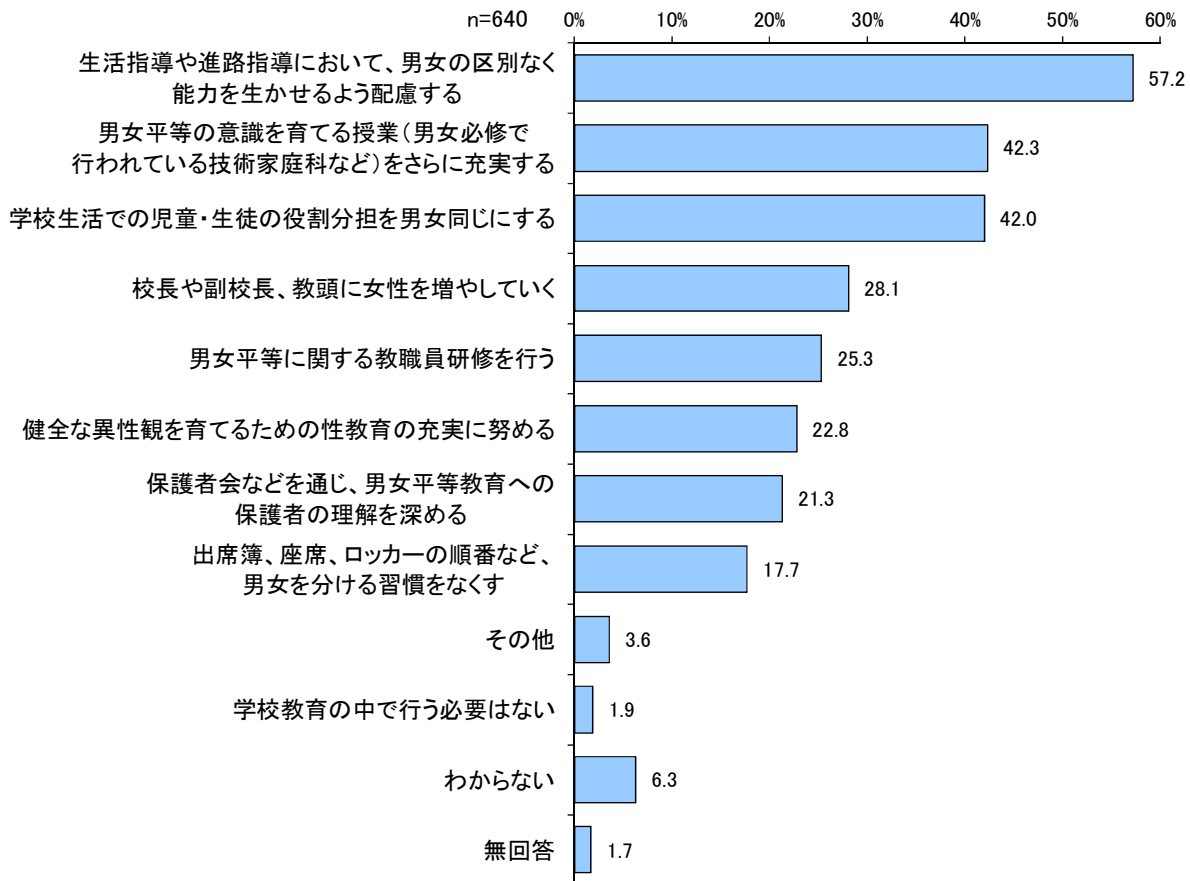
性別にみると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」、「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」と回答した人の割合は、女性で3割台半ばとなっている。

「男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること」と回答した人の割合は、男性で3割台前半となっている。

#### 4 男女平等を推進していくための学校教育

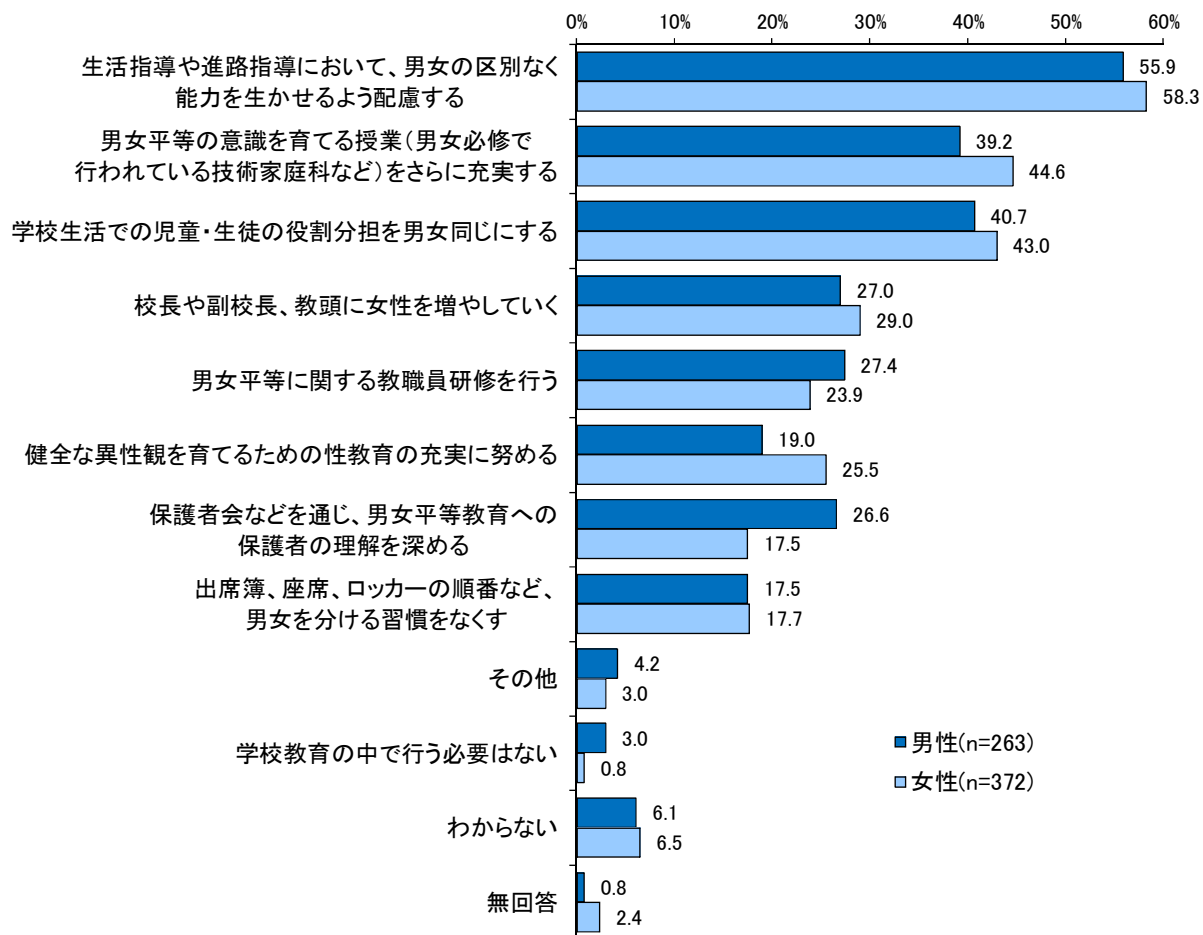
問 12 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

【男女平等を推進していくために行うとよい学校教育】



男女平等を推進していくために行うとよい学校教育について、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」と回答した人の割合が 57.2%と最も高く、「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する」(42.3%)、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」(42.0%)が続いている。

### 【男女平等を推進していくために行うとよい学校教育（性別）】



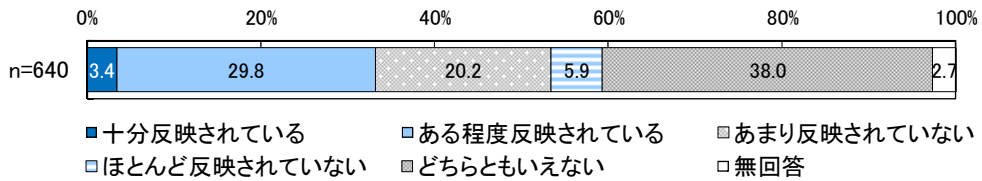
性別にみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」と回答した人の割合は、男女ともに5割台となっている。

## 5 様々な場での方針決定過程への男女の参画について

### (1) 早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度

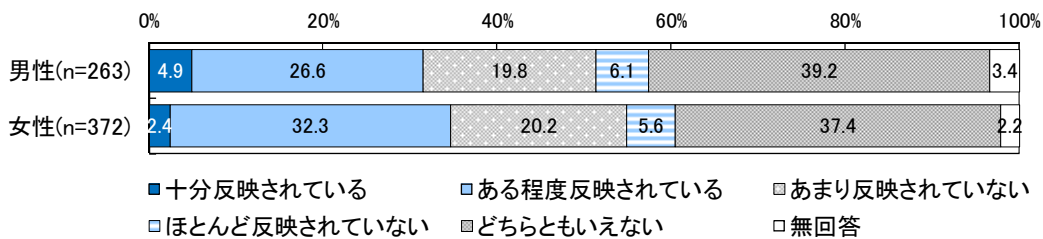
問 13 あなたは、早島町の施策やまちづくりについて、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。(○は1つ)

【早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度】



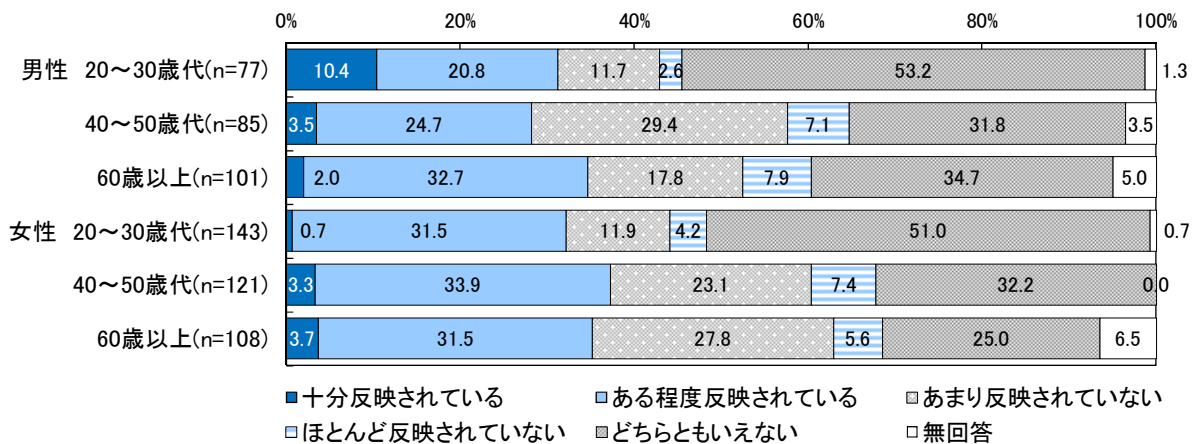
早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度について、『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）と回答した人の割合が 33.2%、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）と回答した人の割合が 26.1% となっている。

【早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度（性別）】



性別にみると、大きな差はみられない。

【早島町の施策等に関する女性意見の反映の程度（性・年齢別）】



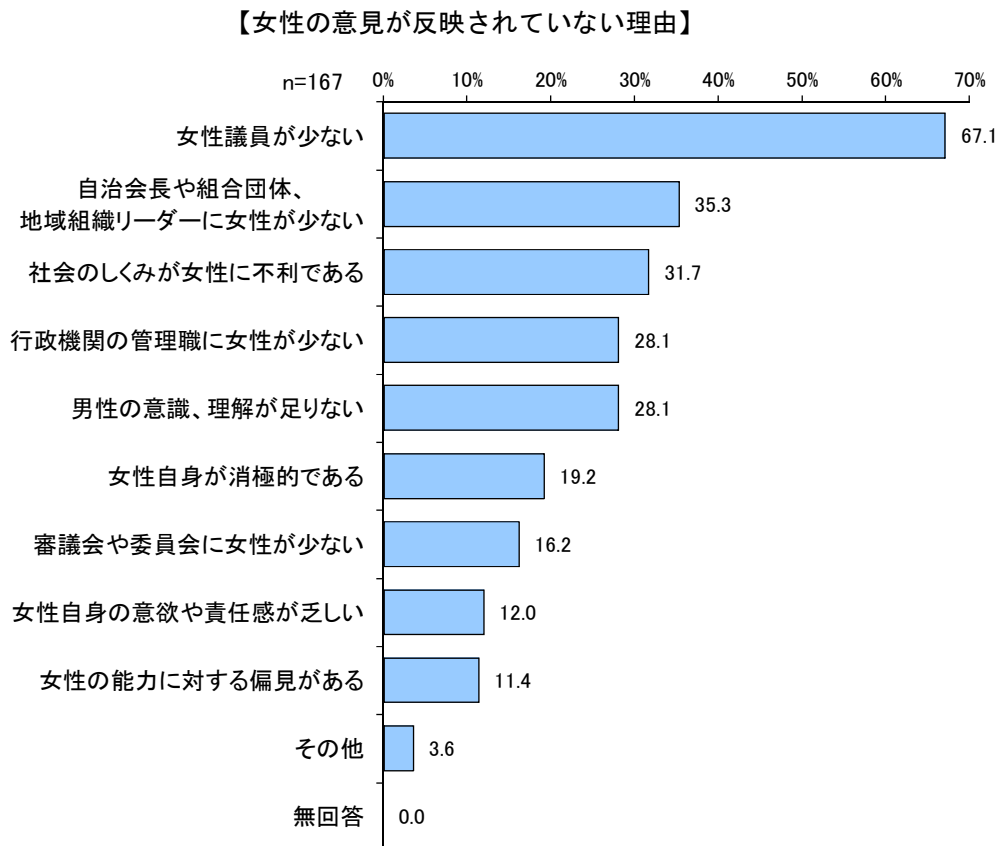
性・年齢別にみると、『反映されている』と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代を除いた年齢層で 3 割を超えている。



(2) 女性の意見が反映されていない理由

問 13 で「3 あまり反映されていない」「4 ほとんど反映されていない」と回答した人のみ回答

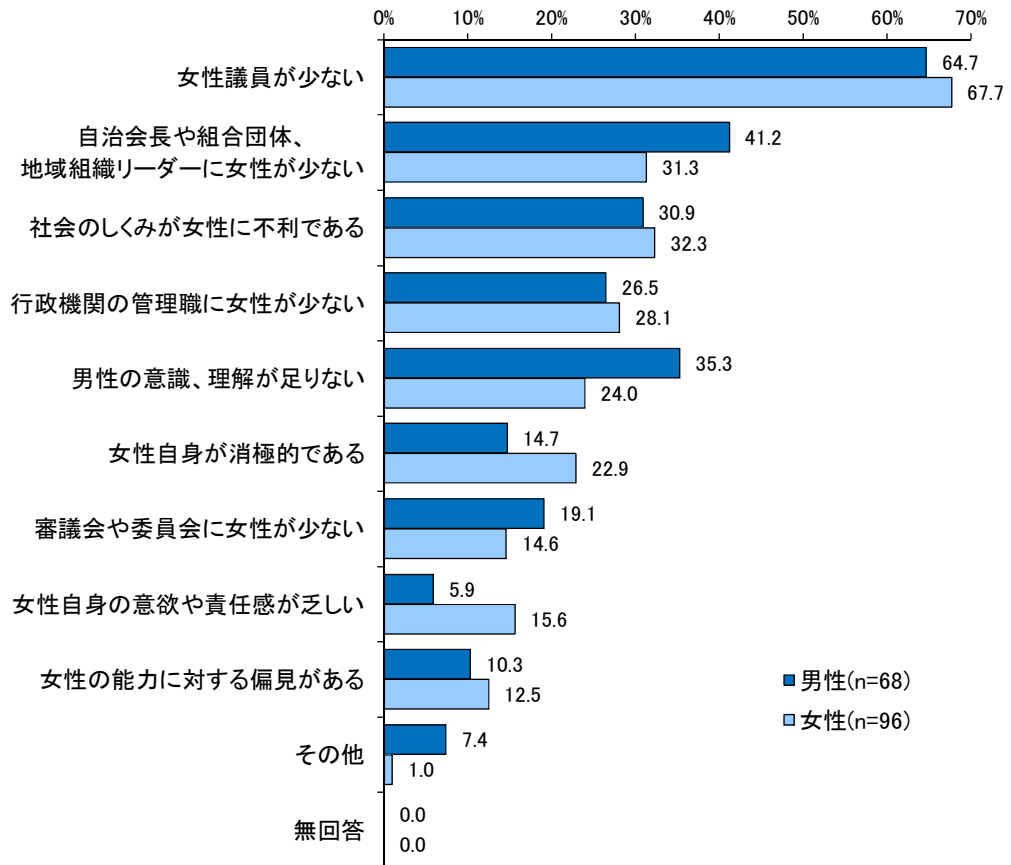
問 13-1 反映されていない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)



女性の意見が反映されていない理由について、「女性議員が少ない」と回答した人の割合が67.1%と最も高く、「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」(35.3%)、「社会のしくみが女性に不利である」(31.7%)が続いている。



【女性の意見が反映されていない理由（性別）】

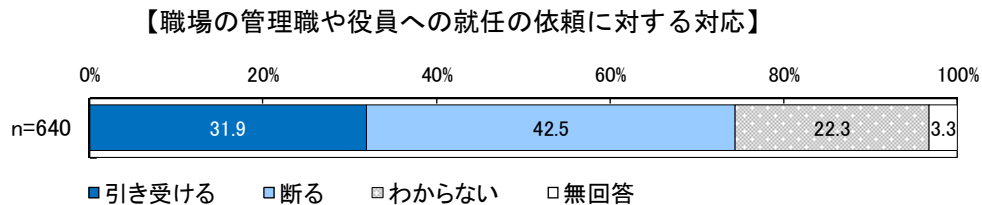


性別にみると、「女性議員が少ない」と回答した人の割合は、男女ともに6割台となっている。

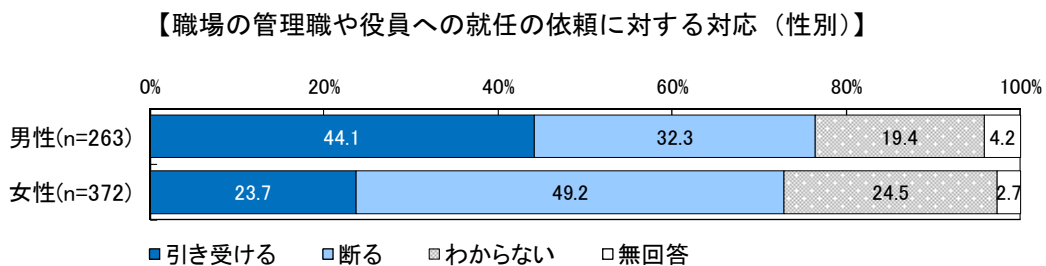
(3) 役職への就任や公職への立候補依頼に対する対応

問 14 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか。  
(○はそれぞれ1つ)

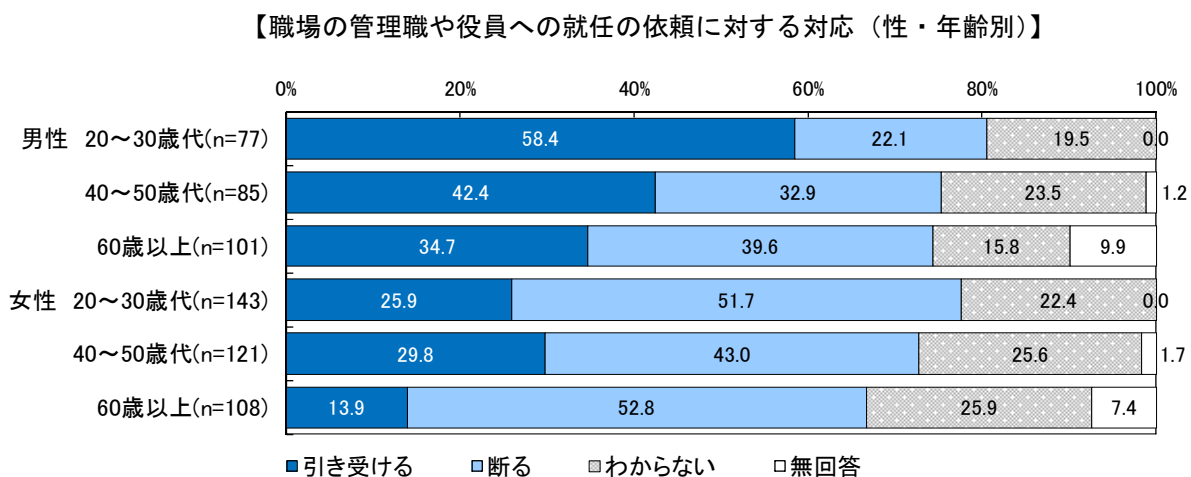
<①職場の管理職や役員>



職場の管理職や役員への就任の依頼に対する対応について、「引き受ける」と回答した人の割合が31.9%、「断る」と回答した人の割合が42.5%となっている。

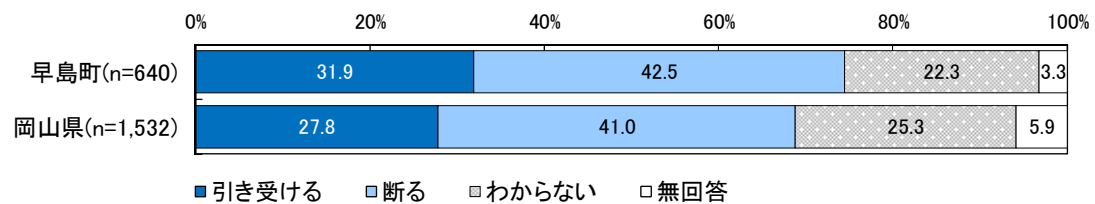


性別にみると、「引き受ける」と回答した人の割合は、男性で4割台半ばとなっている。また、「断る」と回答した人の割合は、女性で約5割となっている。



性・年齢別にみると、「引き受ける」と回答した人の割合は、男性20～30歳代で5割台後半となっている。

【職場の管理職や役員への就任の依頼に対する対応（岡山県調査結果との比較）】

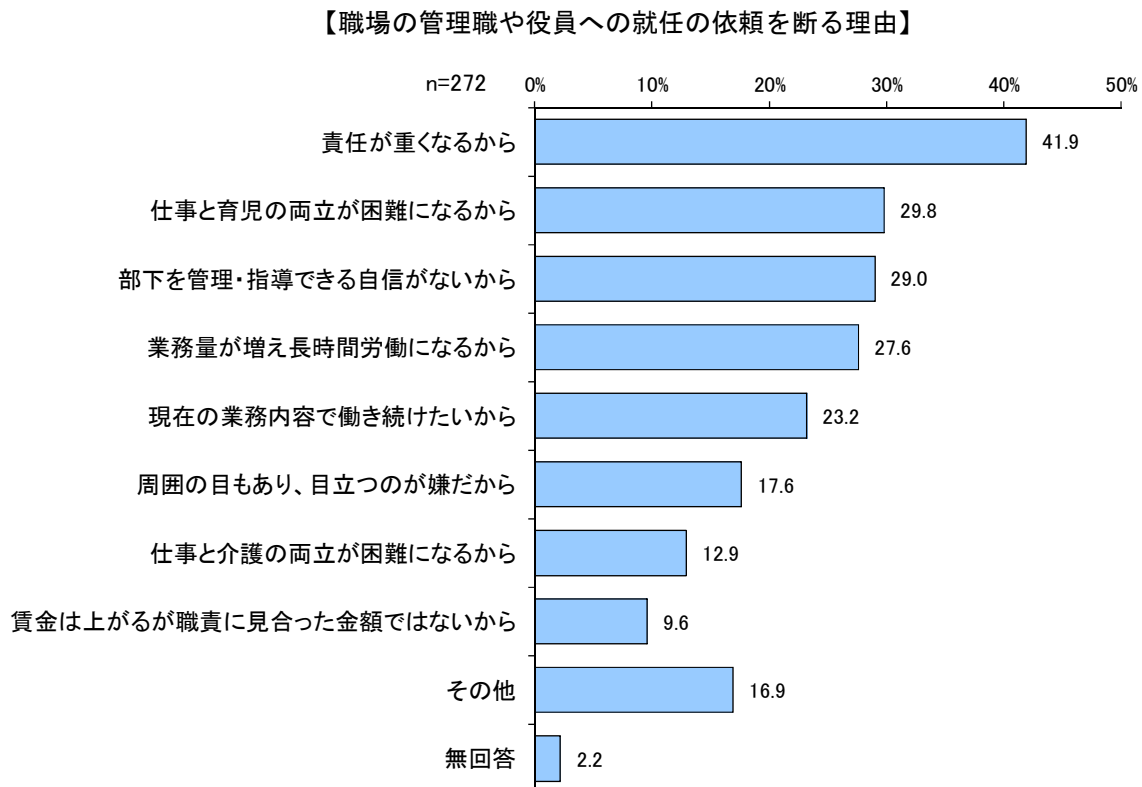


\* 岡山県:令和元年度

岡山県調査結果と比較すると、大きな差はみられない。

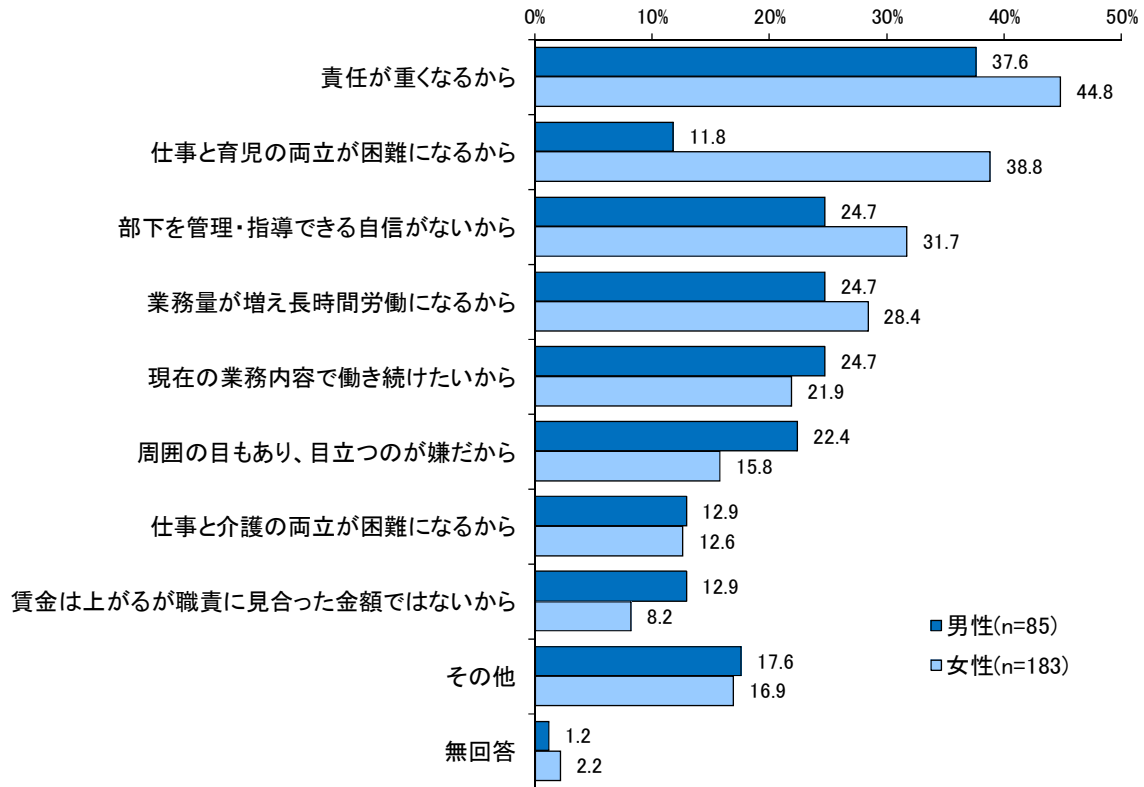
問 14①で「2 断る」と回答した人のみ回答

問 14-1 断る理由は何ですか。(〇はいくつでも)



職場の管理職や役員への就任の依頼を断る理由について、「責任が重くなるから」と回答した人の割合が 41.9%と最も高く、「仕事と育児の両立が困難になるから」(29.8%)、「部下を管理・指導できる自信がないから」(29.0%)、「業務量が増え長時間労働になるから」(27.6%)が続いている。

【職場の管理職や役員への就任の依頼を断る理由（性別）】



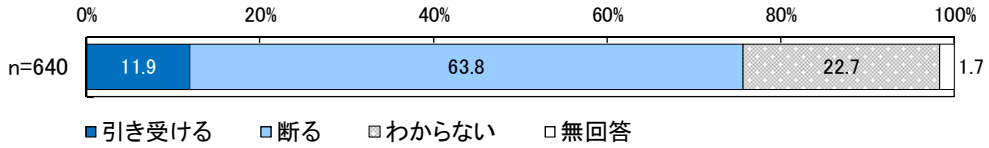
性別にみると、「責任が重くなるから」と回答した人の割合は、男性で3割台後半、女性で4割台半ばとなっている。

「仕事と育児の両立が困難になるから」と回答した人の割合は、女性で3割台後半となっている。

問 14 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか。  
(○はそれぞれ1つ)

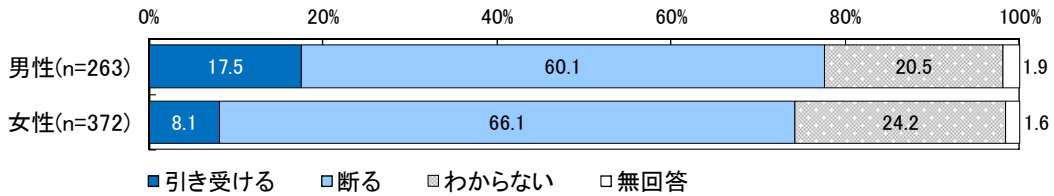
<②自治会長、町内会長>

【自治会長、町内会長への就任の依頼に対する対応】



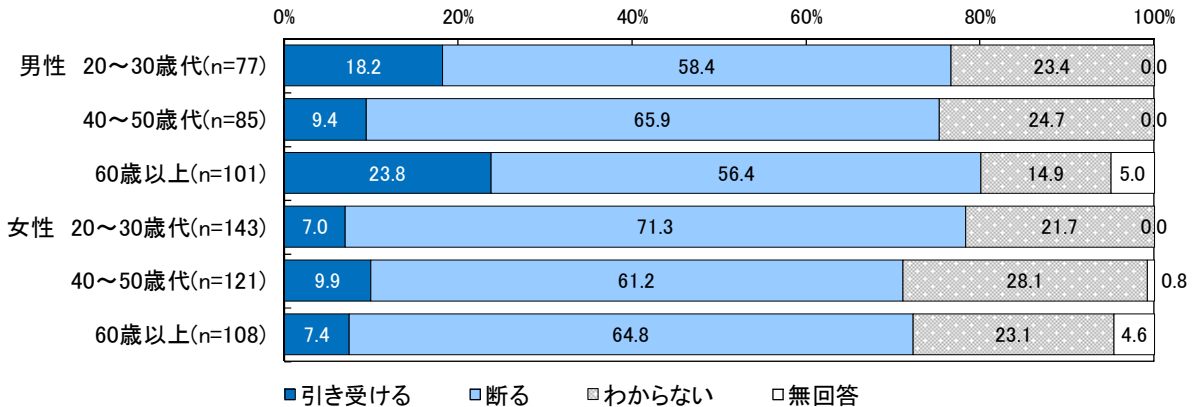
自治会長、町内会長への就任の依頼に対する対応について、「引き受ける」と回答した人の割合が 11.9%、「断る」と回答した人の割合が 63.8%となっている。

【自治会長、町内会長への就任の依頼に対する対応（性別）】



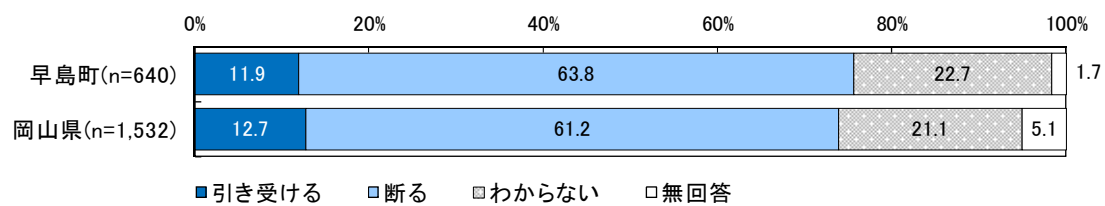
性別にみると、「引き受ける」と回答した人の割合は、男性で1割台後半となっている。

【自治会長、町内会長への就任の依頼に対する対応（性・年齢別）】



性・年齢別にみると、「引き受ける」と回答した人の割合は、男性 60 歳以上で 2 割を超えている。

【自治会長、町内会長への就任の依頼に対する対応（岡山県調査結果との比較）】



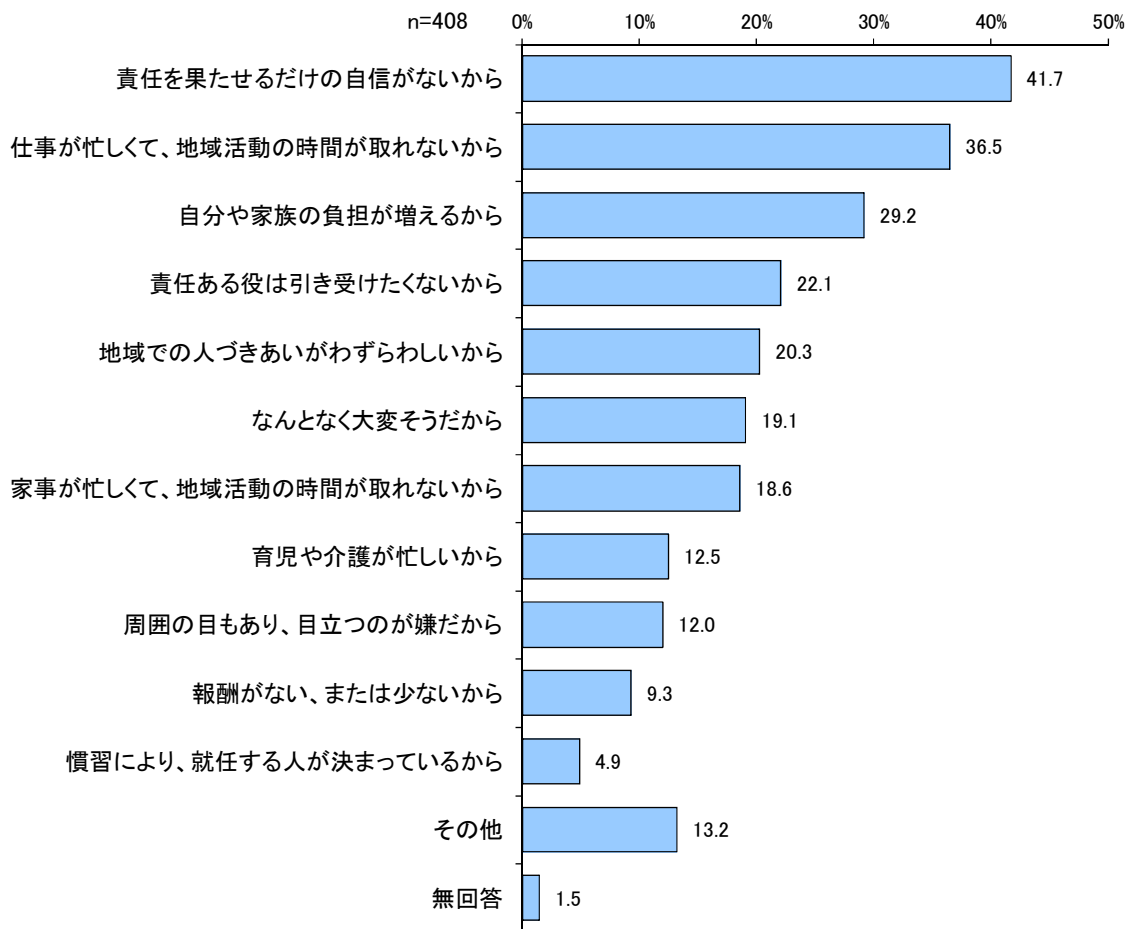
\* 岡山県:令和元年度

岡山県調査結果と比較すると、大きな差はみられない。

問 14②で「2 断る」と回答した人のみ回答

問 14-1 断る理由は何ですか。(〇はいくつでも)

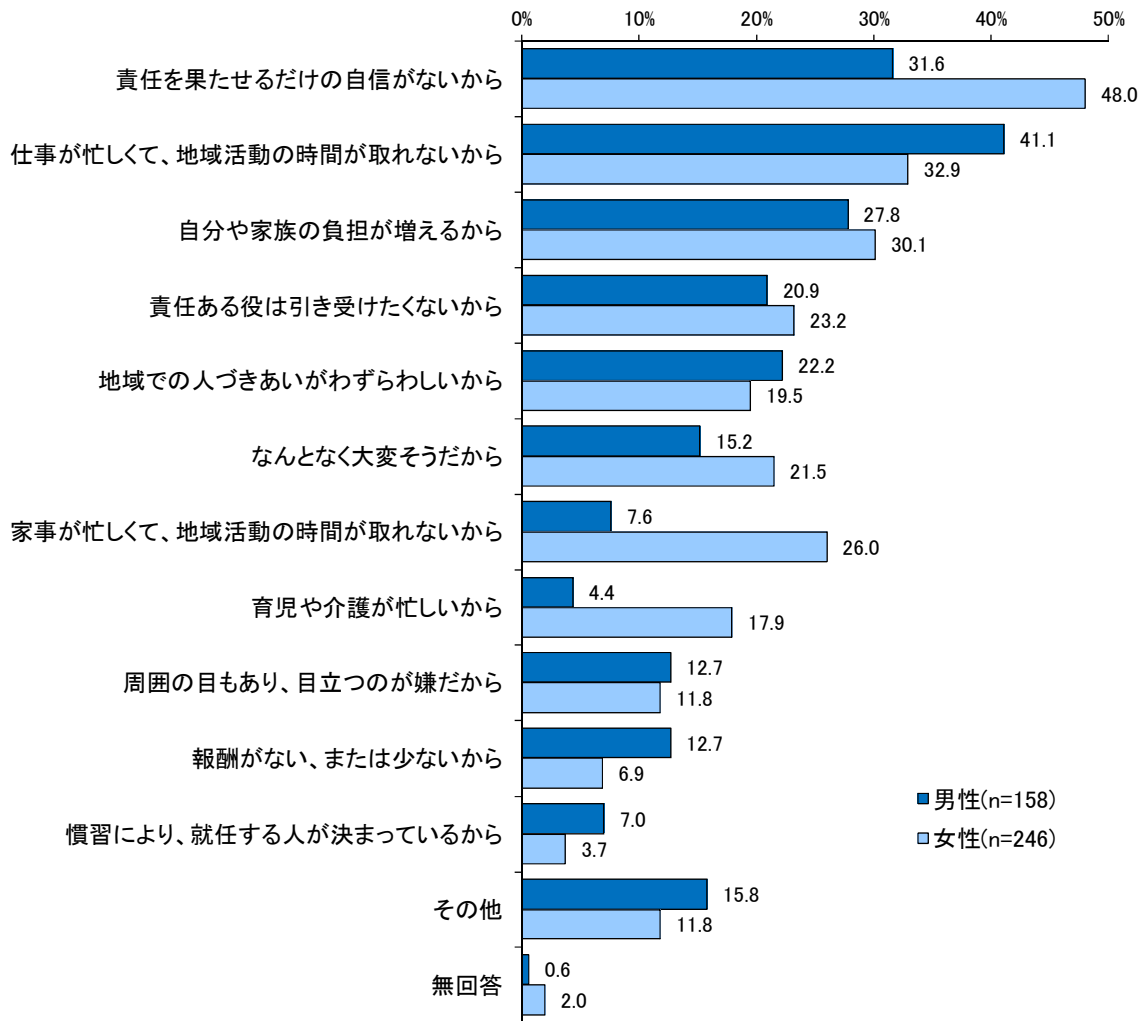
【自治会長、町内会長への就任の依頼を断る理由】



自治会長、町内会長への就任の依頼を断る理由について、「責任を果たせるだけの自信がないから」と回答した人の割合が 41.7%と最も高く、「仕事が忙しくて、地域活動の時間が取れないから」(36.5%)、「自分や家族の負担が増えるから」(29.2%)が続いている。



【自治会長、町内会長への就任の依頼を断る理由（性別）】



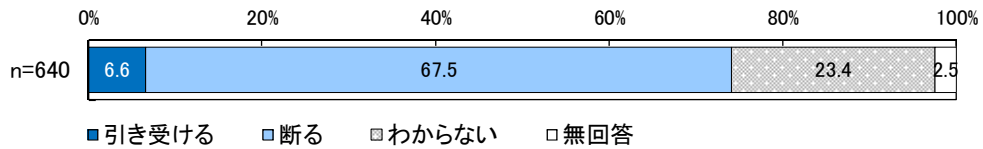
性別にみると、「責任を果たせるだけの自信がないから」と回答した人の割合は、女性で4割台後半となっている。

「仕事が忙しくて、地域活動の時間が取れないから」と回答した人の割合は、男性で4割台前半となっている。

問 14 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか。  
(○はそれぞれ1つ)

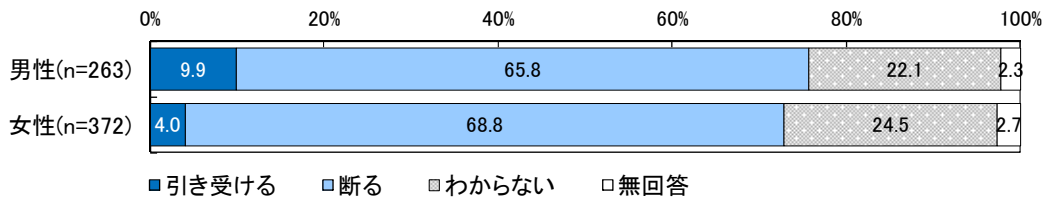
<③町長・町議会の議員>

【町長・町議会の議員への立候補の依頼に対する対応】



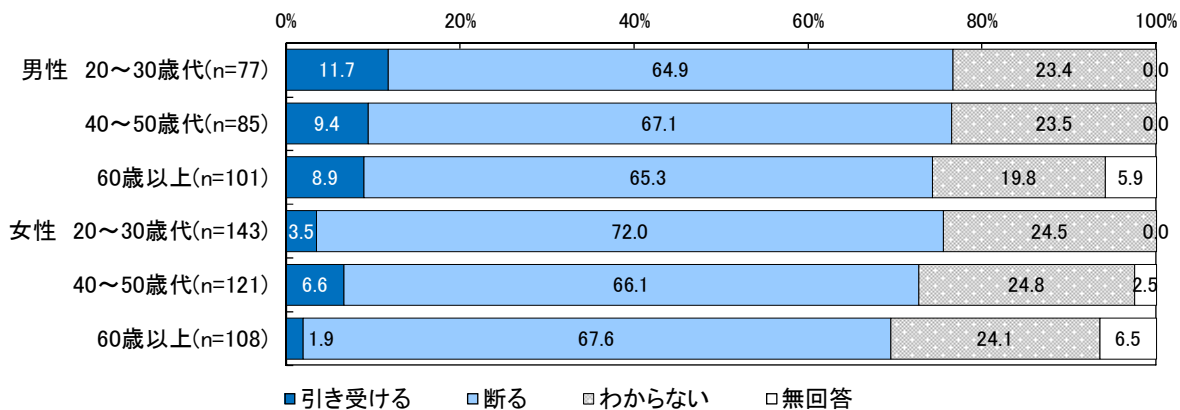
町長・町議会の議員への立候補の依頼に対する対応について、「引き受ける」と回答した人の割合が6.6%、「断る」と回答した人の割合が67.5%となっている。

【町長・町議会の議員への立候補の依頼に対する対応（性別）】



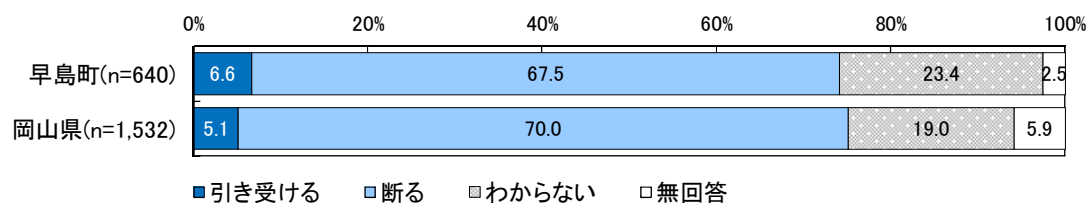
性別にみると、大きな差はみられない。

【町長・町議会の議員への立候補の依頼に対する対応（性・年齢別）】



性・年齢別にみると、「引き受ける」と回答した人の割合は、いずれの年齢層もわずかとなっている。

【町長・町議会の議員への立候補の依頼に対する対応（岡山県調査結果との比較）】

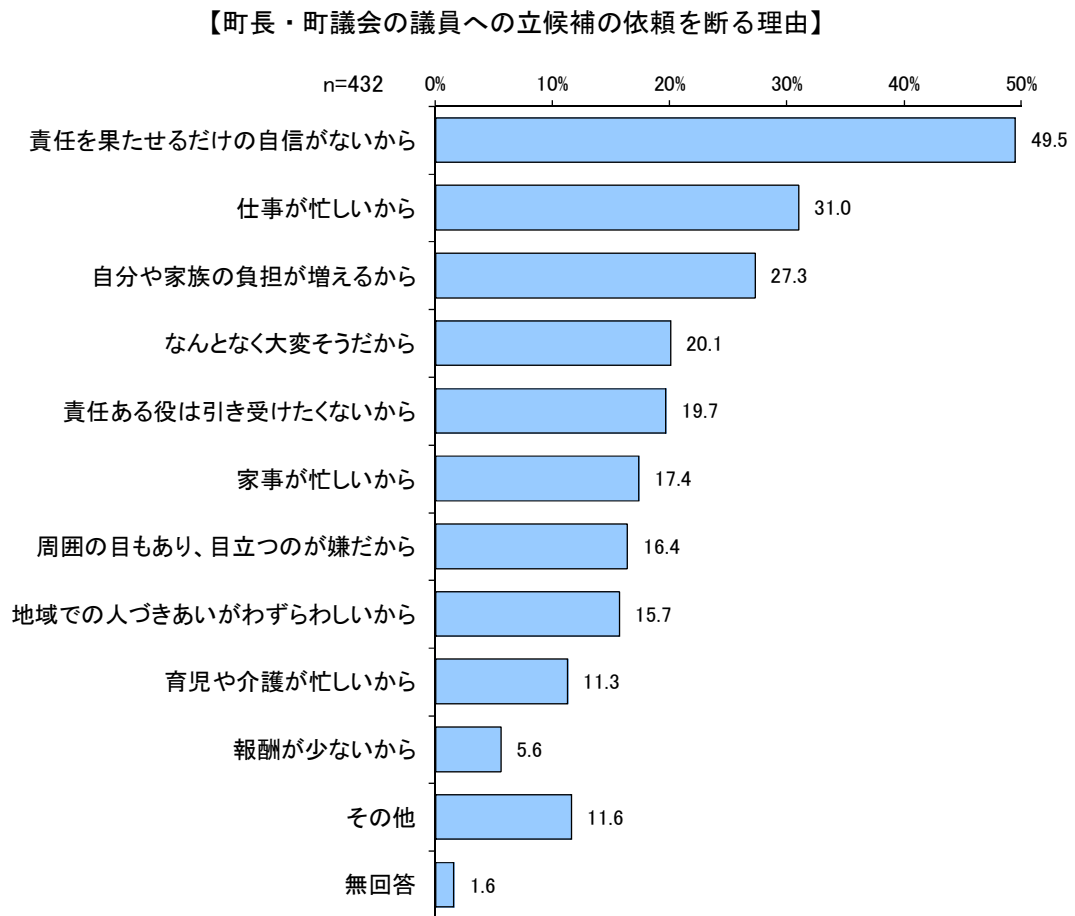


\* 岡山県:令和元年度

岡山県調査結果と比較すると、大きな差はみられない。

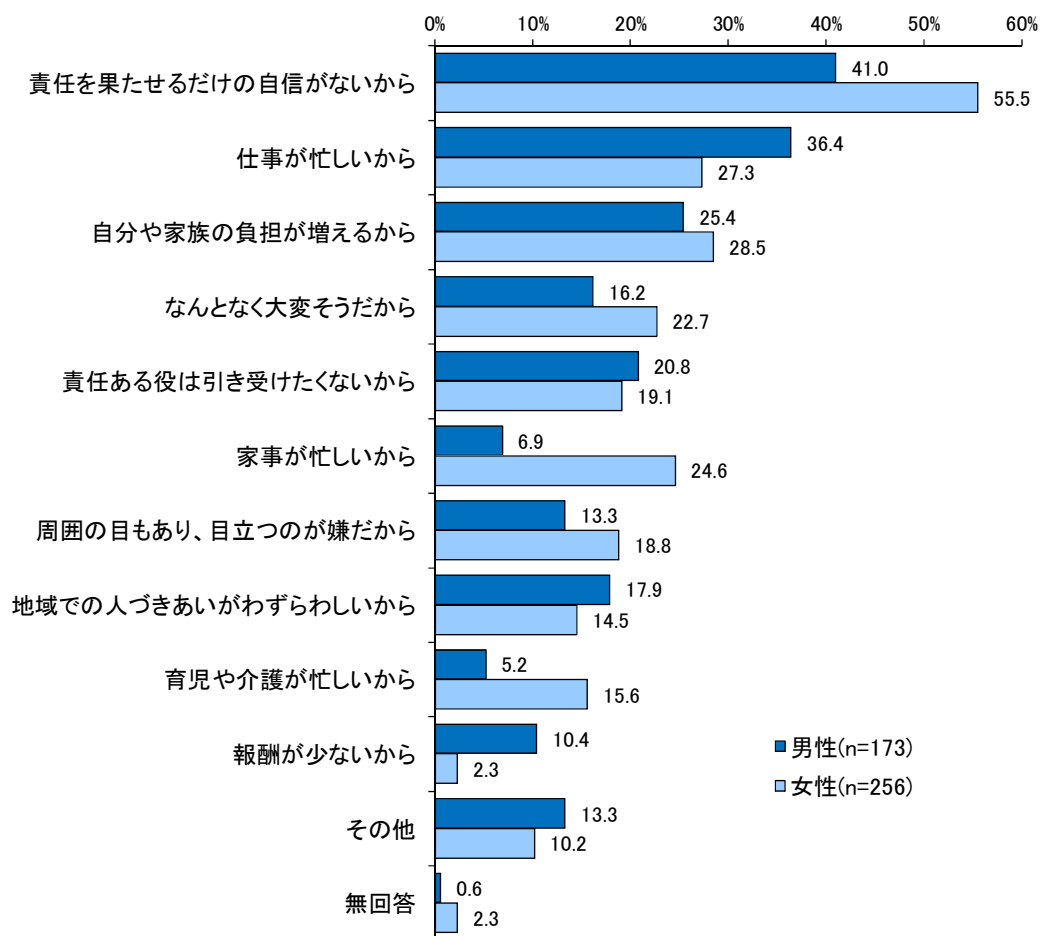
問 14③で「2 断る」と回答した人のみ回答

問 14-1 断る理由は何ですか。(〇はいくつでも)



町長・町議会の議員への立候補の依頼を断る理由について、「責任を果たせるだけの自信がないから」と回答した人の割合が 49.5%と最も高く、「仕事が忙しいから」(31.0%)、「自分や家族の負担が増えるから」(27.3%)が続いている。

【町長・町議会の議員への立候補の依頼を断る理由（性別）】



性別にみると、「責任を果たせるだけの自信がないから」と回答した人の割合は、男性で4割台前半、女性で5割台半ばとなっている。

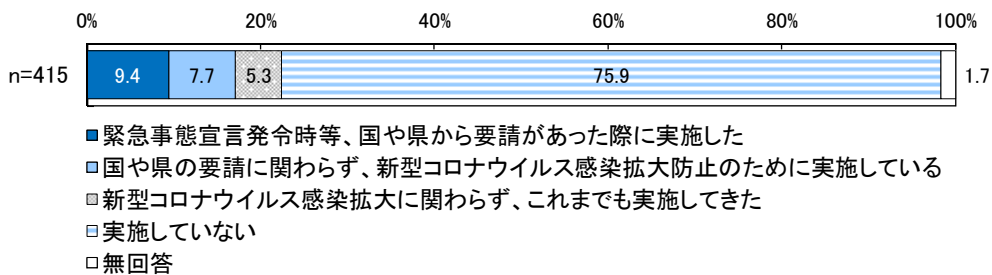
## 6 職業生活について

### (1) テレワーク（在宅勤務等）の実施状況

就労している人のみ回答

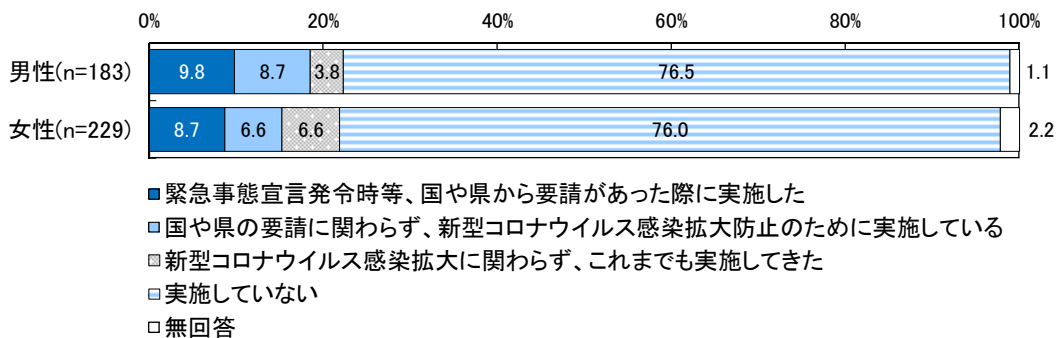
問3-2 あなたの職場ではテレワーク（在宅勤務等）を実施していますか（実施しましたか）。  
（○は1つ）

【テレワーク（在宅勤務等）の実施状況】



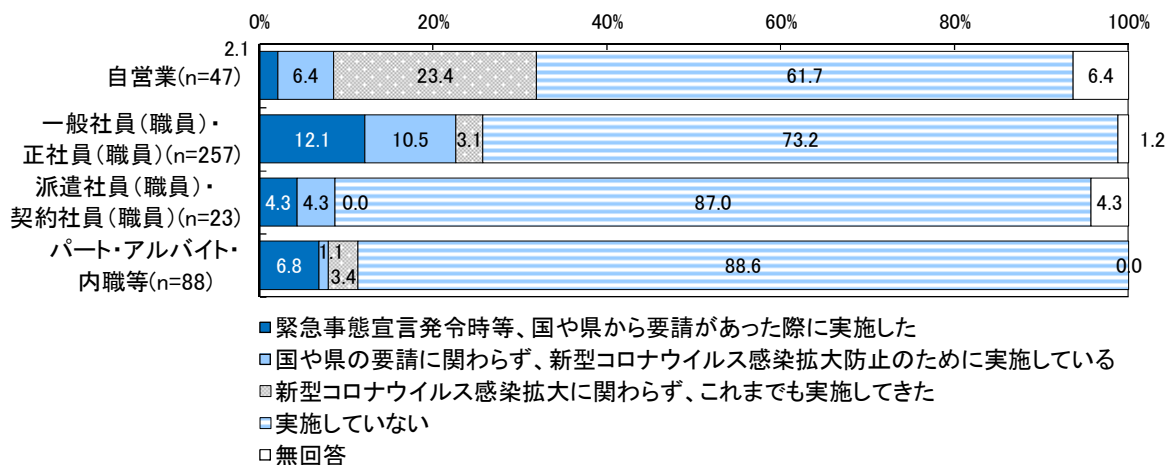
テレワーク（在宅勤務等）の実施状況について、『実施した（している）』と回答した人の割合が22.4%、「実施していない」と回答した人の割合が75.9%となっている。

【テレワーク（在宅勤務等）の実施状況（性別）】



性別にみると、大きな差はみられない。

【テレワーク（在宅勤務等）の実施状況（職業別）】

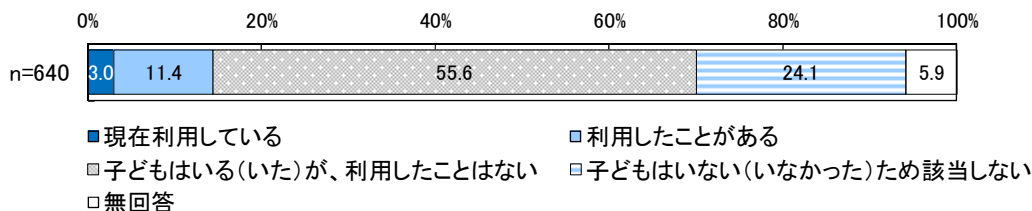


職業別にみると、「実施した（している）」と回答した人の割合は、「自営業」で3割台、「一般社員（職員）・正社員（職員）」で2割台となっているが、「派遣社員（職員）・契約社員（職員）」、「パート・アルバイト・内職等」では1割前後となっている。

(2) 育児休業制度・介護休業制度の利用状況

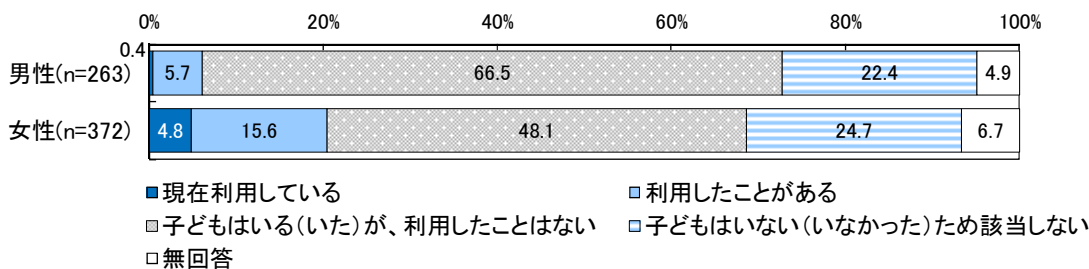
問 15 あなたは、育児休業制度、介護休業制度を利用したことがありますか。  
 (○はそれぞれ1つ)

【育児休業制度の利用状況】



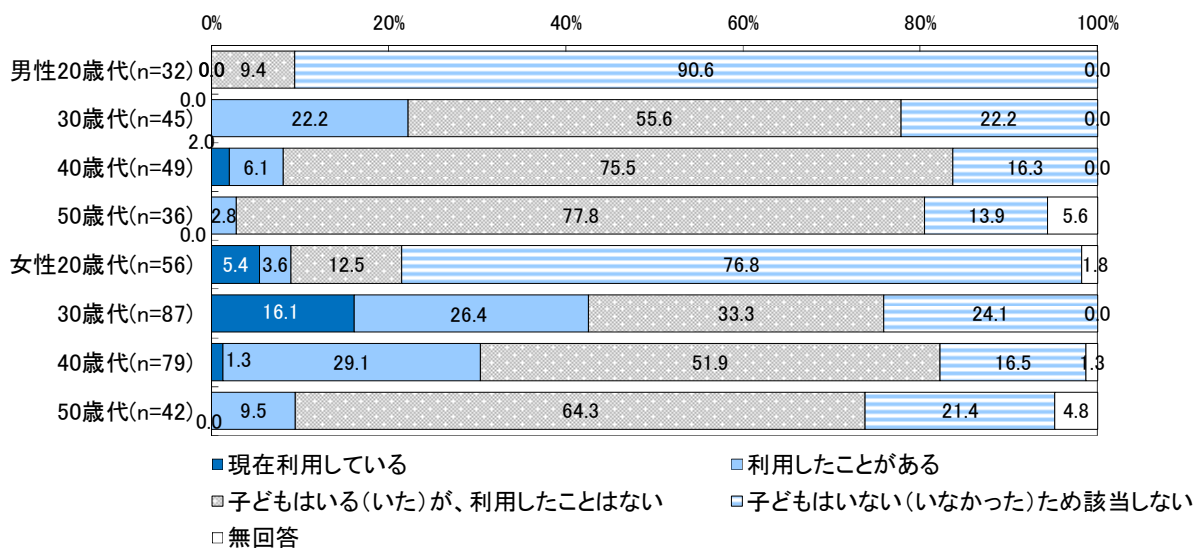
育児休業制度の利用状況について、『利用経験がある』（「現在利用している」＋「利用したことがある」）と回答した人の割合が 14.4% となっている。

【育児休業制度の利用状況（性別）】



性別にみると、『利用経験がある』と回答した人の割合は、男性で 6.1%、女性で 20.4% となっている。

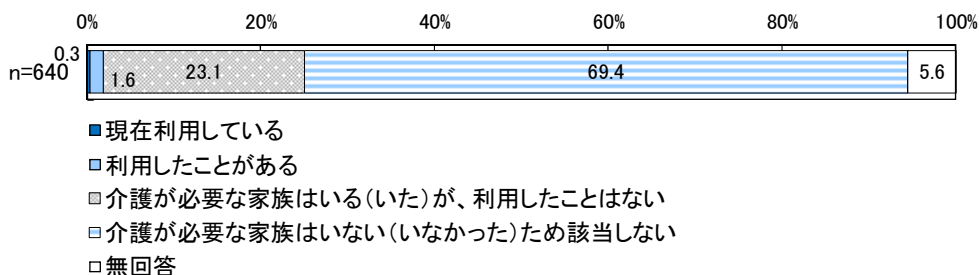
【育児休業制度の利用状況（性・年齢別）】



性・年齢別にみると、『利用経験がある』と回答した人の割合は、男性 20～30 歳代で 13.0% となっている。

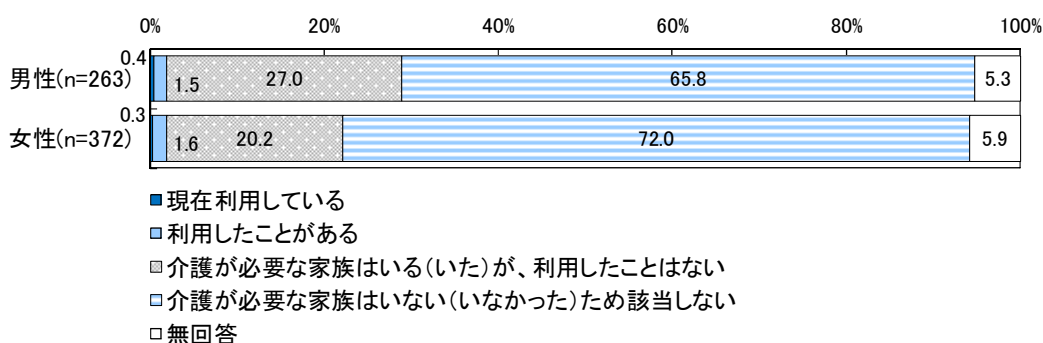


### 【介護休業制度の利用状況】



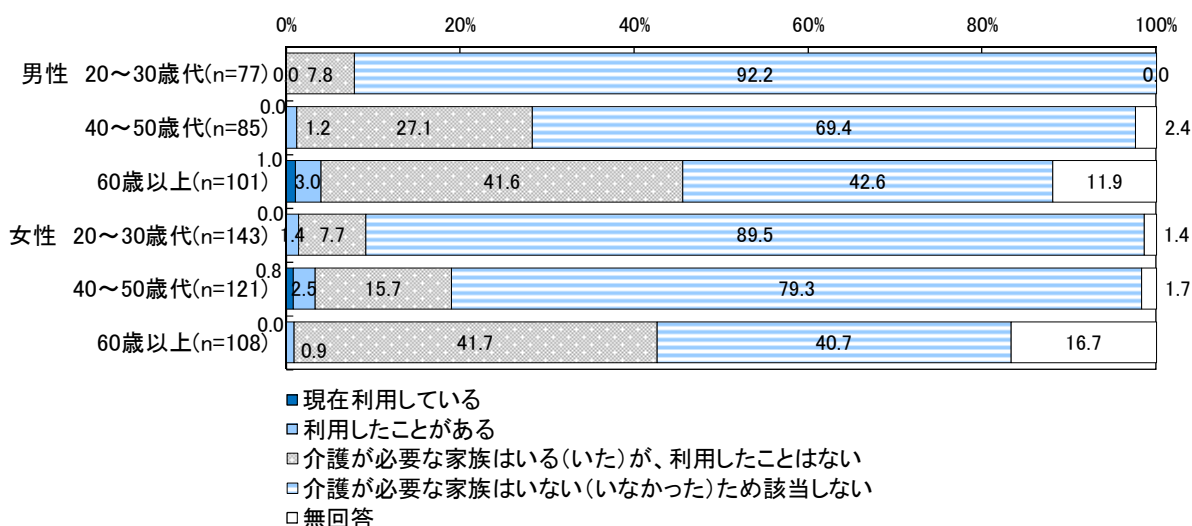
介護休業制度の利用状況について、『利用経験がある』と回答した人の割合が1.9%となっている。

### 【介護休業制度の利用状況(性別)】



性別にみると、『利用経験がある』と回答した人の割合は、男女ともに1.9%となっている。

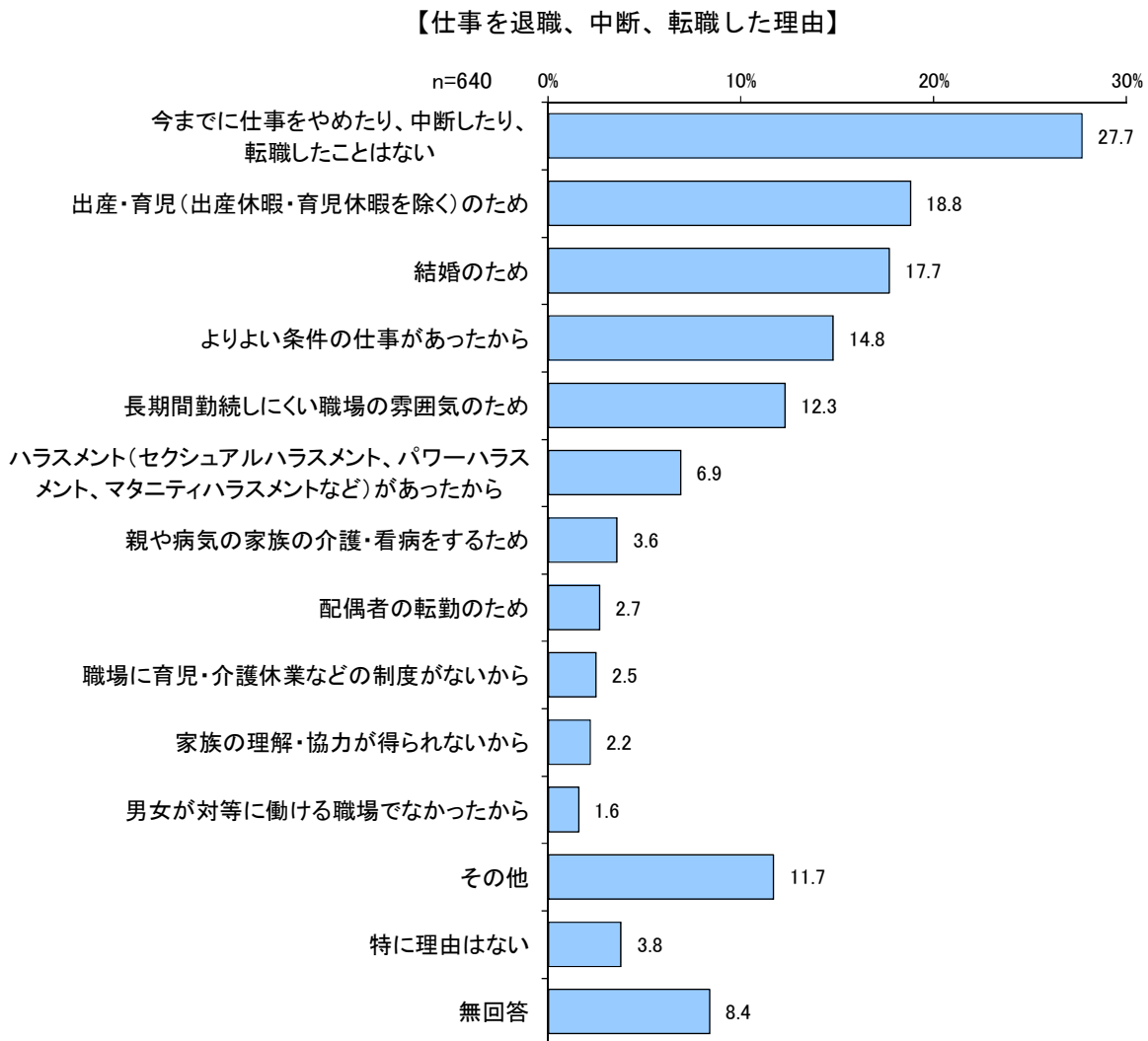
### 【介護休業制度の利用状況(性別)】



性・年齢別にみると、『利用経験がある』と回答した人の割合は、いずれの年齢層も1割に満たない。

(3) 仕事を退職、中断、転職した理由

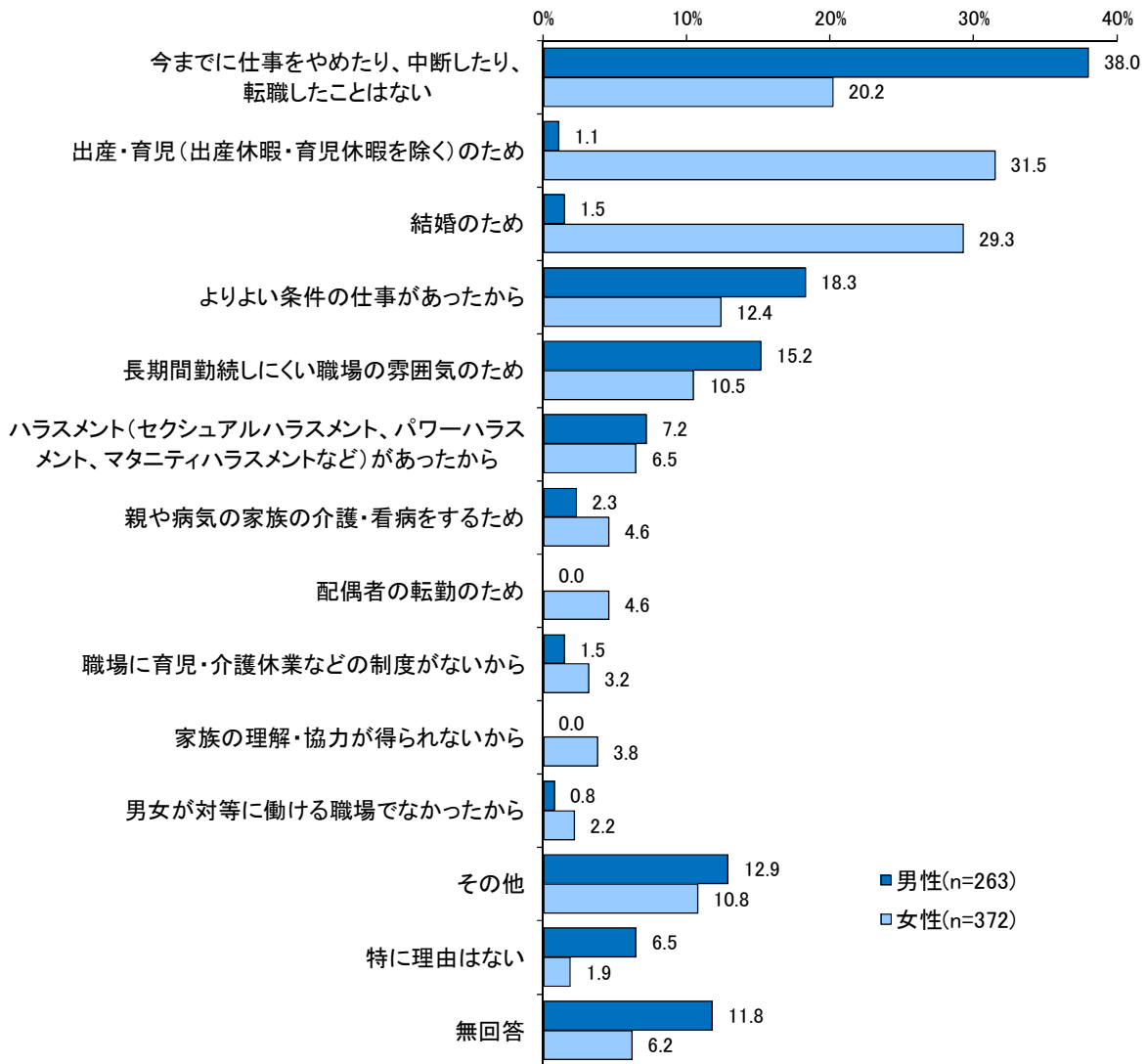
問 16 あなたは、仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職したことがありますか。あるとすれば、その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



仕事を退職、中断、転職した理由について、「出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため」と回答した人の割合が18.8%と最も高く、「結婚のため」(17.7%)、「よりよい条件の仕事があったから」(14.8%)、「長期間勤務しにくい職場の雰囲気のため」(12.3%)が続いている。

また、「今までに仕事をやめたり、中断したり、転職したことはない」と回答した人の割合が27.7%となっている。

【仕事を退職、中断、転職した理由（性別）】

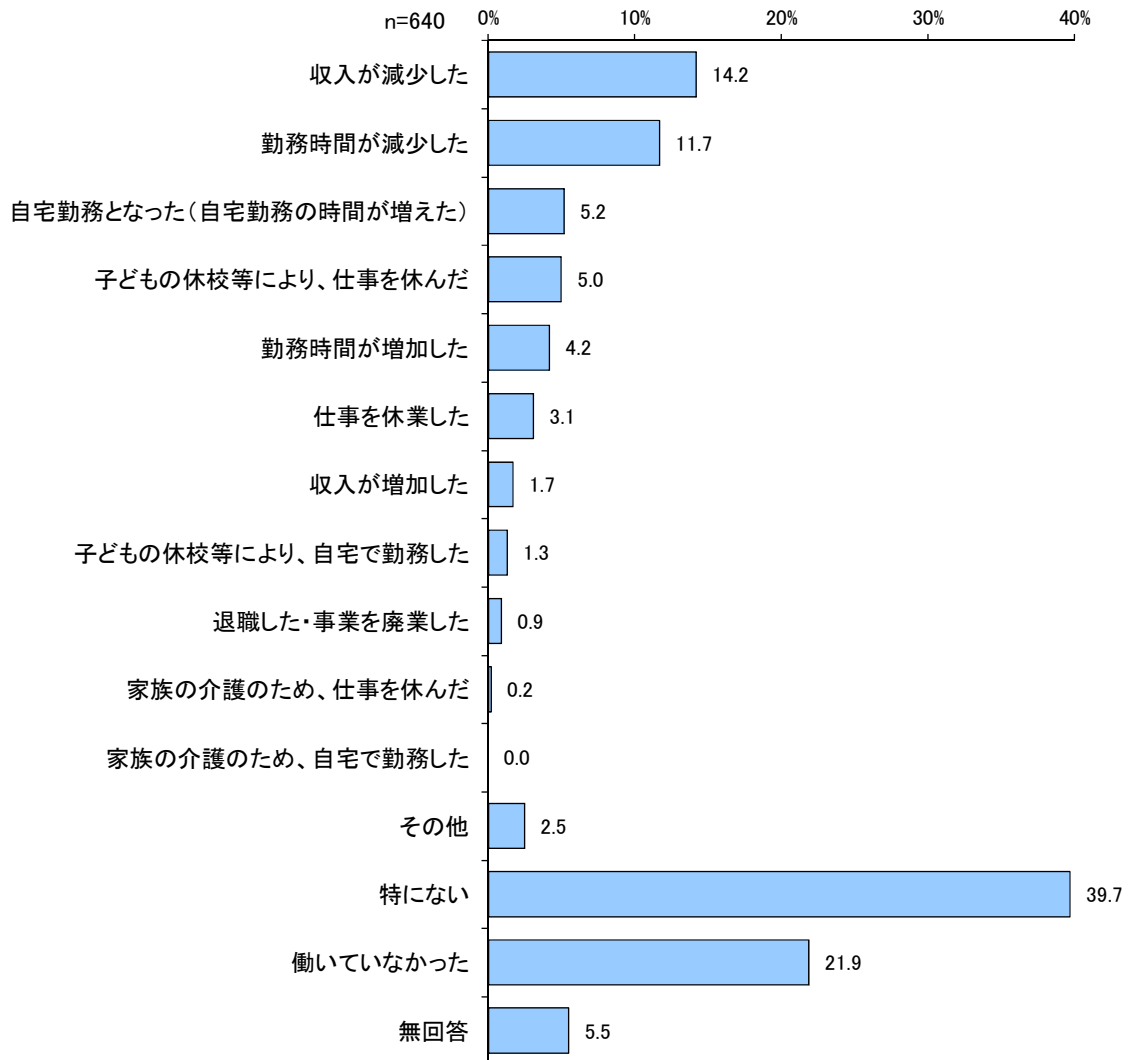


性別にみると、「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」、「結婚のため」と回答した人の割合は、女性で3割前後となっている。

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況への影響

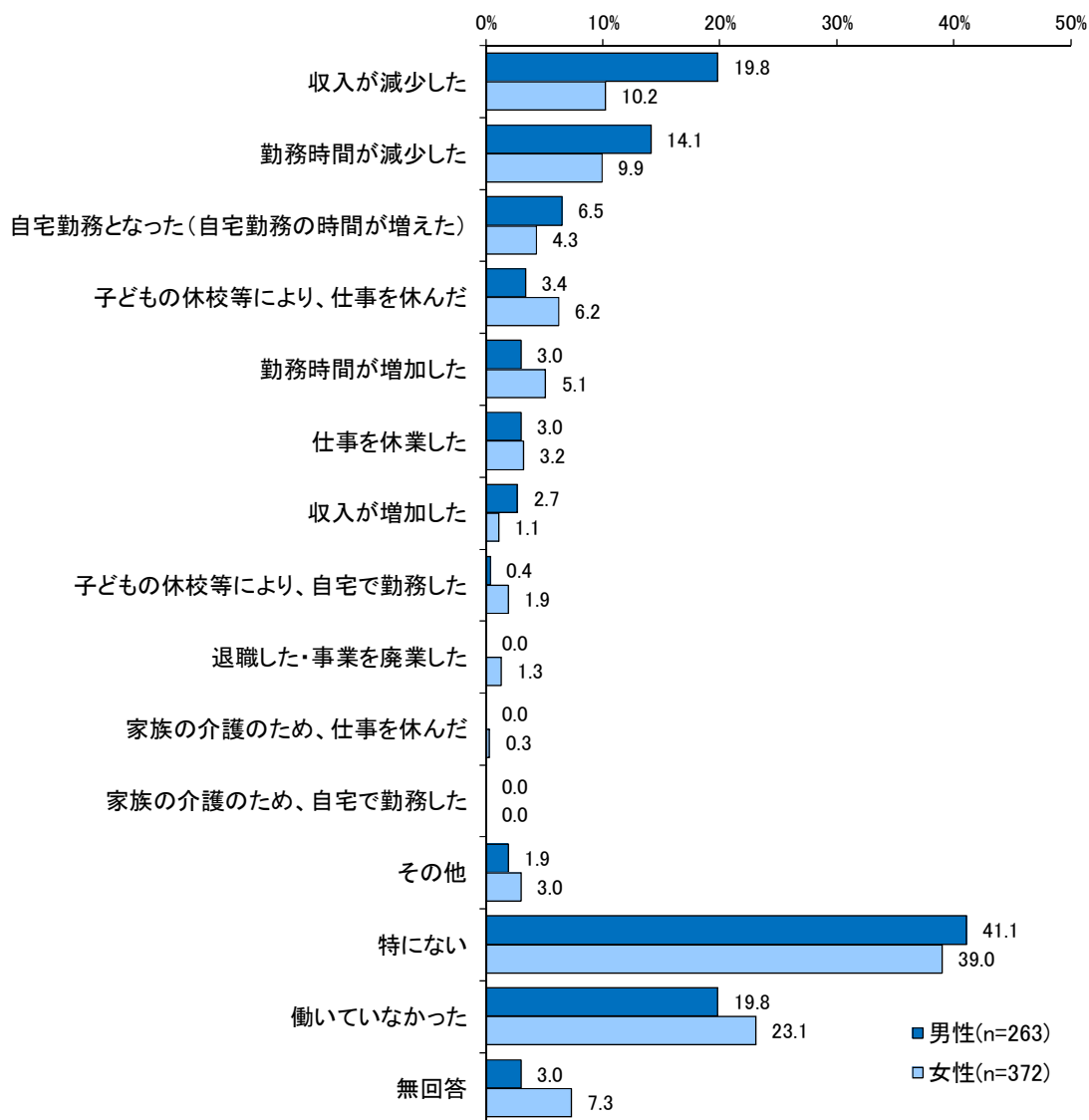
問 17 あなたは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、就労の状況について次のようなことがありましたか。(〇はいくつでも)

【新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況への影響】



新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況への影響について、「収入が減少した」と回答した人の割合が14.2%と最も高く、次いで「勤務時間が減少した」(11.7%)となっている。また、「特にない」と回答した人の割合が39.7%となっている。

【新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況への影響（性別）】

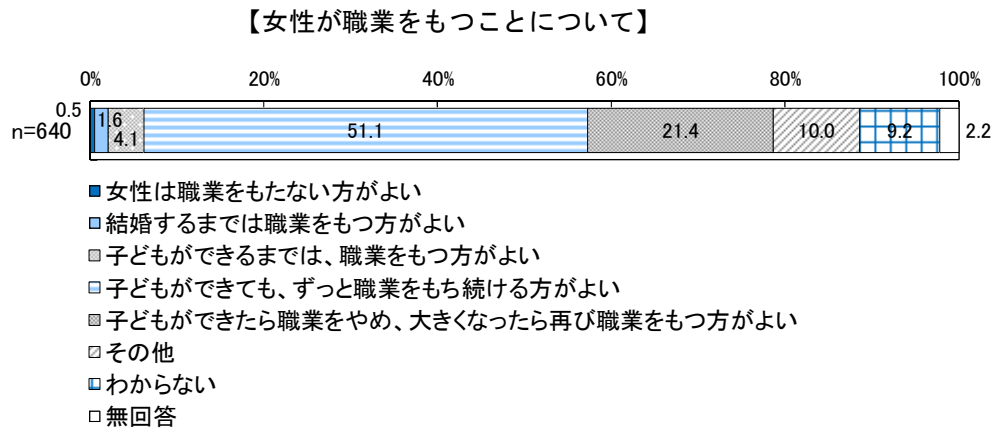


性別にみると、「収入が減少した」と回答した人の割合は、男性で約2割、女性で約1割となっている。

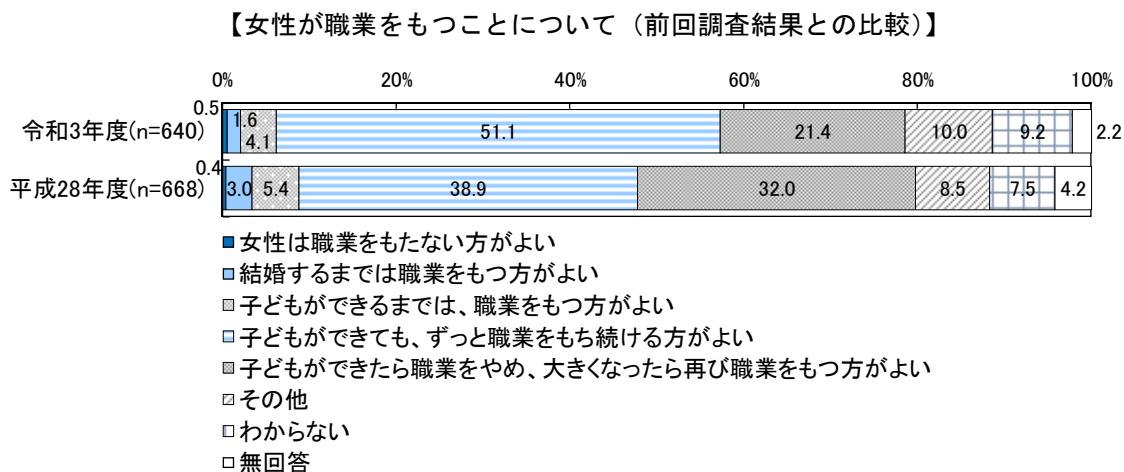
「勤務時間が減少した」と回答した人の割合は、男性で1割台半ば、女性で約1割となっている。

(5) 女性が職業をもつことについて

問 18 一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。(○は1つ)

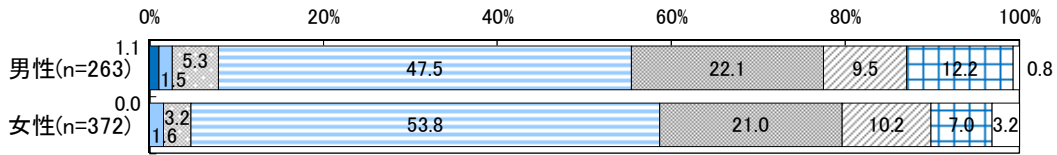


女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人の割合が51.1%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(21.4%)となっている。



前回調査結果と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人の割合は、平成28年度調査結果よりも上昇している。

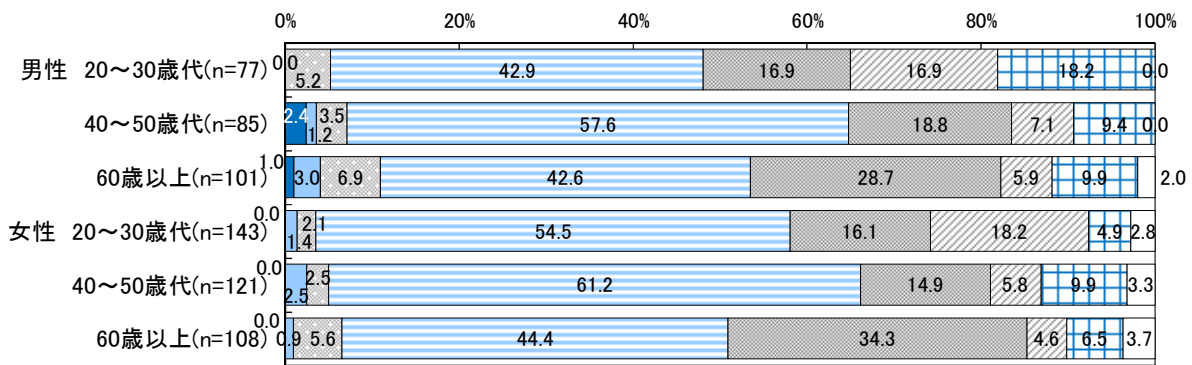
【女性が職業をもつことについて（性別）】



- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

性別にみると、男女ともに「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人の割合が最も高く、男性で4割台後半、女性で5割台前半となっている。

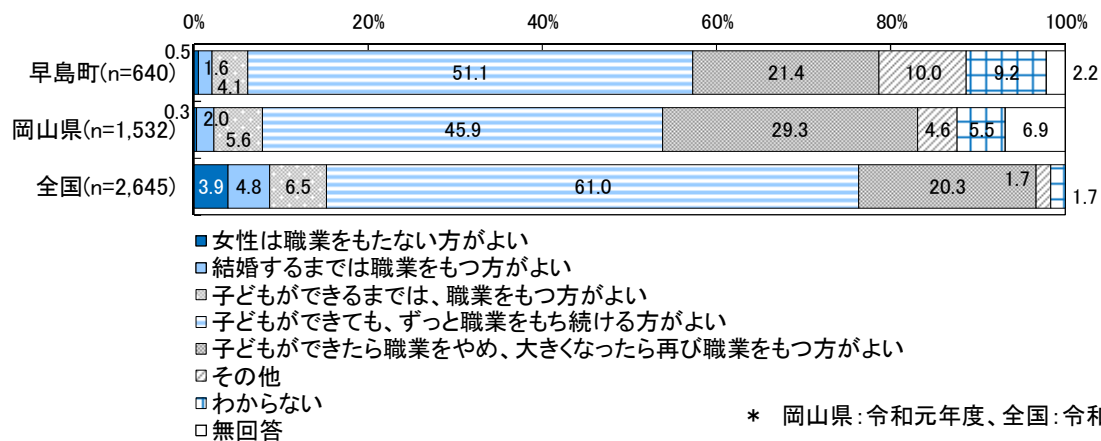
【女性が職業をもつことについて（性・年齢別）】



- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

性・年齢別にみると、いずれの年齢層も「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人の割合が最も高く、女性40～50歳代で6割台前半となっている。

【女性が職業をもつことについて（岡山県・全国調査結果との比較）】



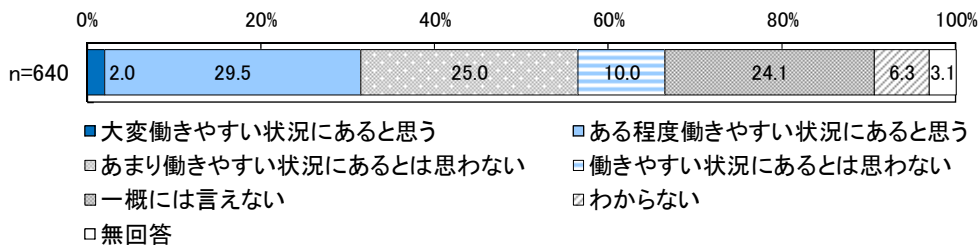
岡山県・全国調査結果と比較すると、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した人の割合は、早島町で51.1%、岡山県で45.9%、全国で61.0%となっている。



(6) 現在の社会における女性の働きやすさ

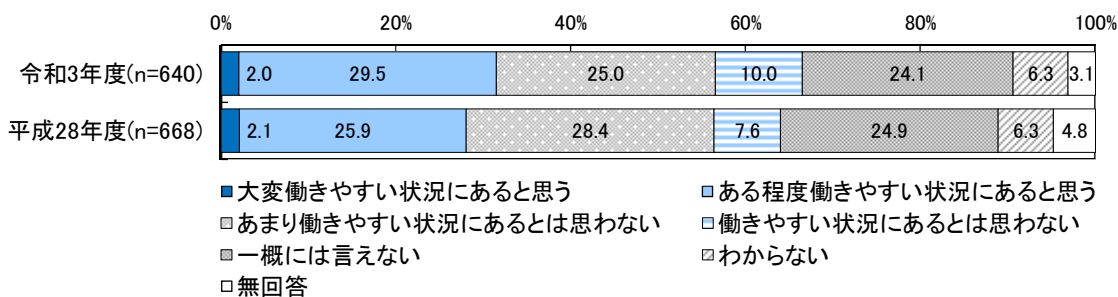
問 19 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○は1つ)

【現在の社会における女性の働きやすさ】



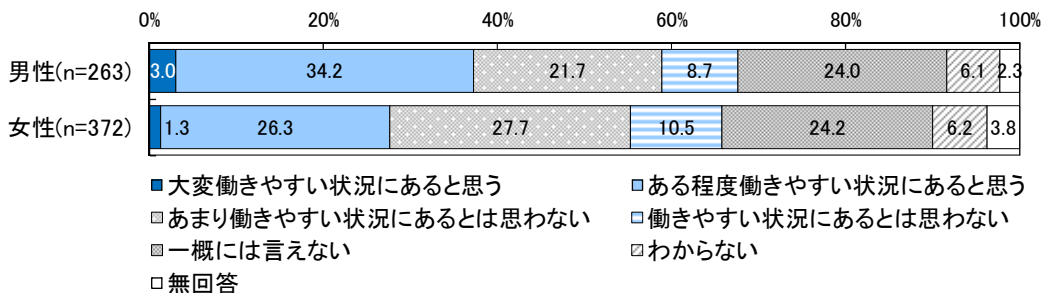
現在の社会における女性の働きやすさについて、『働きやすい状況にあると思う』（「大変働きやすい状況にあると思う」＋「ある程度働きやすい状況にあると思う」）と回答した人の割合が31.5%、『働きやすい状況にあるとは思わない』（「働きやすい状況にあるとは思わない」＋「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」）と回答した人の割合が35.0%となっている。

【現在の社会における女性の働きやすさ（前回調査結果との比較）】



前回調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

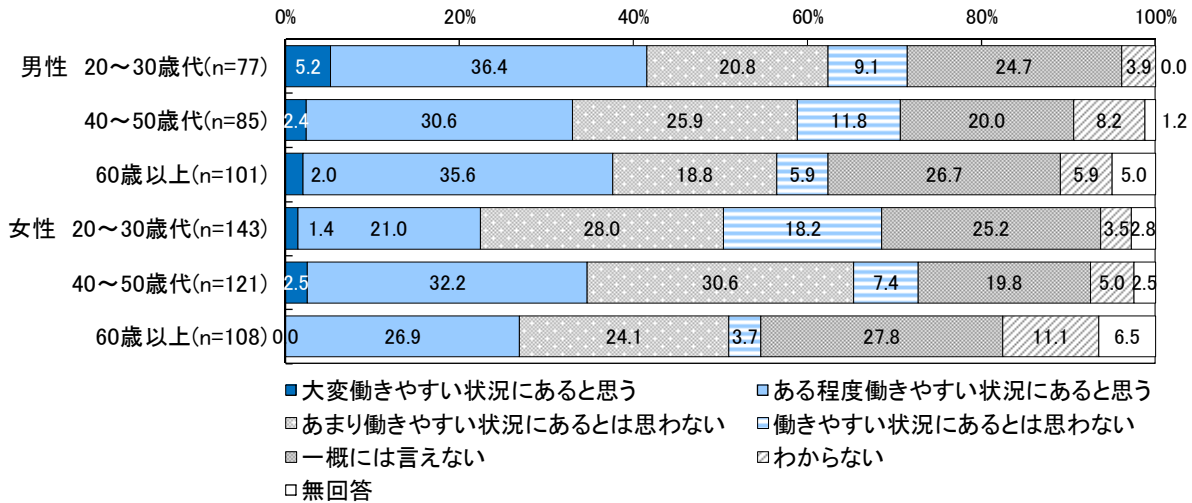
【現在の社会における女性の働きやすさ（性別）】



性別にみると、『働きやすい状況にあると思う』と回答した人の割合は、男性で3割台後半となっている。

一方、『働きやすい状況にあるとは思わない』と回答した人の割合は、女性で3割台後半となっている。

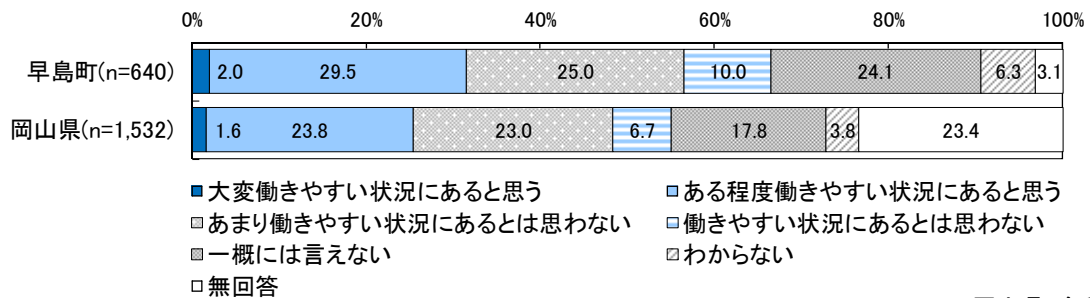
【現在の社会における女性の働きやすさ（性・年齢別）】



性・年齢別にみると、『働きやすい状況にあると思う』と回答した人の割合は、男性 20～30 歳代で 4 割台前半となっている。

一方、『働きやすい状況にあるとは思わない』と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代で 4 割台後半となっている。

【現在の社会における女性の働きやすさ（岡山県調査結果との比較）】



\* 岡山県: 令和元年度

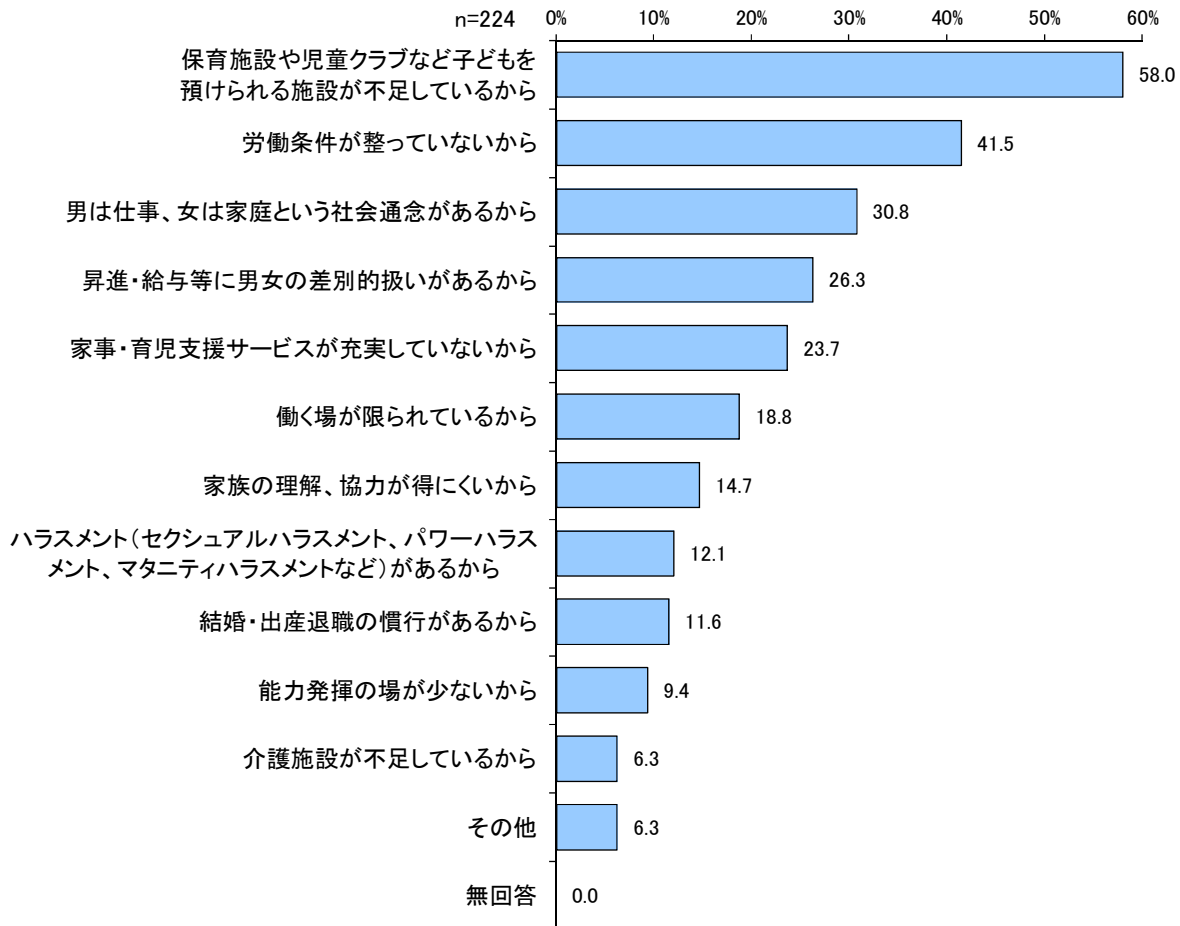
岡山県調査結果と比較すると、『働きやすい状況にあると思う』と回答した人の割合は、早島町で 31.5%、岡山県で 25.4%となっている。

(7) 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思わない理由

問 19 で「3 あまり働きやすい状況にあると思わない」「4 働きやすい状況にあると思わない」と回答した人のみ回答

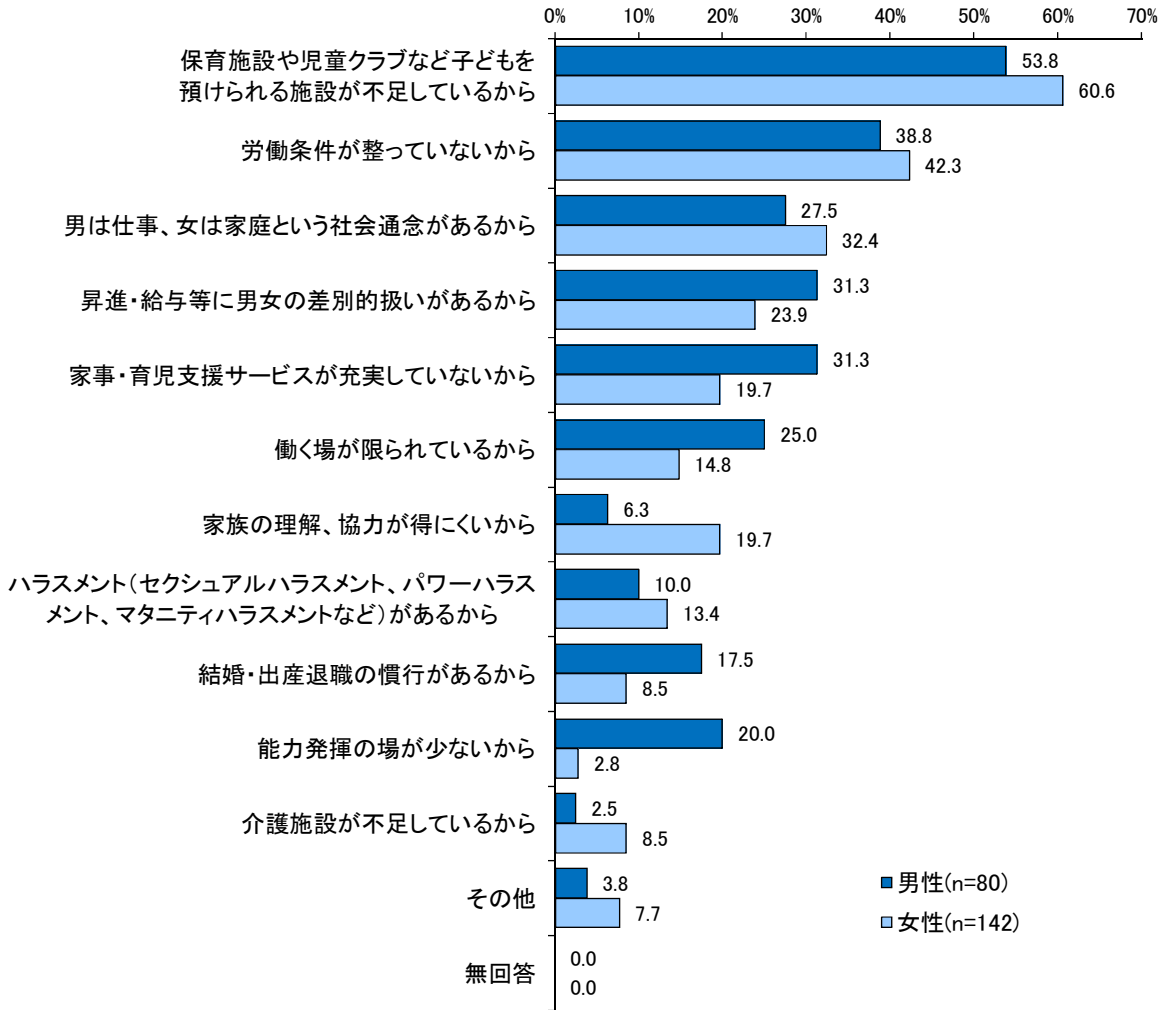
問 19-1 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

【現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思わない理由】



現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思わない理由について、「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」と回答した人の割合が 58.0%と最も高く、「労働条件が整っていないから」(41.5%)、「男は仕事、女は家庭という社会通念があるから」(30.8%)が続いている。

【現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思わない理由（性別）】



性別にみると、「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」と回答した人の割合は、男性で5割前半、女性で約6割となっている。

## 7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

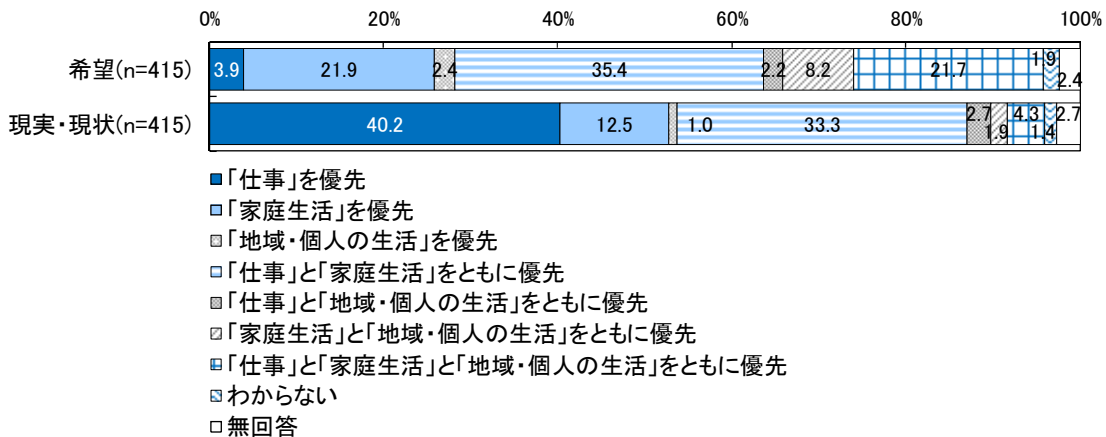
### (1) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望と現実・現状

#### 就労している人のみ回答

問 20 日頃の生活における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・近所づきあい・スポーツ・趣味の活動・社会貢献活動など）」の優先度についておたずねします。

（○はそれぞれ1つ）

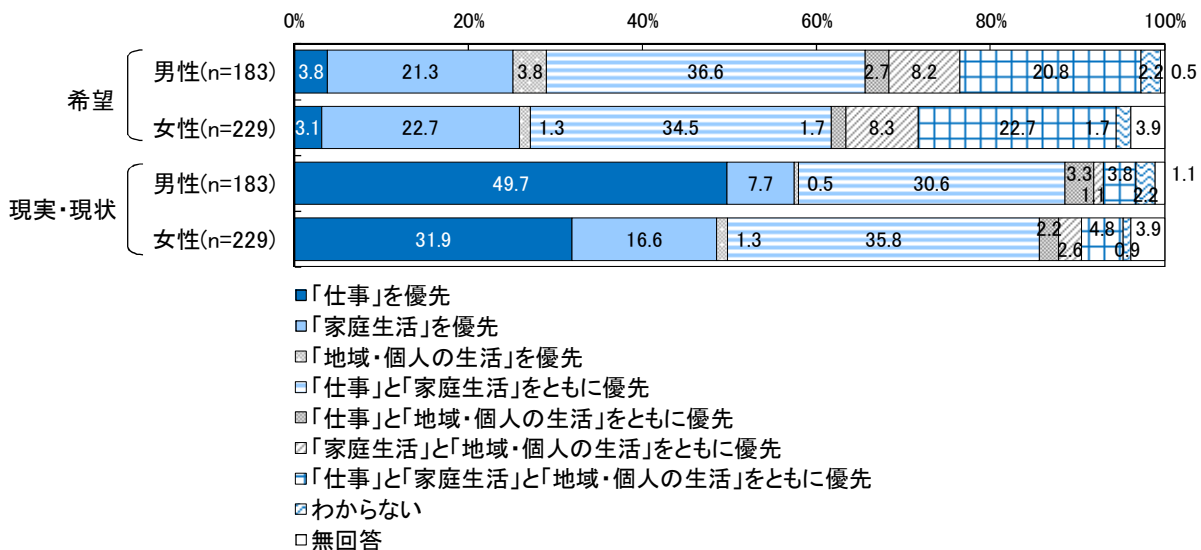
【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望と現実・現状】



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望と現実・現状について、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、希望が21.7%、現実・現状が4.3%となっている。

「仕事」を優先」と回答した人の割合は、希望が3.9%、現実・現状が40.2%となっている。

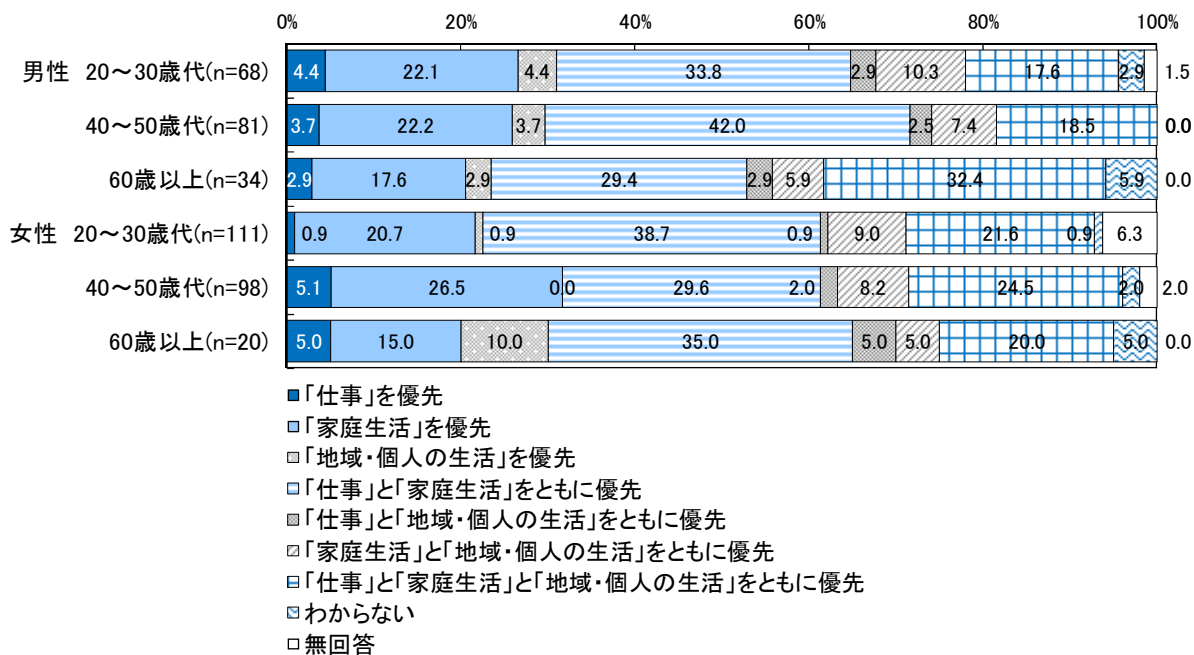
【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望と現実・現状（性別）】



性別にみると、「仕事」を優先」と回答した人の割合は、男女ともに現実・現状が希望よりも高くなっている。

一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、男女ともに希望が現実・現状よりも高くなっている。

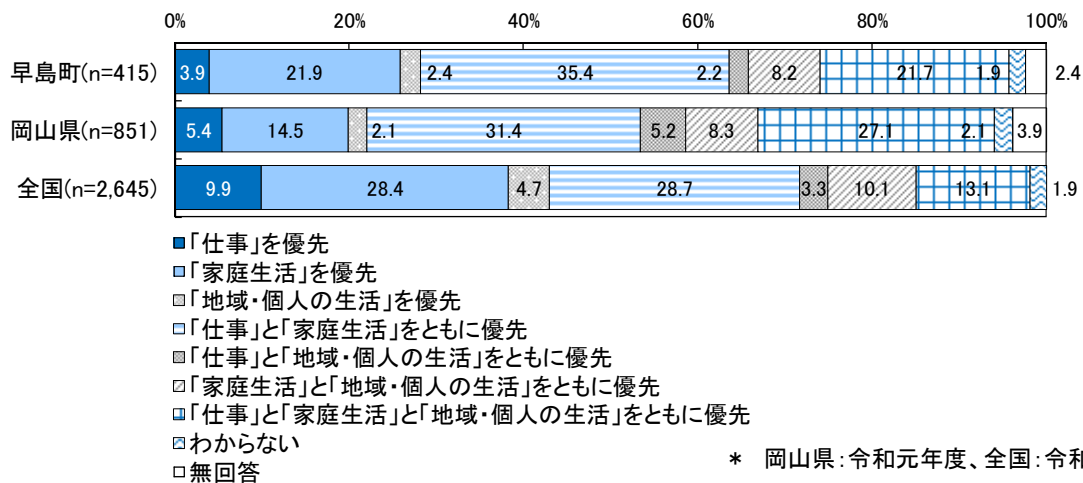
【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望（性・年齢別）】



希望を性・年齢別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代で 4 割台前半となっている。

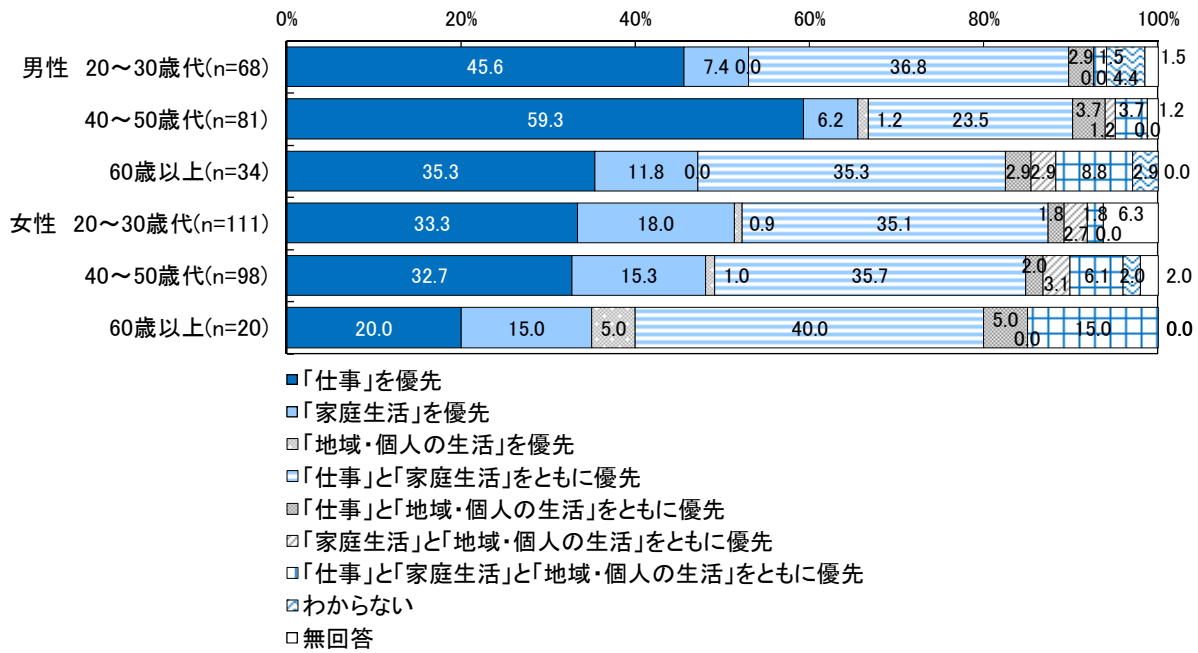
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、男性 60 歳以上で 3 割台前半となっている。

【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望（岡山県・全国調査結果との比較）】



希望を岡山県・全国調査結果と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、早島町で 21.7%、岡山県で 27.1%、全国で 13.1%となっている。

【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する現実・現状（性・年齢別）】

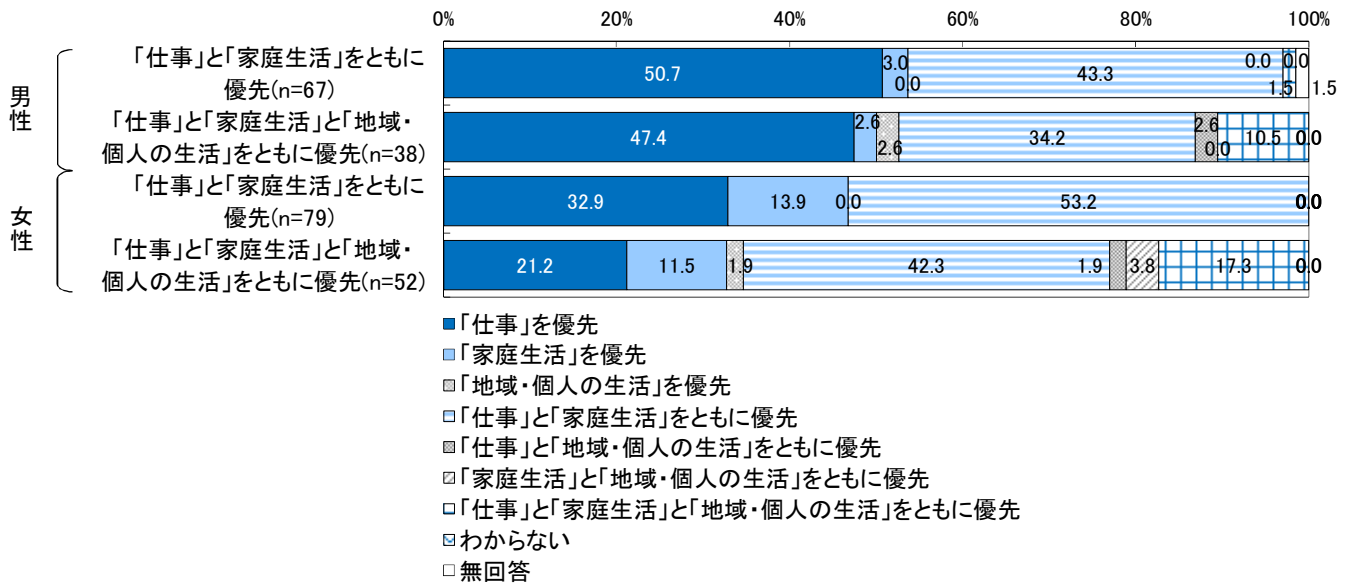


現実・現状を性・年齢別にみると、「仕事」を優先」と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代で約 6 割となっている。

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、女性 60 歳以上で 1 割台半ばとなっている。

【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する現実・現状

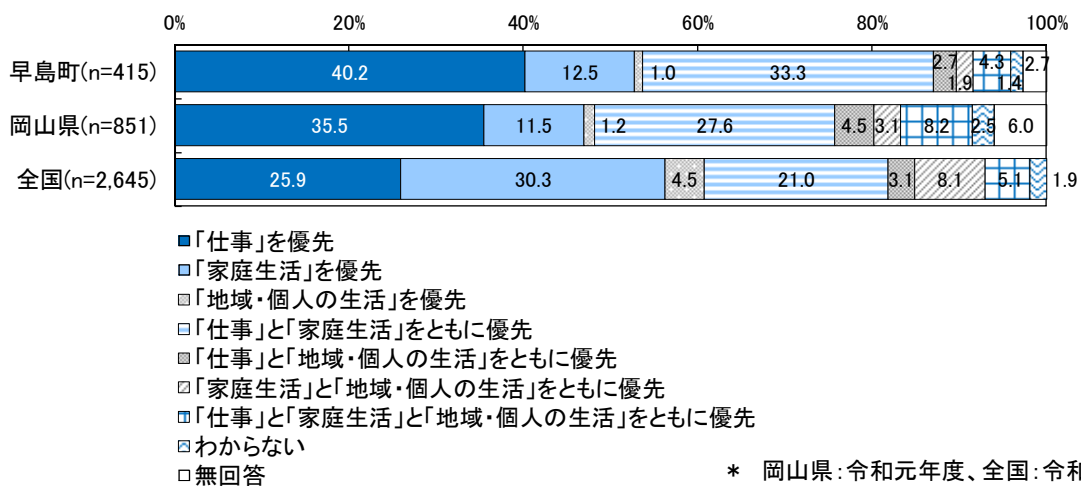
(性・「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望別)



性・「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する希望別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい層で現実・現状でも優先している人の割合は、男女ともに4割を超えているが、男性では「「仕事」を優先」と回答した人の割合も5割を超えている。

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい層で現実・現状でも優先している人の割合は、男性で約1割、女性で1割台後半となっており、「「仕事」を優先」と回答した人の割合は、男性で4割台後半となっている。

【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に関する現実・現状（岡山県・全国調査結果との比較）】



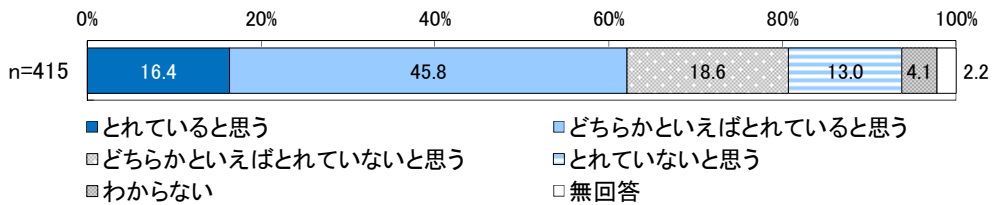
現実・現状を岡山県・全国調査結果と比較すると、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」と回答した人の割合は、早島町で4.3%、岡山県で8.2%、全国で5.1%となっている。



(2) ワーク・ライフ・バランスの状況

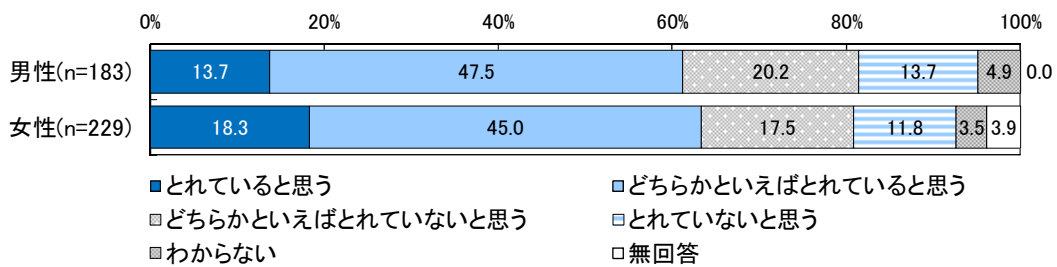
問 21 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がとれていると思いますか。  
 (○は1つ)

【ワーク・ライフ・バランスの状況】



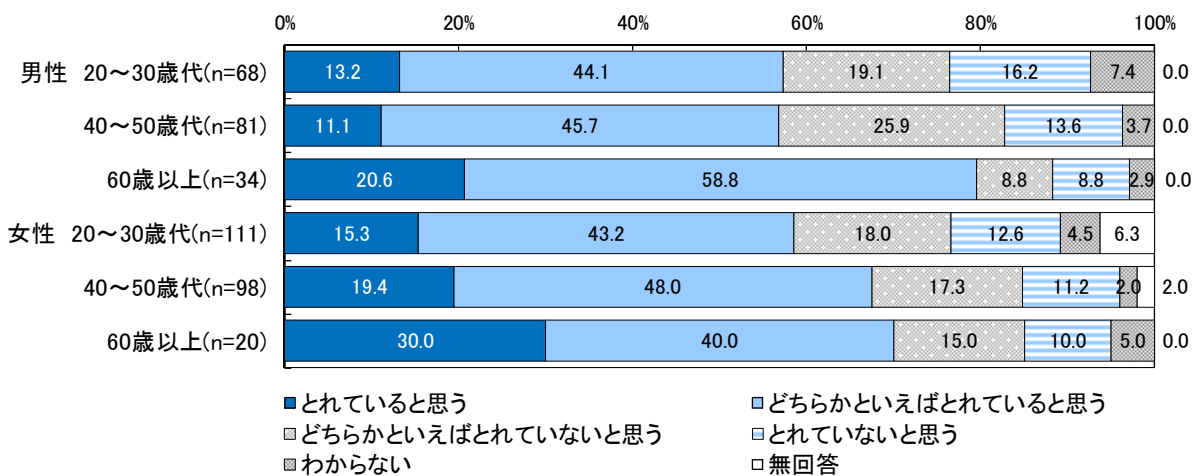
ワーク・ライフ・バランスの状況について、『とれていると思う』（「とれていると思う」＋「どちらかといえばとれていると思う」）と回答した人の割合が 62.2%、『とれていないと思う』（「とれていないと思う」＋「どちらかといえばとれていないと思う」）と回答した人の割合が 31.6%となっている。

【ワーク・ライフ・バランスの状況（性別）】



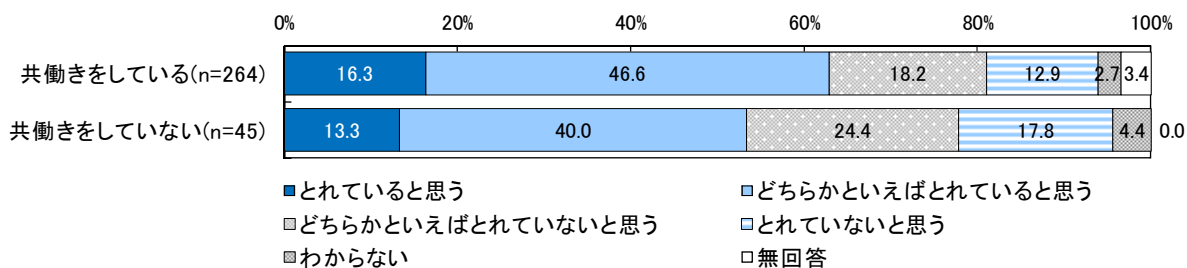
性別にみると、『とれていないと思う』と回答した人の割合は、男性で3割前半となっている。

【ワーク・ライフ・バランスの状況（性・年齢別）】



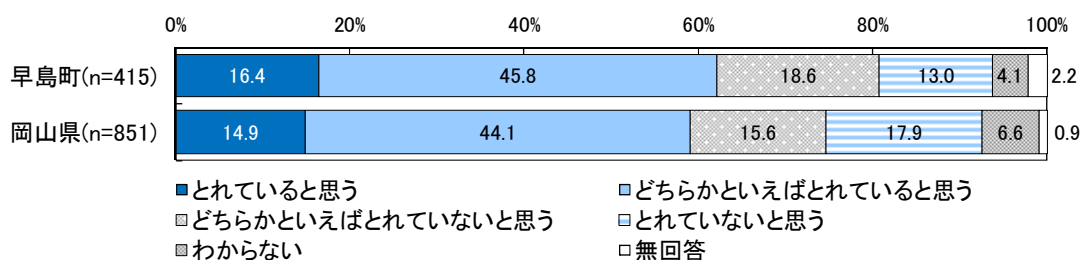
性・年齢別にみると、『とれていないと思う』と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代で約 4割となっている。

【ワーク・ライフ・バランスの状況（共働きの状況別）】



共働きの状況別にみると、『とれていると思う』と回答した人の割合は、共働きをしている層で6割台前半となっている。

【ワーク・ライフ・バランスの状況（岡山県調査結果との比較）】



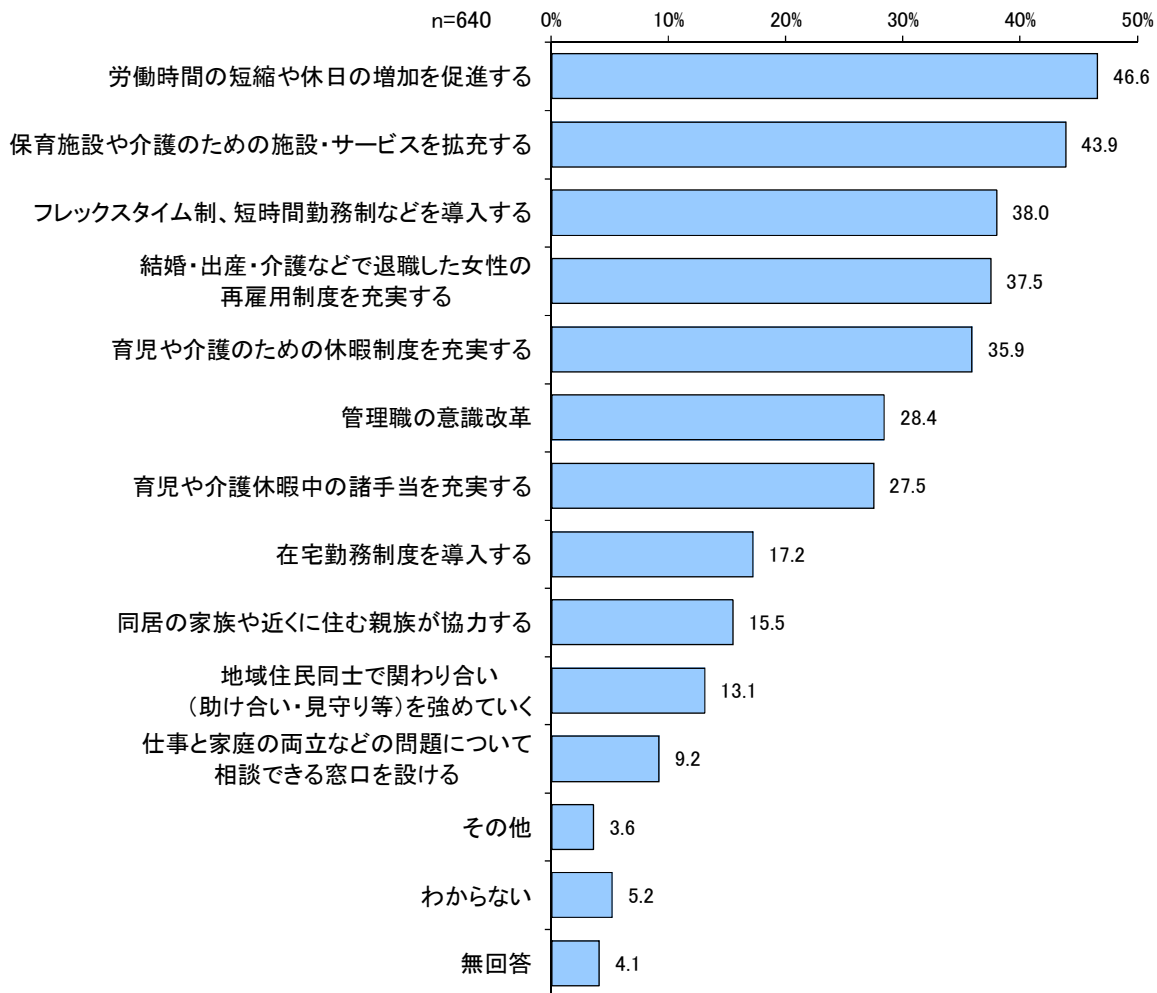
\* 岡山県:令和元年度

岡山県調査結果と比較すると、大きな差はみられない。

(3) ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なだと思うこと

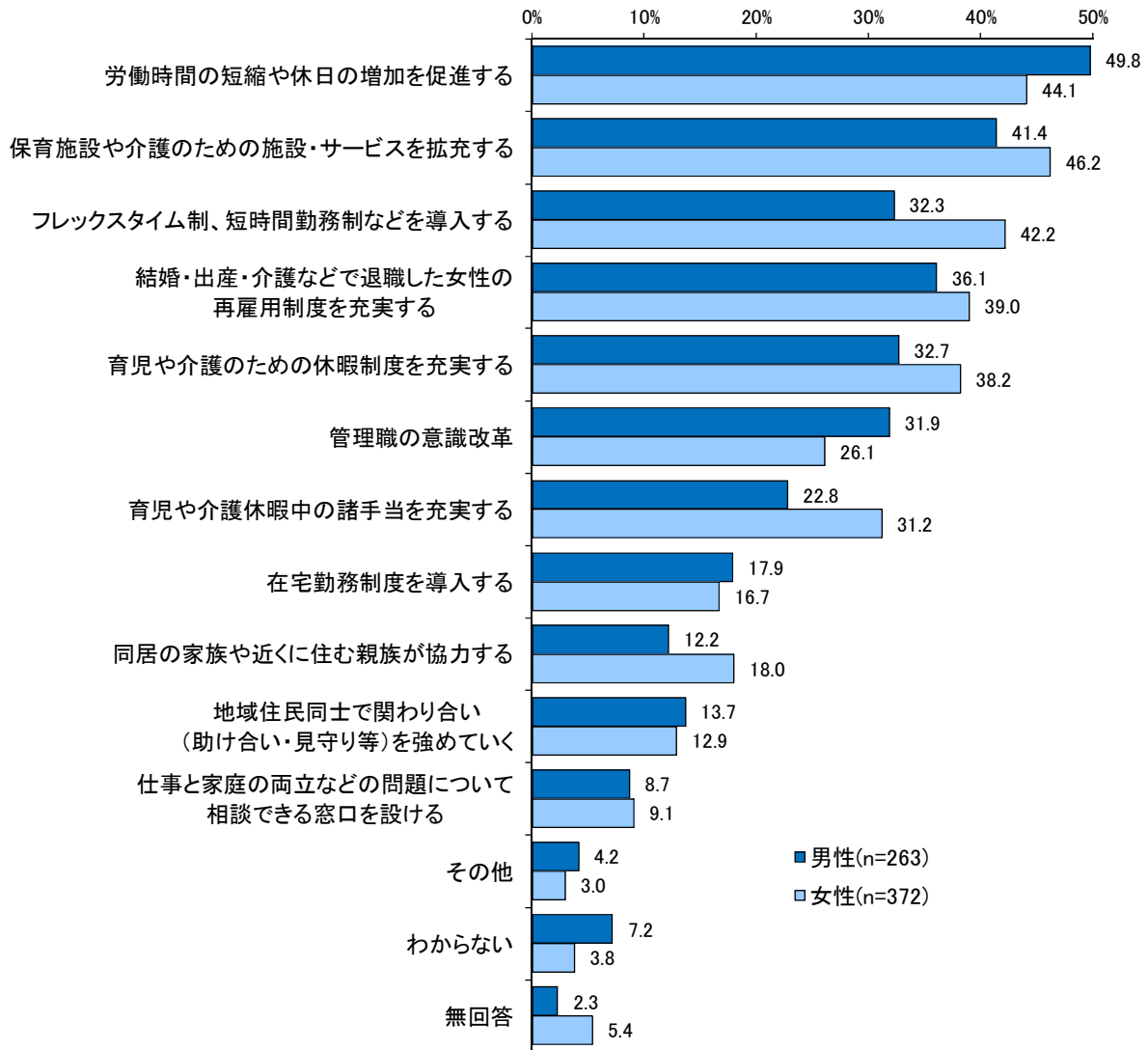
問 22 男女が共にワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

【ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なと思うこと】



ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なと思うことについて、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」と回答した人の割合が 46.6%と最も高く、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」(43.9%)、「フレックスタイム制、短時間勤務制などを導入する」(38.0%)、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」(37.5%)、「育児や介護のための休暇制度を充実する」(35.9%)が続いている。

【ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なだと思うこと（性別）】



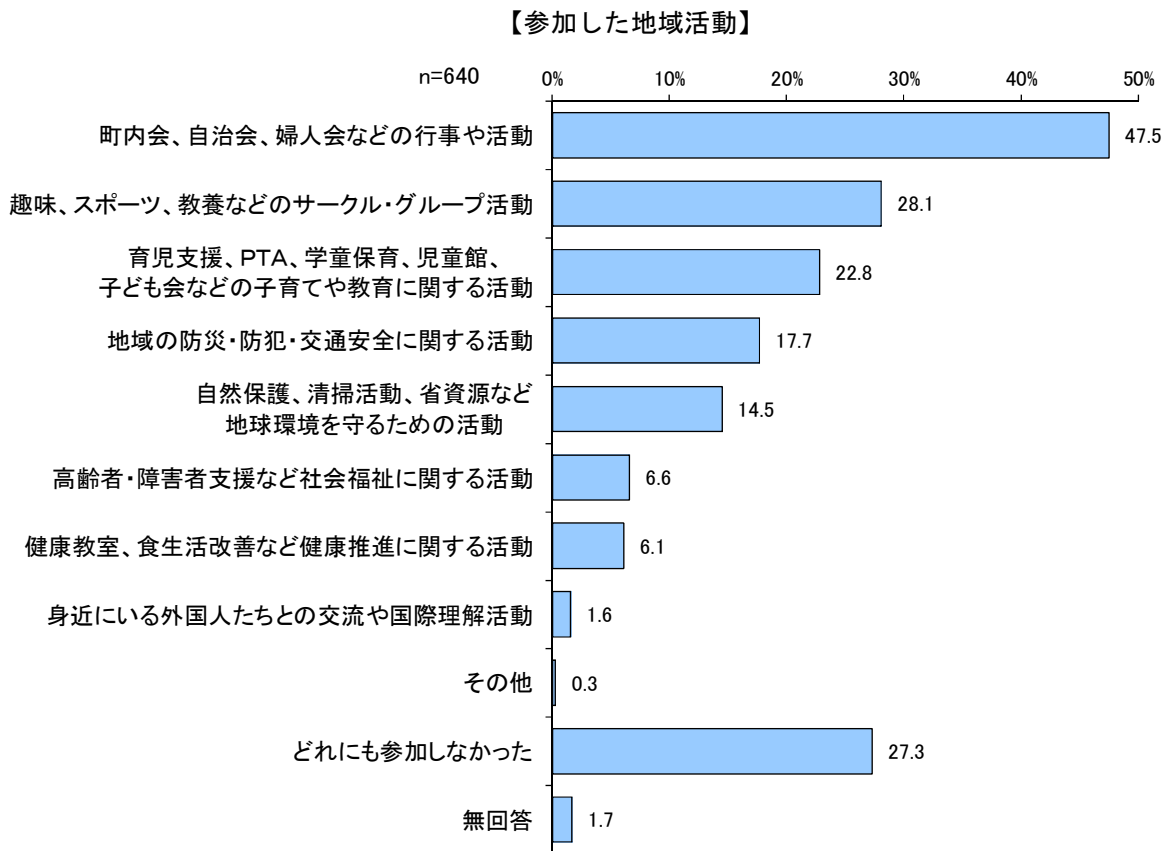
性別にみると、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」と回答した人の割合は、男性で約5割となっている。

「フレックスタイム制、短時間勤務制などを導入する」と回答した人の割合は、女性で4割台前半となっている。

## 8 地域での男女共同参画の推進について

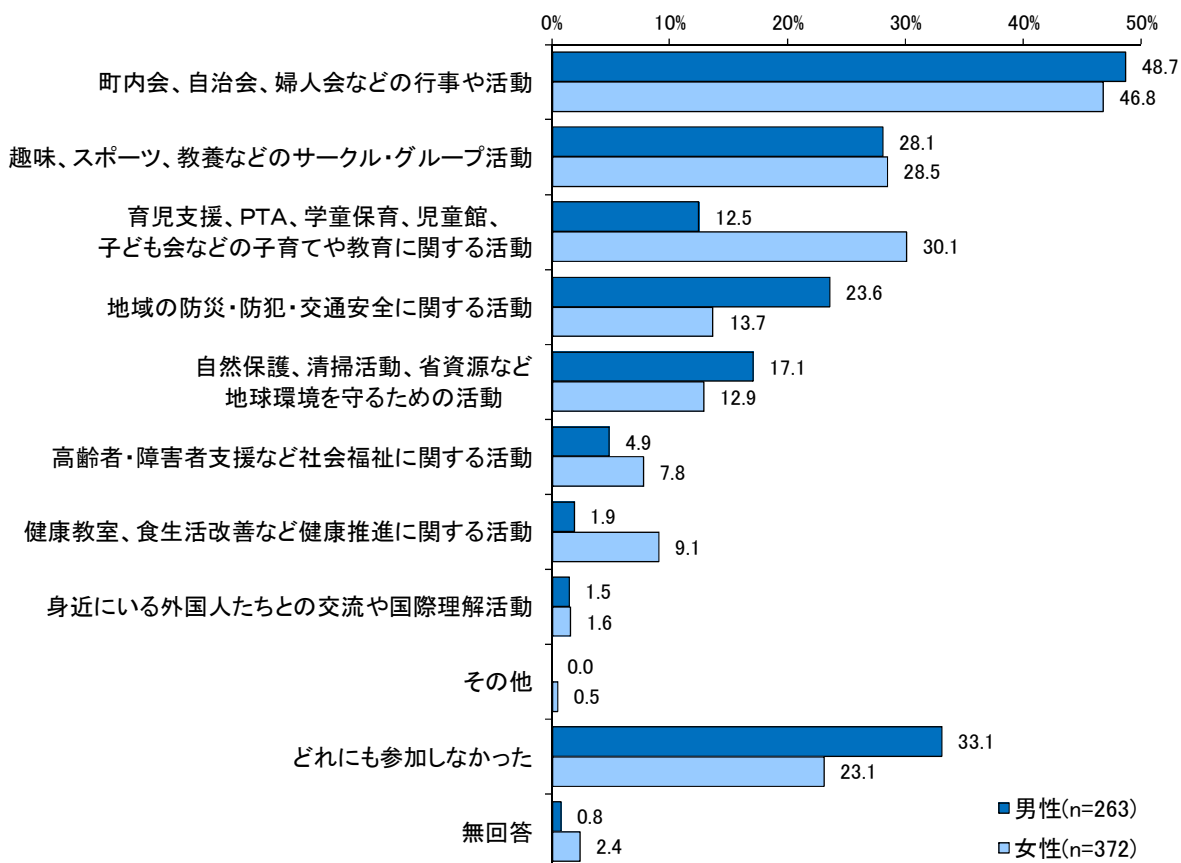
### (1) 参加した地域活動

問 23 過去5年間で参加した地域活動にはどのようなものがありますか。(〇はいくつでも)



参加した地域活動について、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」と回答した人の割合が 47.5%と最も高く、「趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動」(28.1%)、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動」(22.8%)が続いている。

### 【参加した地域活動（性別）】



性別にみると、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動」と回答した人の割合は、女性で約3割となっている。

また、「どれにも参加しなかった」と回答した人の割合は、男性で3割前半となっている。

【参加した地域活動（性・年齢別）】

	回答数	町内会、自治会、婦人会などの行事や活動	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動	地域の防災・防犯・交通安全に関する活動	自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動	高齢者・障害者支援など社会福祉に関する活動	健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動	身近にいる外国人たちとの交流や国際理解活動
男性 20～30歳代	77	31.2%	26.0%	11.7%	11.7%	10.4%	2.6%	1.3%	1.3%
40～50歳代	85	50.6%	22.4%	16.5%	28.2%	16.5%	2.4%	1.2%	2.4%
60歳以上	101	60.4%	34.7%	9.9%	28.7%	22.8%	8.9%	3.0%	1.0%
女性 20～30歳代	143	28.0%	18.9%	41.3%	8.4%	7.0%	2.1%	2.8%	0.7%
40～50歳代	121	56.2%	24.0%	37.2%	17.4%	14.9%	4.1%	3.3%	1.7%
60歳以上	108	61.1%	46.3%	7.4%	16.7%	18.5%	19.4%	24.1%	2.8%

	回答数	その他	どれにも参加しなかった	無回答
男性 20～30歳代	77	-	48.1%	-
40～50歳代	85	-	31.8%	-
60歳以上	101	-	22.8%	2.0%
女性 20～30歳代	143	-	33.6%	-
40～50歳代	121	-	22.3%	0.8%
60歳以上	108	1.9%	10.2%	7.4%

性・年齢別にみると、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」と回答した人の割合は、男女ともに60歳以上で6割を超えている。

「趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動」と回答した人の割合は、女性60歳以上で4割台後半となっている。

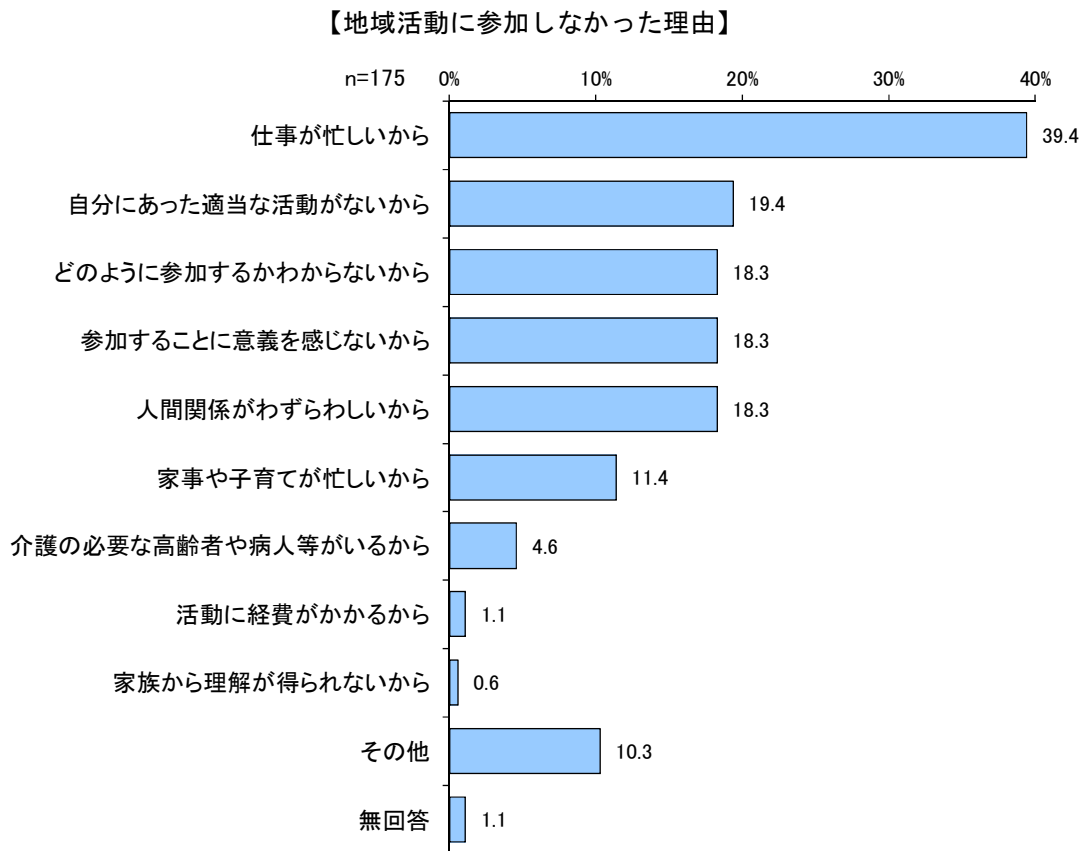
「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動」と回答した人の割合は、女性20～30歳代で4割台前半となっている。

また、「どれにも参加しなかった」と回答した人の割合は、男性20～30歳代で4割台後半となっている。

## (2) 地域活動に参加しなかった理由

問 23 で「10 どれにも参加しなかった」と回答した人のみ回答

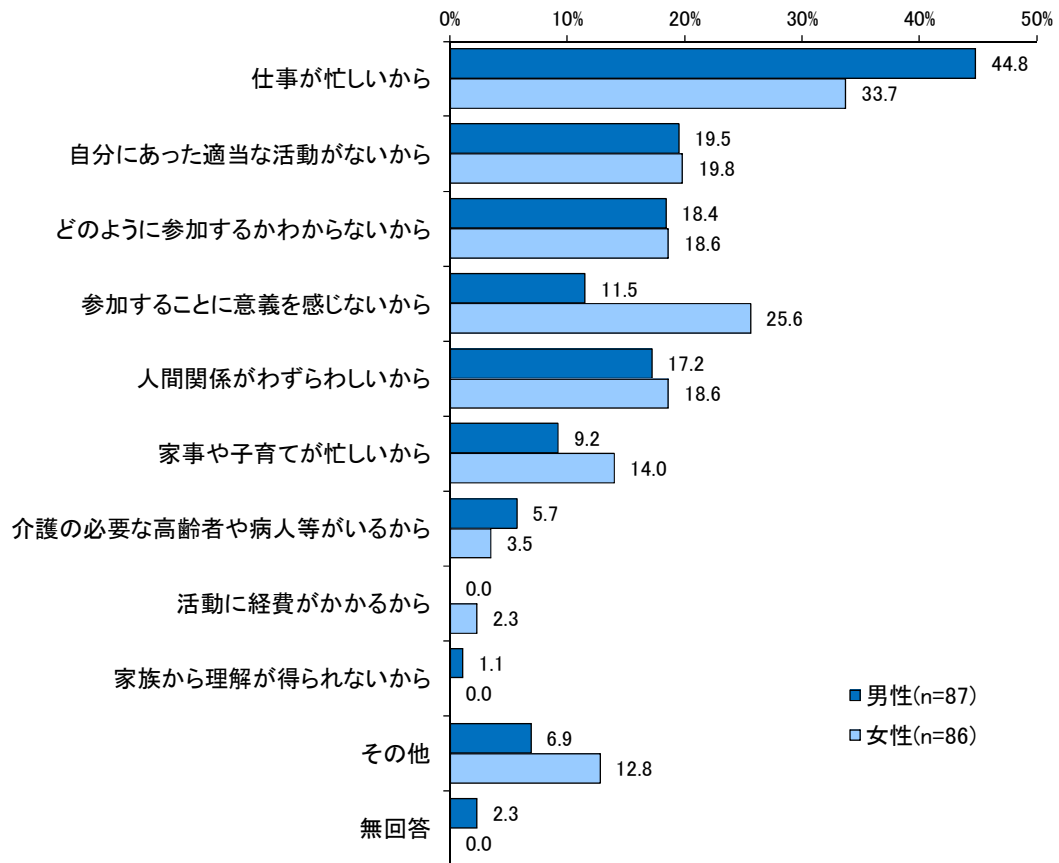
問 23-1 どれにも参加しなかったのはなぜですか。(〇は2つまで)



地域活動に参加しなかった理由について、「仕事が忙しいから」と回答した人の割合が 39.4% と最も高く、「自分にあった適切な活動がないから」(19.4%)、「どのように参加するかわからないから」、「参加することに意義を感じないから」、「人間関係がわずらわしいから」(18.3%) が続いている。



【地域活動に参加しなかった理由（性別）】



性別にみると、「仕事が忙しいから」と回答した人の割合は、男性で4割台半ばとなっている。

「参加することに意義を感じないから」と回答した人の割合は、女性で2割台半ばとなっている。

【地域活動に参加しなかった理由（性・年齢別）】

	回答数	仕事が忙しいから	自分にあった適当な活動がないから	どのように参加するかわからないから	参加することに意義を感じないから	人間関係がわずらわしいから	家事や子育てが忙しいから	介護の必要な高齢者や病人等がいるから	活動に経費がかかるから
男性 20～30歳代	37	45.9%	13.5%	18.9%	16.2%	13.5%	16.2%	-	-
40～50歳代	27	63.0%	18.5%	22.2%	7.4%	11.1%	7.4%	7.4%	-
60歳以上	23	21.7%	30.4%	13.0%	8.7%	30.4%	-	13.0%	-
女性 20～30歳代	48	31.3%	27.1%	18.8%	22.9%	12.5%	14.6%	-	-
40～50歳代	27	44.4%	3.7%	25.9%	22.2%	18.5%	18.5%	7.4%	7.4%
60歳以上	11	18.2%	27.3%	-	45.5%	45.5%	-	9.1%	-

	回答数	家族から理解が得られないから	その他	無回答
男性 20～30歳代	37	-	10.8%	-
40～50歳代	27	3.7%	3.7%	-
60歳以上	23	-	4.3%	8.7%
女性 20～30歳代	48	-	14.6%	-
40～50歳代	27	-	11.1%	-
60歳以上	11	-	9.1%	-

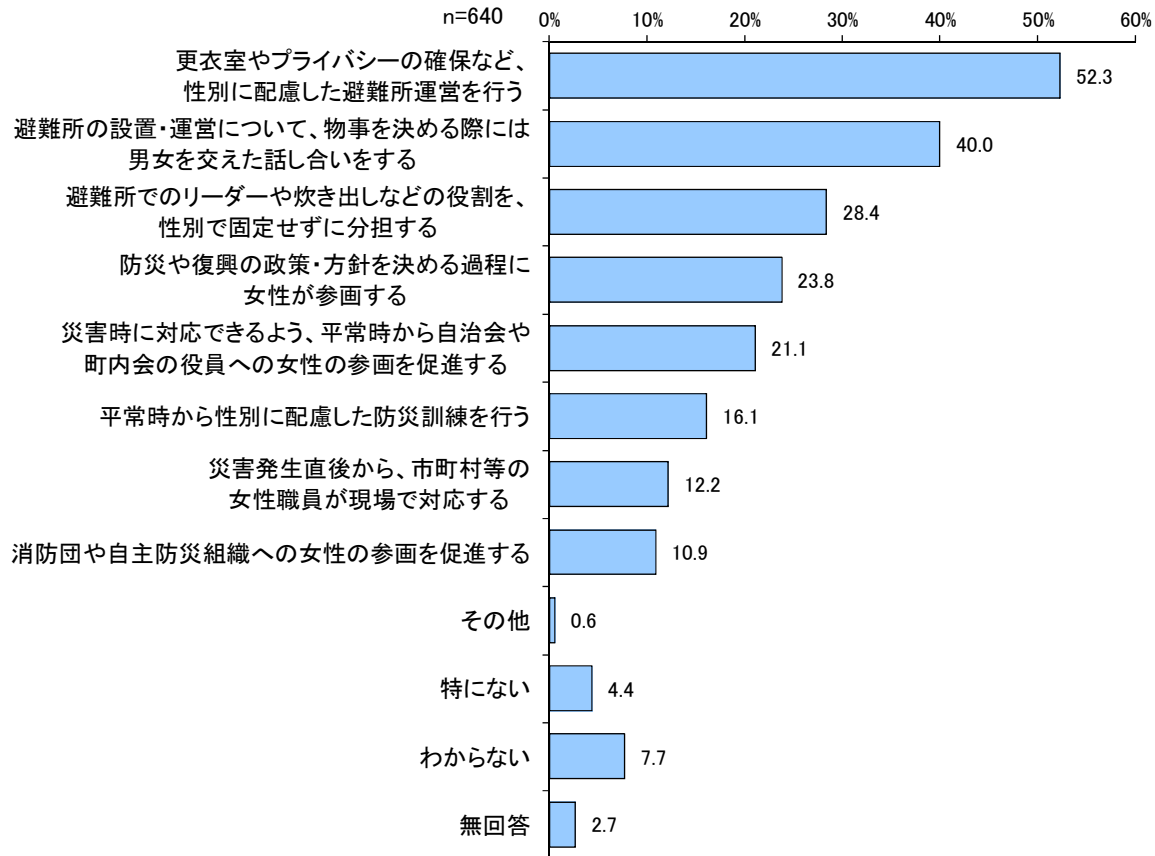
性・年齢別にみると、「仕事が忙しいから」と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代で 6 割台前半となっている。

「参加することに意義を感じないから」、「人間関係がわずらわしいから」と回答した人の割合は、女性 60 歳以上で 4 割台半ばとなっている。

(3) 性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと

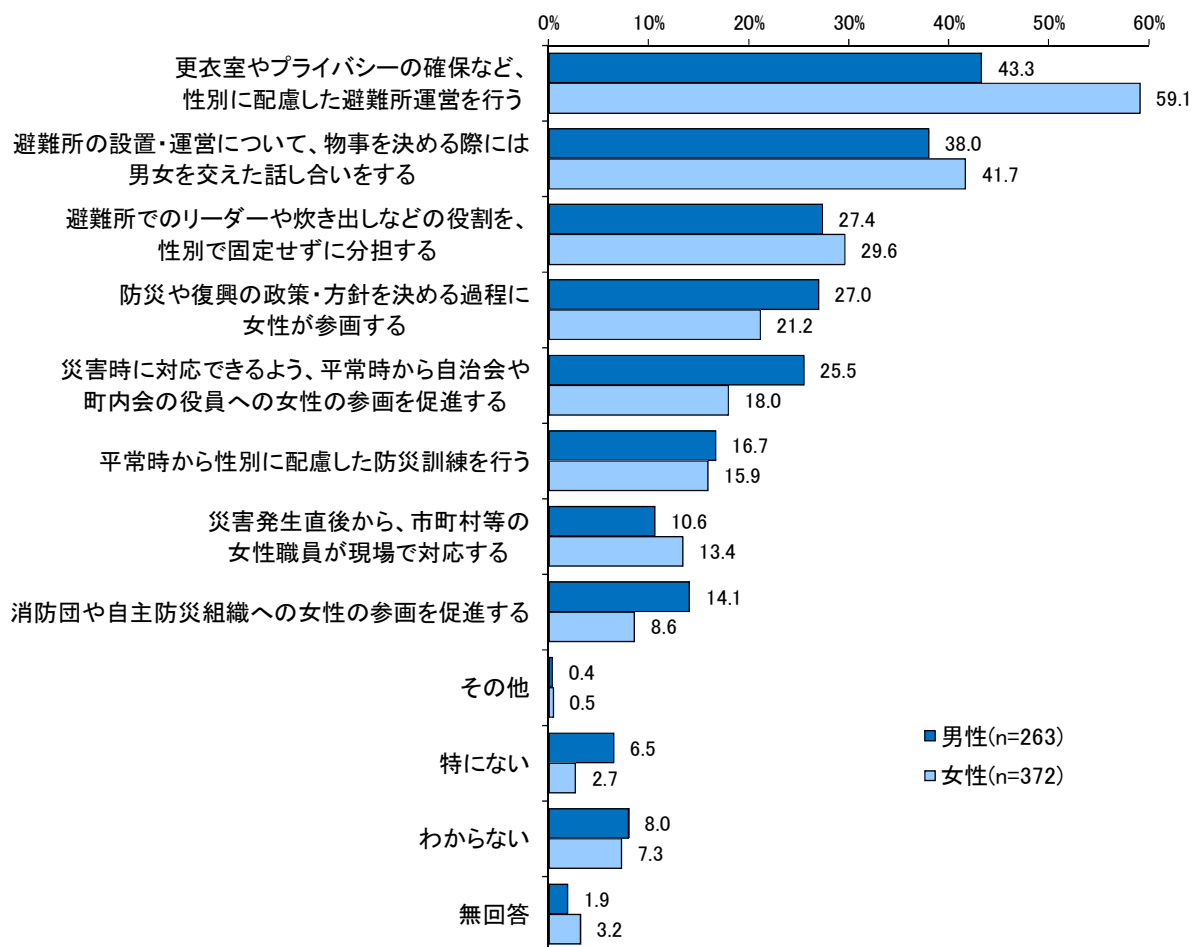
問 24 あなたは、性別の違いに気を配った防災・災害対応のためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと】



性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なことについて、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」と回答した人の割合が 52.3%と最も高く、次いで「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」(40.0%) となっている。

【性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと（性別）】



性別にみると、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」と回答した人の割合は、女性で約6割となっている。

【性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと（性・年齢別）】

	回答数	更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する	災害時に対応できるよう、平常時から自治会や町内会の役員への女性の参画を促進する	平常時から性別に配慮した防災訓練を行う	災害発生直後から、市町村等の女性職員が現場で対応する	消防団や自主防災組織への女性の参画を促進する
男性 20～30歳代	77	45.5%	31.2%	35.1%	16.9%	15.6%	16.9%	13.0%	9.1%
40～50歳代	85	50.6%	44.7%	31.8%	23.5%	21.2%	14.1%	9.4%	16.5%
60歳以上	101	35.6%	37.6%	17.8%	37.6%	36.6%	18.8%	9.9%	15.8%
女性 20～30歳代	143	66.4%	39.2%	25.9%	20.3%	16.1%	21.7%	16.1%	7.0%
40～50歳代	121	62.0%	40.5%	32.2%	24.0%	12.4%	14.0%	13.2%	8.3%
60歳以上	108	46.3%	46.3%	31.5%	19.4%	26.9%	10.2%	10.2%	11.1%

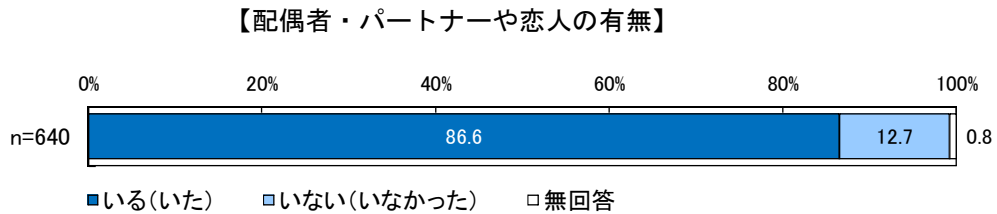
	回答数	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～30歳代	77	-	9.1%	13.0%	-
40～50歳代	85	1.2%	3.5%	7.1%	-
60歳以上	101	-	6.9%	5.0%	5.0%
女性 20～30歳代	143	-	2.8%	7.0%	-
40～50歳代	121	1.7%	1.7%	8.3%	-
60歳以上	108	-	3.7%	6.5%	11.1%

性・年齢別にみると、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代、女性 40～50 歳代で 6 割を超えている。

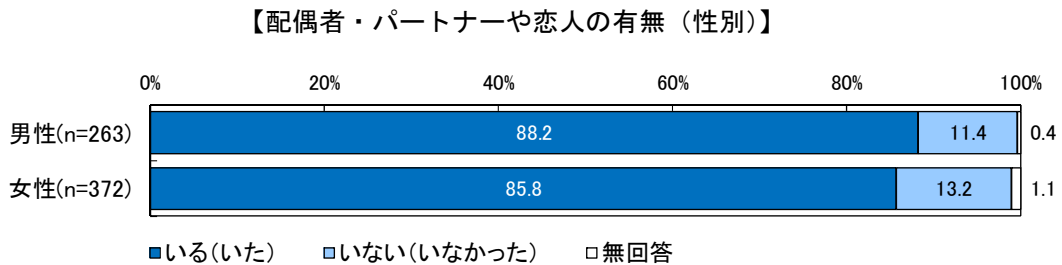
## 9 男女間の暴力について

### (1) 配偶者・パートナーや恋人の有無

問 25 あなたは現在、配偶者・パートナーや恋人がいますか、または過去にいましたか。  
(○は1つ)



配偶者、パートナーや恋人の有無について、「いる (いた)」と回答した人の割合が 86.6% となっている。

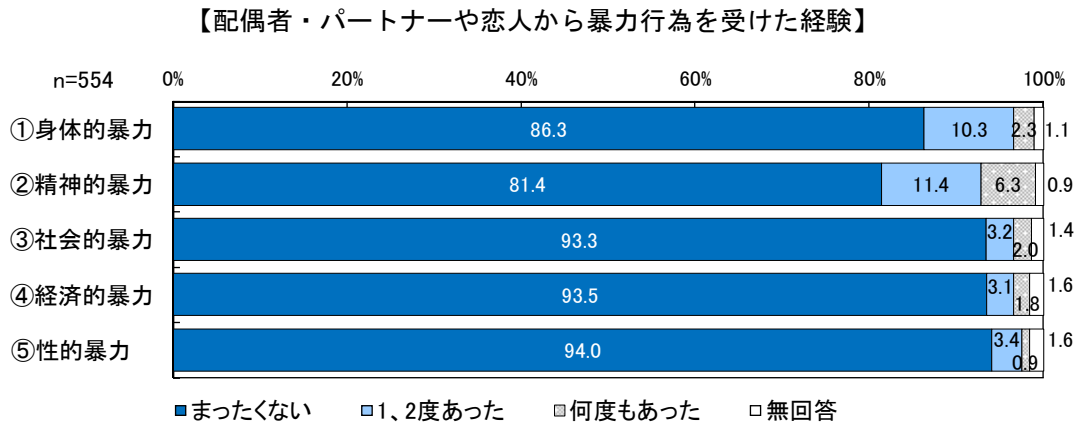


性別にみると、「いる (いた)」と回答した人の割合は、男女ともに8割を超えている。

(2) 配偶者・パートナーや恋人から暴力行為を受けた経験

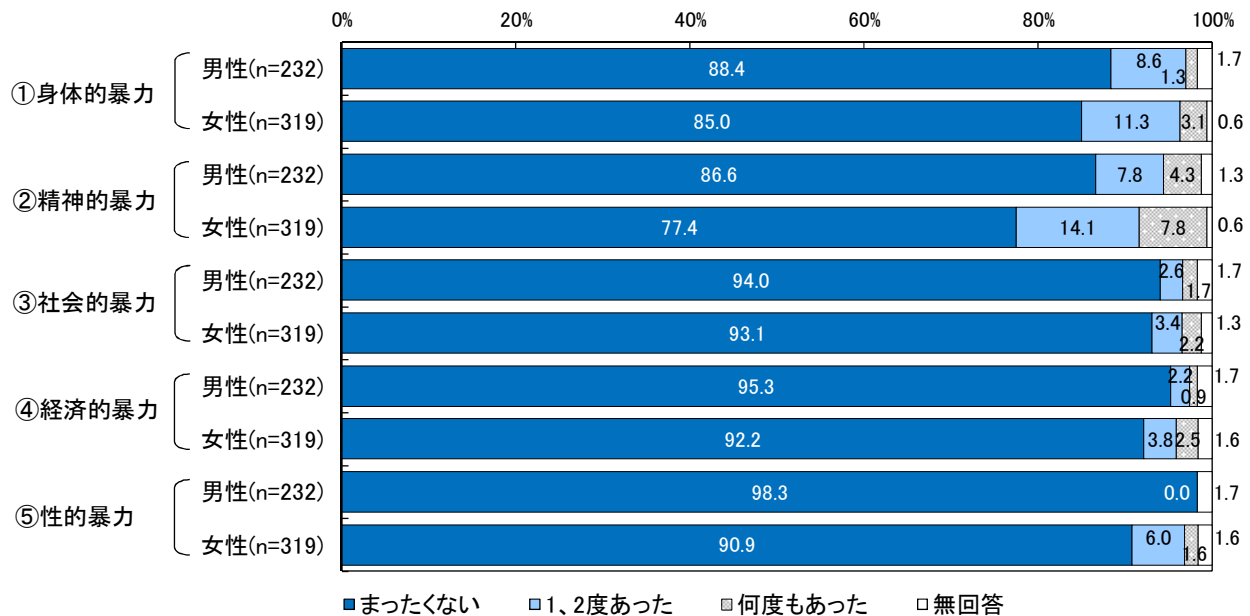
問 25 で「1 いる (いた)」と回答した人のみ回答

問 26 あなたはこれまでに、配偶者・パートナーや恋人から①～⑤のような行為を受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)



配偶者・パートナーや恋人から暴力行為を受けた経験について、『あった』(「1, 2度あった」+「何度もあった」と回答した人の割合は、「身体的暴力」が12.6%、「精神的暴力」が17.7%、「社会的暴力」が5.2%、「経済的暴力」が4.9%、「性的暴力」が4.3%となっている。

【配偶者・パートナーや恋人から暴力行為を受けた経験 (性別)】



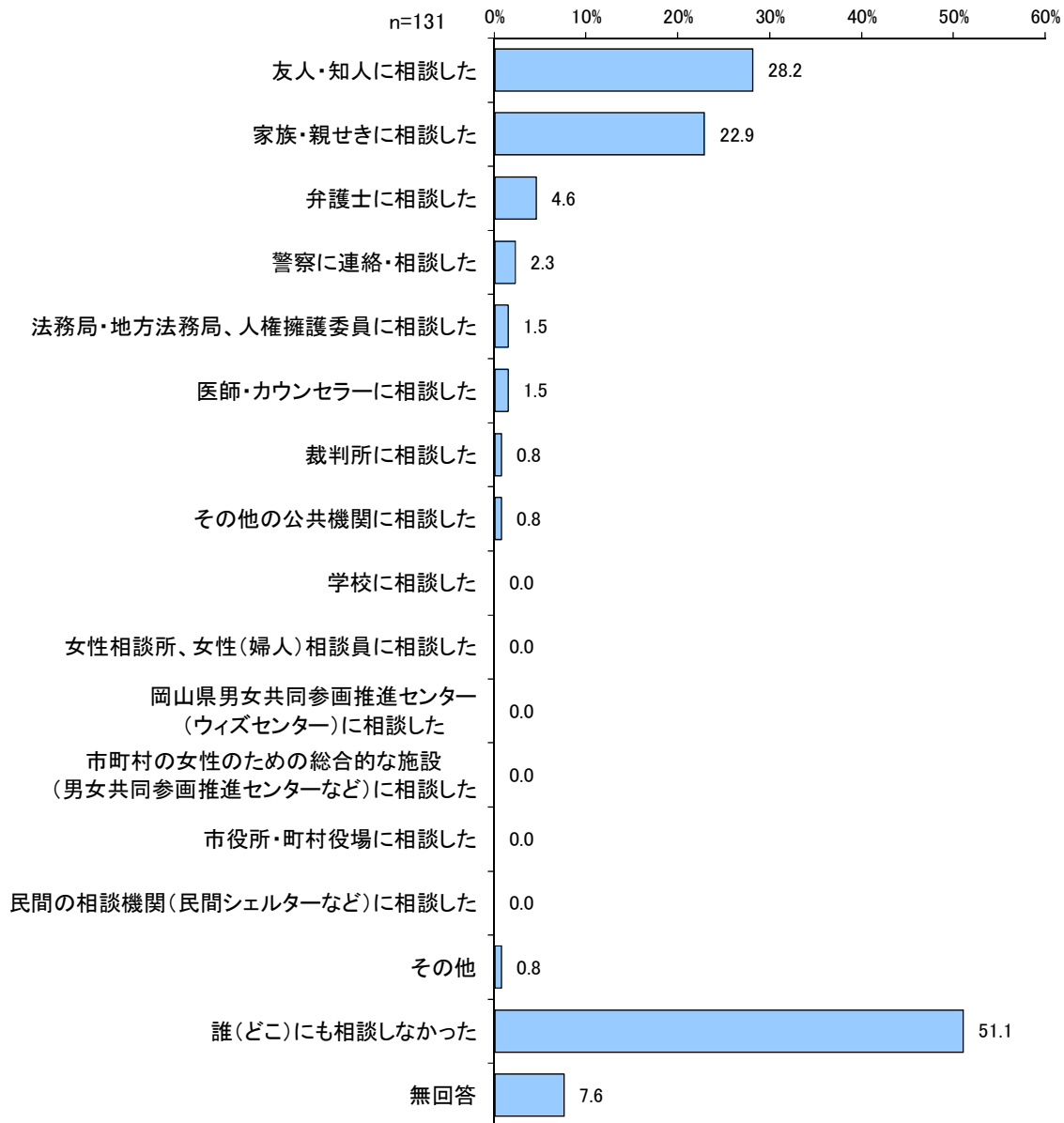
性別にみると、「身体的暴力」の被害経験がある人の割合は、女性で1割を超え、「精神的暴力」の被害経験がある人の割合は、女性で2割を超えている。

(3) 配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先

問 26 でいずれかの暴力を受けた経験が「2 1、2度あった」「3 何度もあった」と回答した人のみ回答

問 27 あなたは、これまでに配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

【配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先】

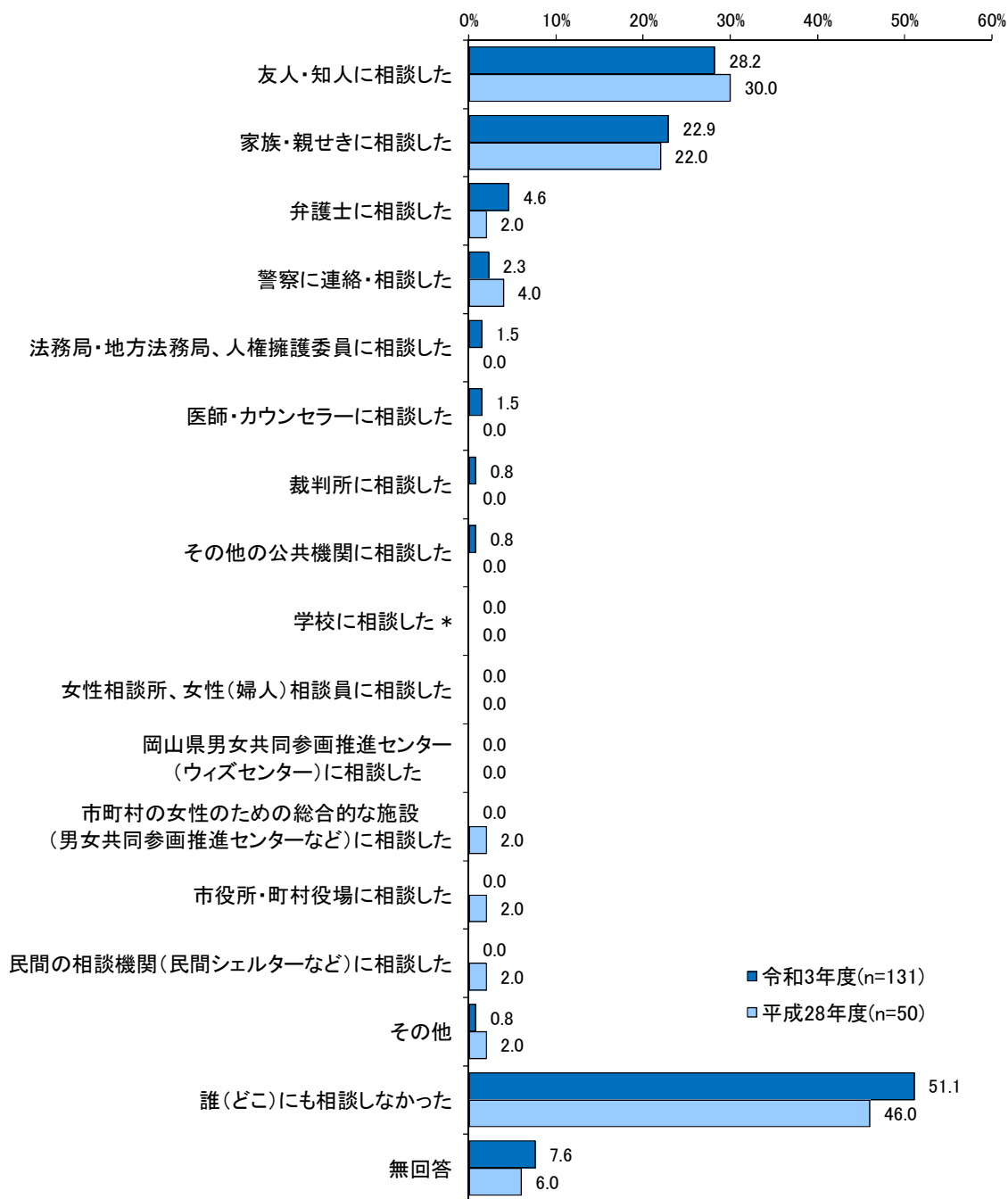


配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先について、「友人・知人に相談した」と回答した人の割合が 28.2%と最も高く、次いで「家族・親せきに相談した」(22.9%)となっている。

また、「誰(どこ)にも相談しなかった」と回答した人の割合が 51.1%となっている。



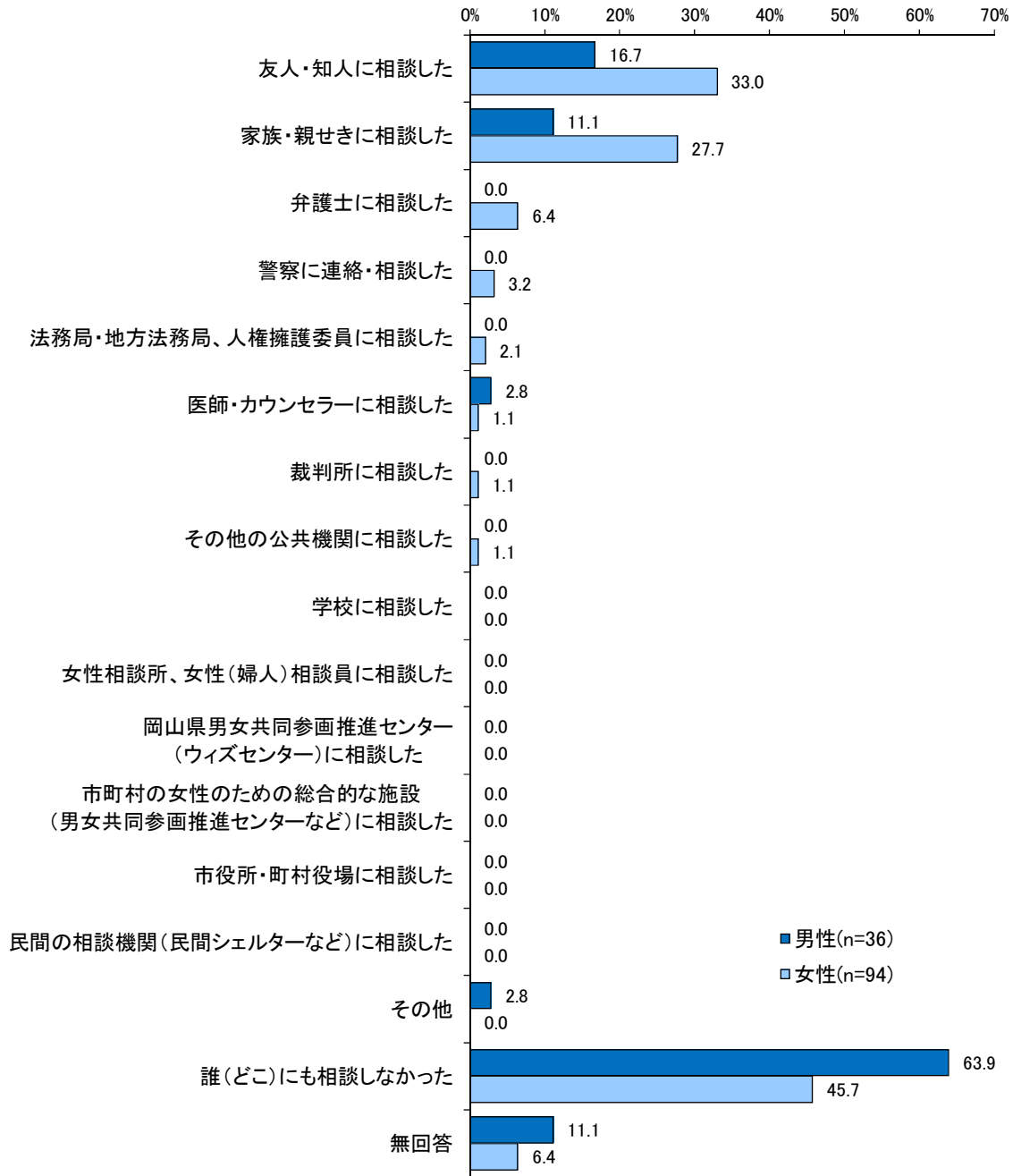
【配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先（前回調査結果との比較）】



\* 平成28年度調査には「学校に相談した」の項目なし

前回調査結果と比較すると、「誰(どこ)にも相談しなかった」と回答した人の割合は、平成28年度調査結果よりも上昇している。

【配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関する相談先（性別）】



性別にみると、「友人・知人に相談した」と回答した人の割合は、女性で3割台前半となっている。

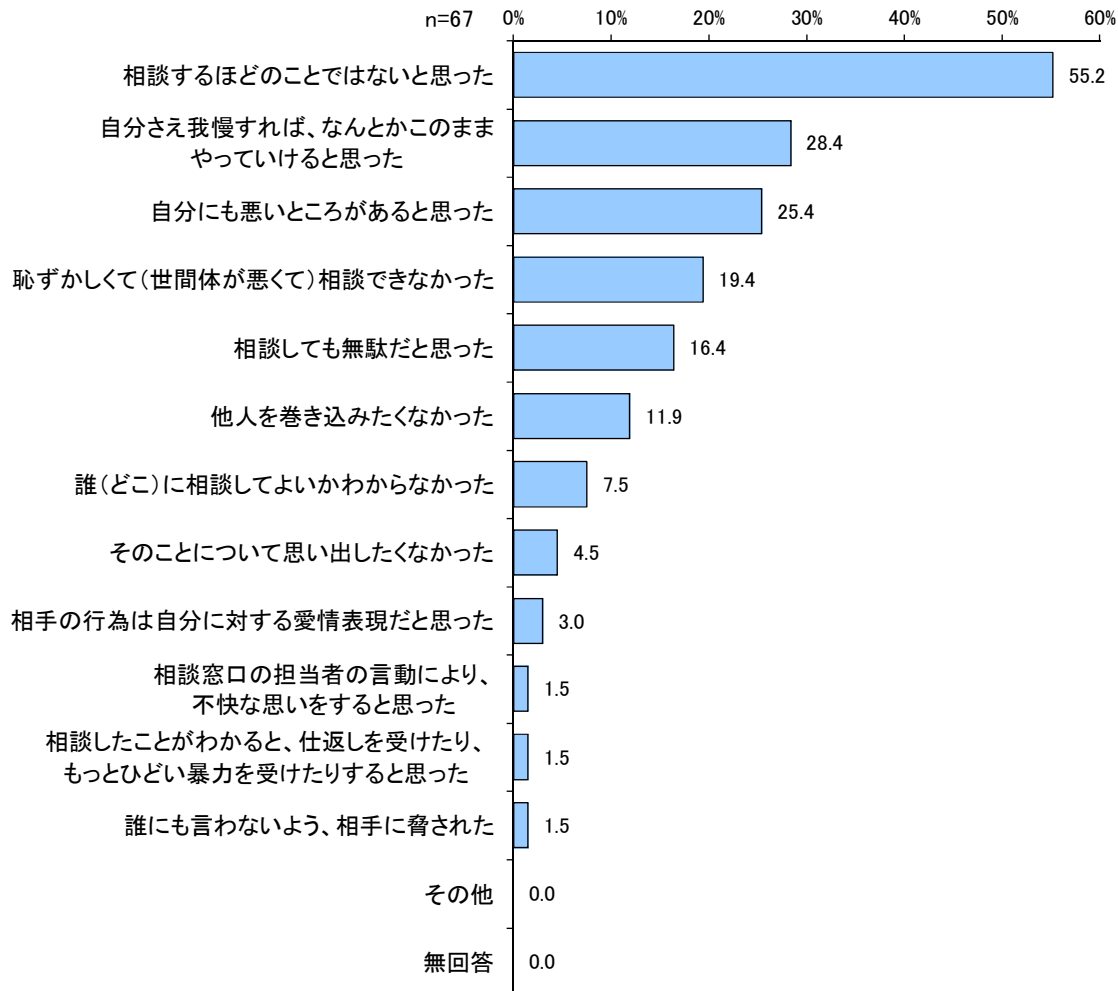
また、「誰(どこ)にも相談しなかった」と回答した人の割合は、男性で6割台前半、女性で4割台半ばとなっている。

(4) 配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関して相談しなかった理由

問 27 で「1 誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した人のみ回答

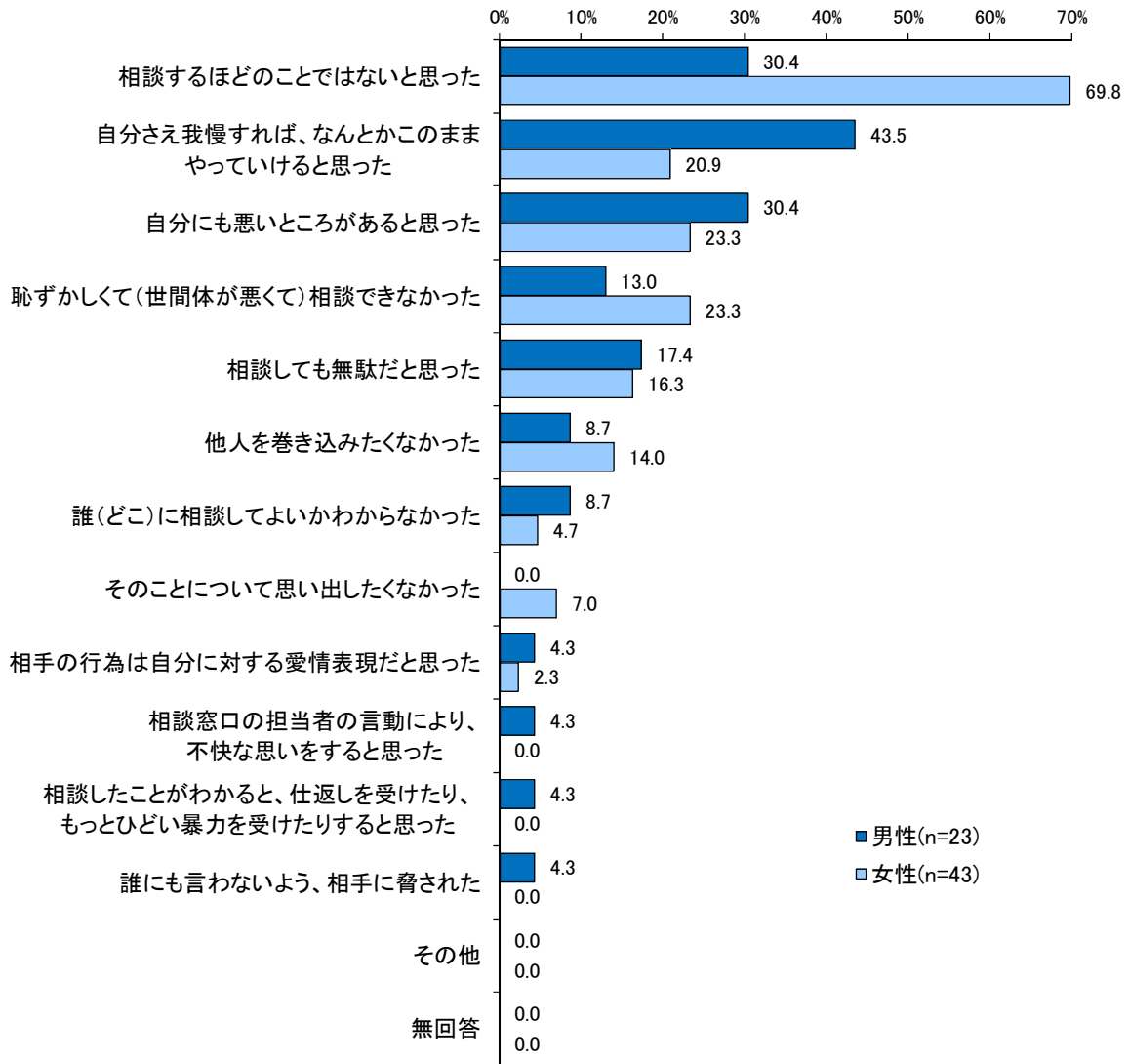
問 27-1 誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

【配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関して相談しなかった理由】



配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関して相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」と回答した人の割合が 55.2%と最も高く、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」(28.4%)、「自分にも悪いところがあると思った」(25.4%)が続いている。

【配偶者・パートナーや恋人から受けた暴力に関して相談しなかった理由（性別）】



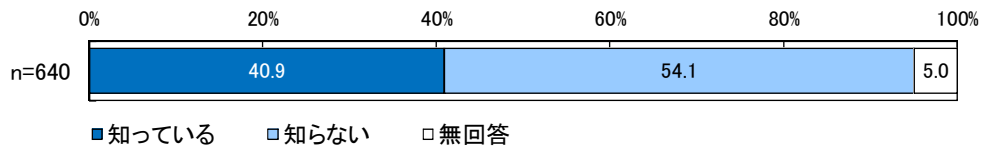
性別にみると、男性では、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」、「自分にも悪いところがあると思った」と回答した人の割合が上位となっている。

女性では、「相談するほどのことではないと思った」と回答した人の割合が上位となっている。

(5) 配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度

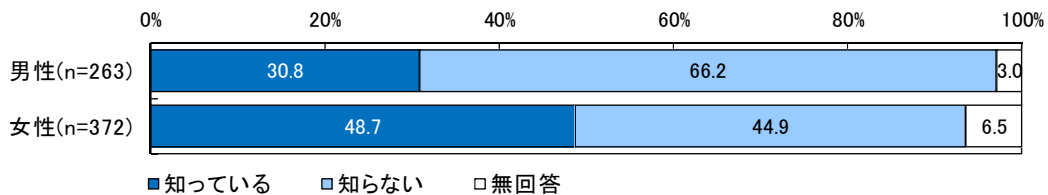
問 28 あなたは、配偶者・パートナーや恋人からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(○は1つ)

【配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度】



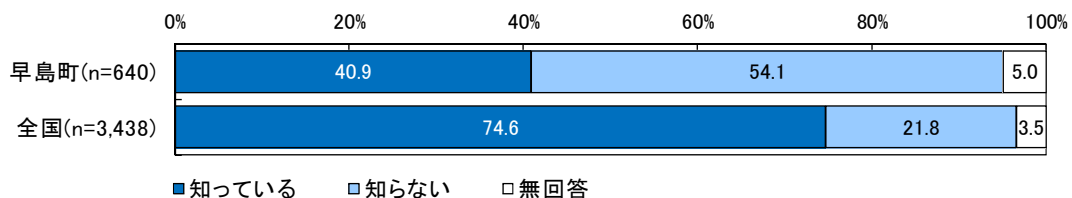
配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度について、「知っている」と回答した人の割合が 40.9%、「知らない」と回答した人の割合が 54.1%となっている。

【配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度（性別）】



性別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性で約 3 割、女性で 4 割台後半となっている。

【配偶者・パートナーや恋人からの暴力に関する相談窓口の認知度（全国調査結果との比較）】



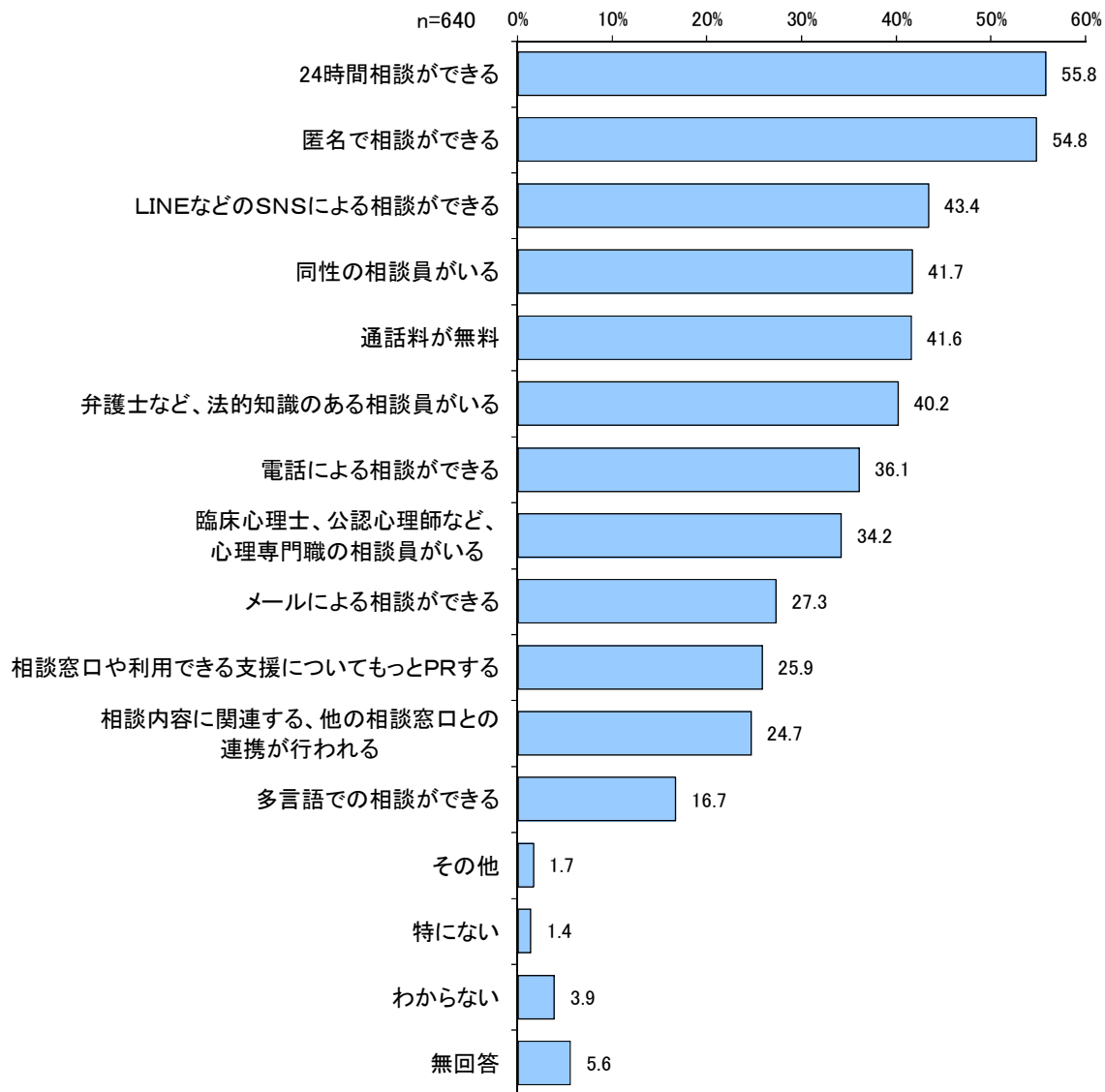
\* 全国: 令和 2 年度

全国調査結果と比較すると、「知っている」と回答した人の割合は、早島町で 40.9%、全国で 74.6%となっている。

(6) 暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制

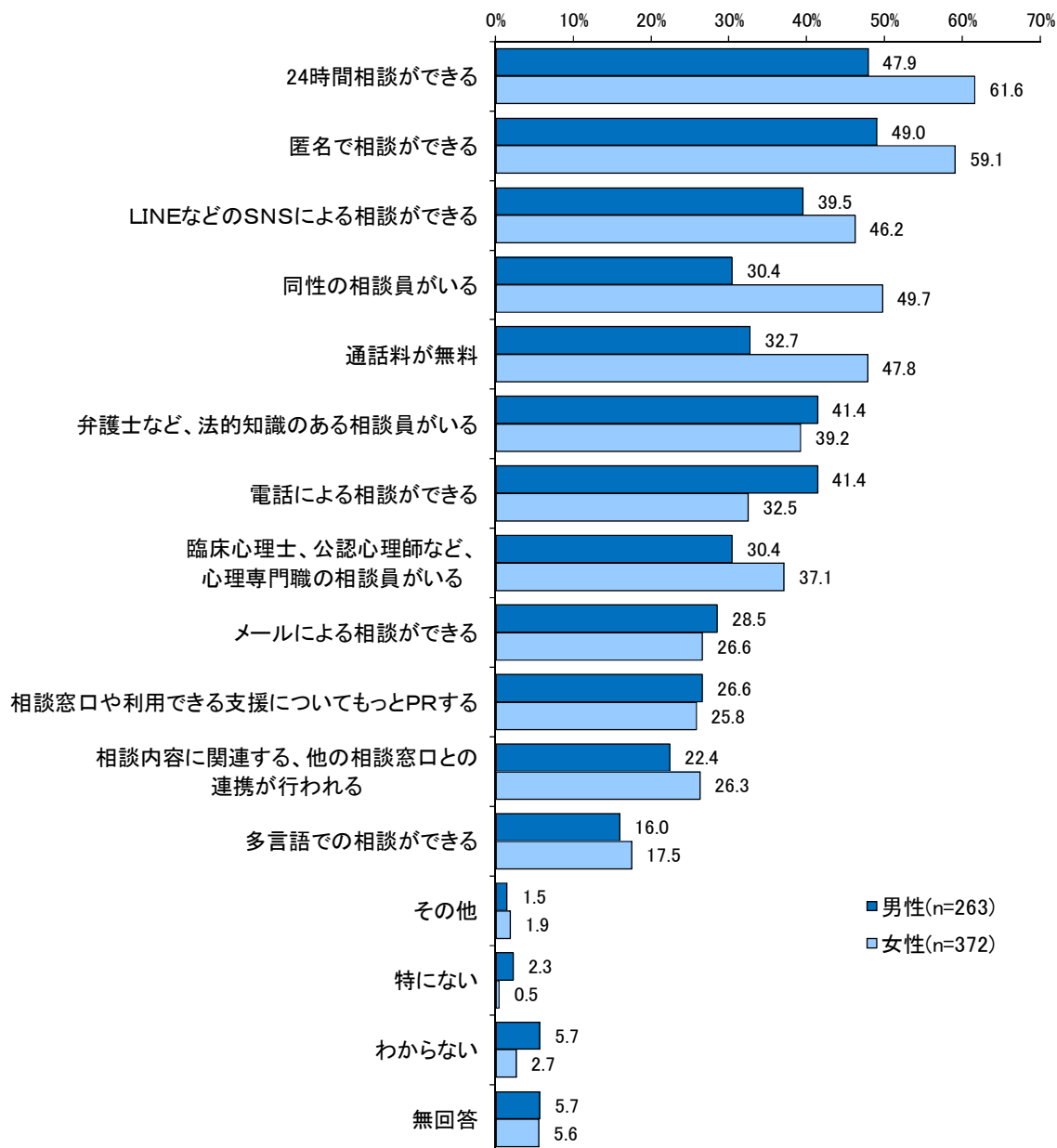
問 29 配偶者・パートナーや恋人から暴力の被害を受けた人が、暴力についての相談をしやすくするためには、どんな相談体制が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制】



暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制について、「24 時間相談ができる」と回答した人の割合が 55.8%と最も高く、「匿名で相談ができる」(54.8%)、「LINE などの SNS による相談ができる」(43.4%)、「同性の相談員がいる」(41.7%)、「通話料が無料」(41.6%)、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(40.2%)が続いている。

【暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制（性別）】



性別にみると、男性では、「24 時間相談ができる」、「匿名で相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」、「電話による相談ができる」と回答した人の割合が上位となっている。

女性では、「24 時間相談ができる」、「匿名で相談ができる」、「LINEなどのSNSによる相談ができる」、「同性の相談員がいる」、「通話料が無料」と回答した人の割合が上位となっている。

【暴力に関して相談しやすくするために必要な相談体制（性・年齢別）】

	回答数	24時間相談ができる	匿名で相談ができる	LINEなどのSNSによる相談ができる	同性の相談員がいる	通話料が無料	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	電話による相談ができる	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる
男性 20～30歳代	77	46.8%	46.8%	57.1%	37.7%	39.0%	31.2%	33.8%	26.0%
40～50歳代	85	61.2%	55.3%	45.9%	36.5%	34.1%	50.6%	32.9%	40.0%
60歳以上	101	37.6%	45.5%	20.8%	19.8%	26.7%	41.6%	54.5%	25.7%
女性 20～30歳代	143	74.1%	72.0%	65.7%	62.2%	58.0%	44.8%	35.0%	46.9%
40～50歳代	121	71.1%	60.3%	54.5%	48.8%	52.1%	47.9%	36.4%	38.0%
60歳以上	108	34.3%	40.7%	11.1%	34.3%	29.6%	22.2%	25.0%	23.1%

	回答数	メールによる相談ができる	相談窓口や利用できる支援についてもっとPRする	相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	多言語での相談ができる	その他	特にない	わからない	無回答
男性 20～30歳代	77	27.3%	33.8%	24.7%	19.5%	3.9%	-	6.5%	5.2%
40～50歳代	85	34.1%	23.5%	20.0%	16.5%	-	-	7.1%	3.5%
60歳以上	101	24.8%	23.8%	22.8%	12.9%	1.0%	5.9%	4.0%	7.9%
女性 20～30歳代	143	32.9%	25.9%	28.7%	23.8%	2.8%	-	1.4%	1.4%
40～50歳代	121	30.6%	21.5%	30.6%	19.8%	1.7%	-	0.8%	1.7%
60歳以上	108	13.9%	30.6%	18.5%	6.5%	0.9%	1.9%	6.5%	15.7%

性・年齢別にみると、女性20～30歳代、女性40～50歳代では「24時間相談ができる」と回答した人の割合が7割を超えている。

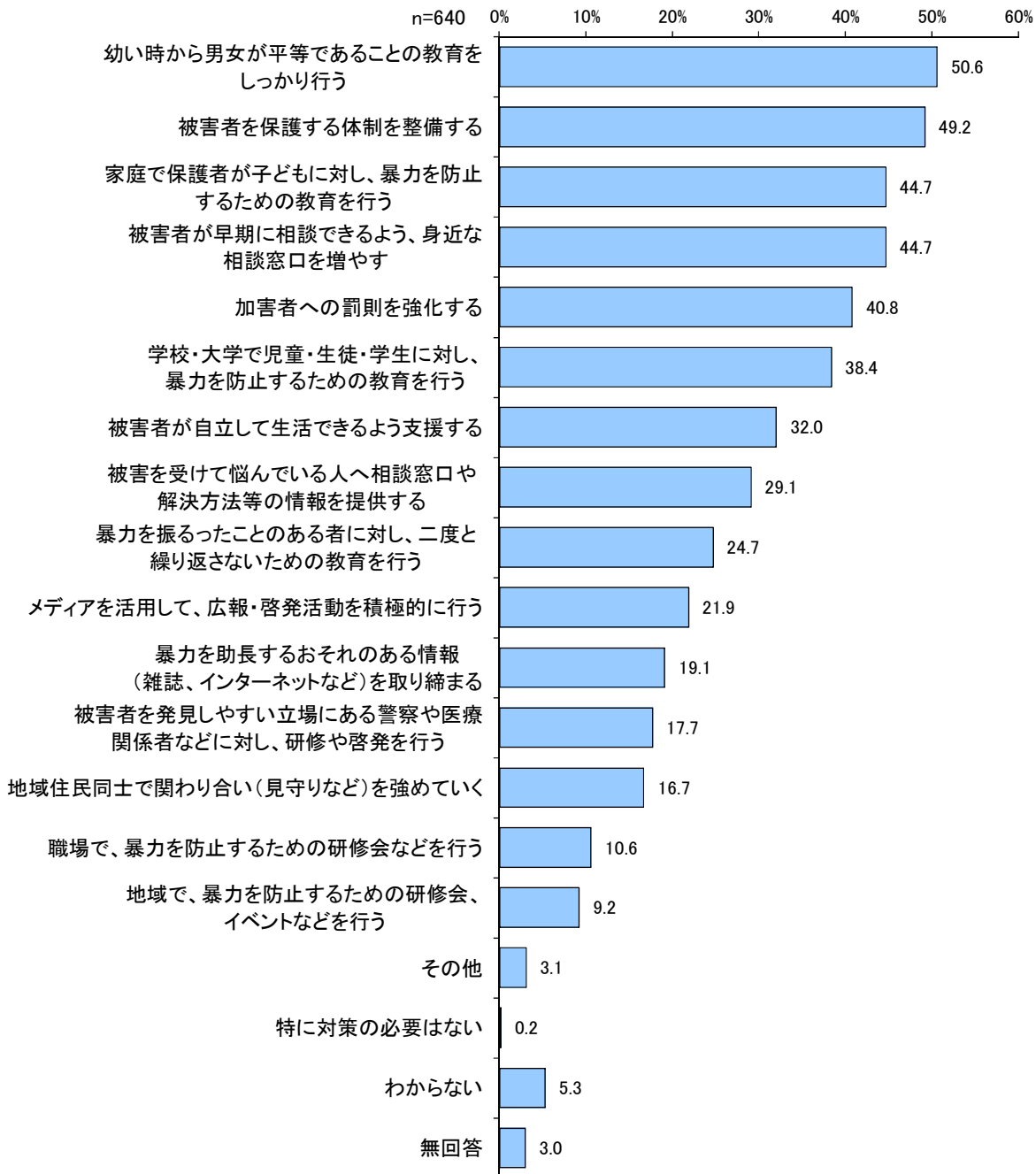
女性20～30歳代では、「LINEなどのSNSによる相談ができる」、「同性の相談員がいる」と回答した人の割合が6割を超えている。



(7) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

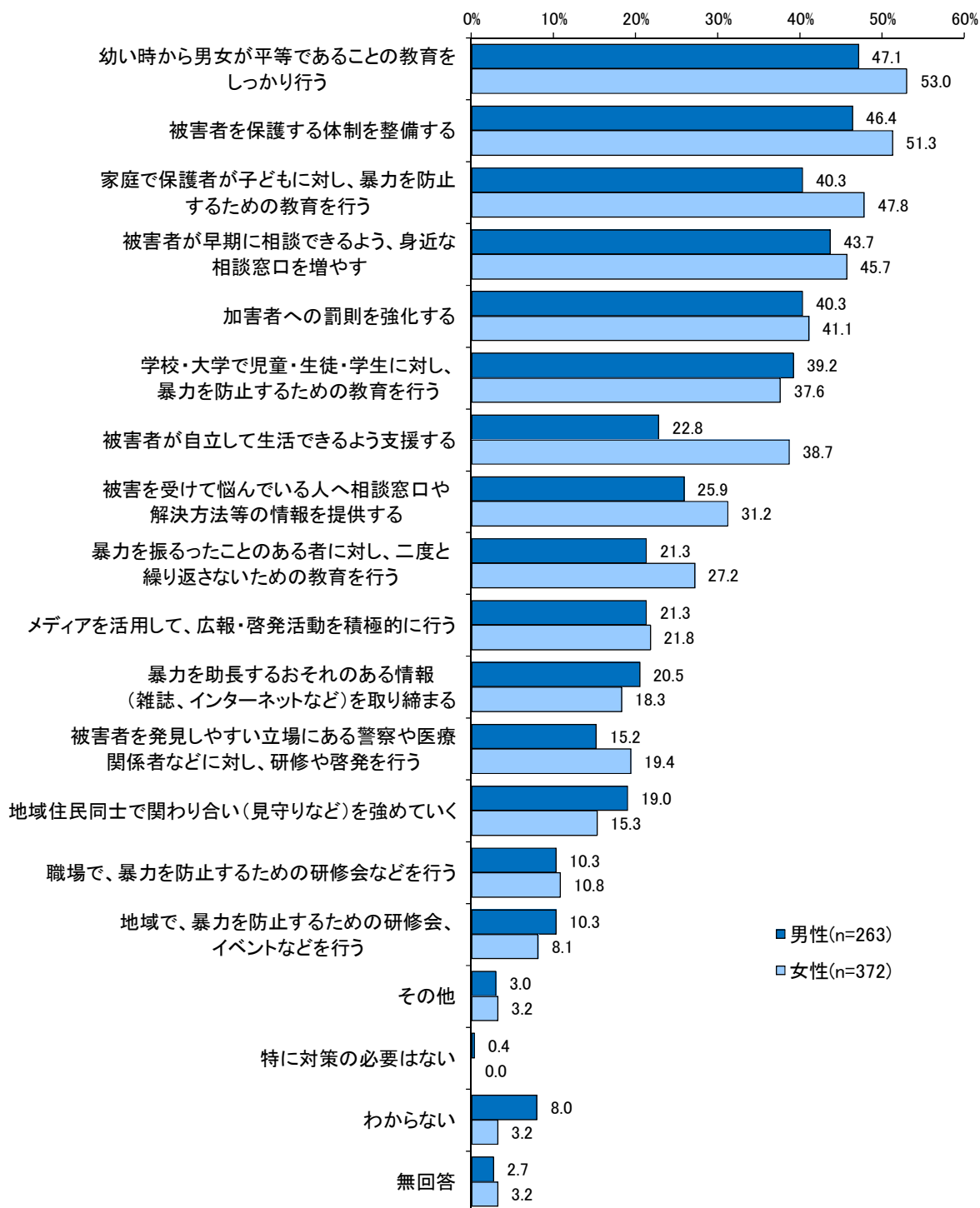
問 30 男女間の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)

【男女間の暴力を防止するために必要なこと】



男女間の暴力を防止するために必要なことについて、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」と回答した人の割合が 50.6%と最も高く、「被害者を保護する体制を整備する」(49.2%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(44.7%)、「加害者への罰則を強化する」(40.8%)が続いている。

【男女間の暴力を防止するために必要なこと（性別）】

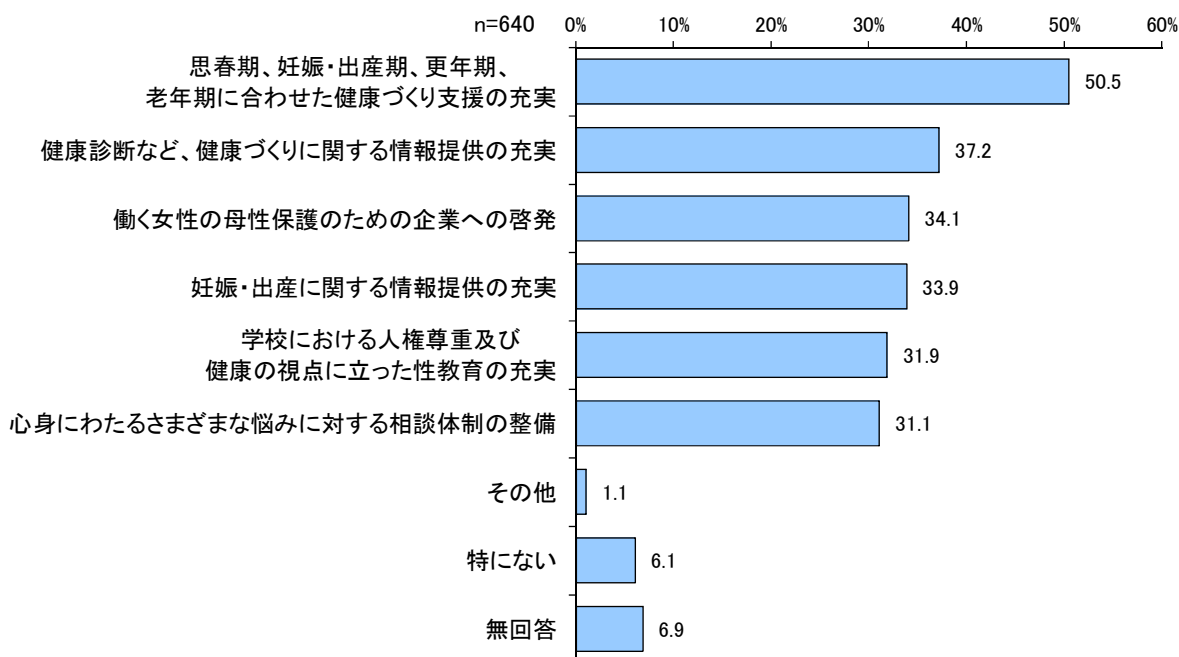


性別にみると、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」、「被害者を保護する体制を整備する」と回答した人の割合は、女性で5割前半となっている。

## 10 女性の健康について

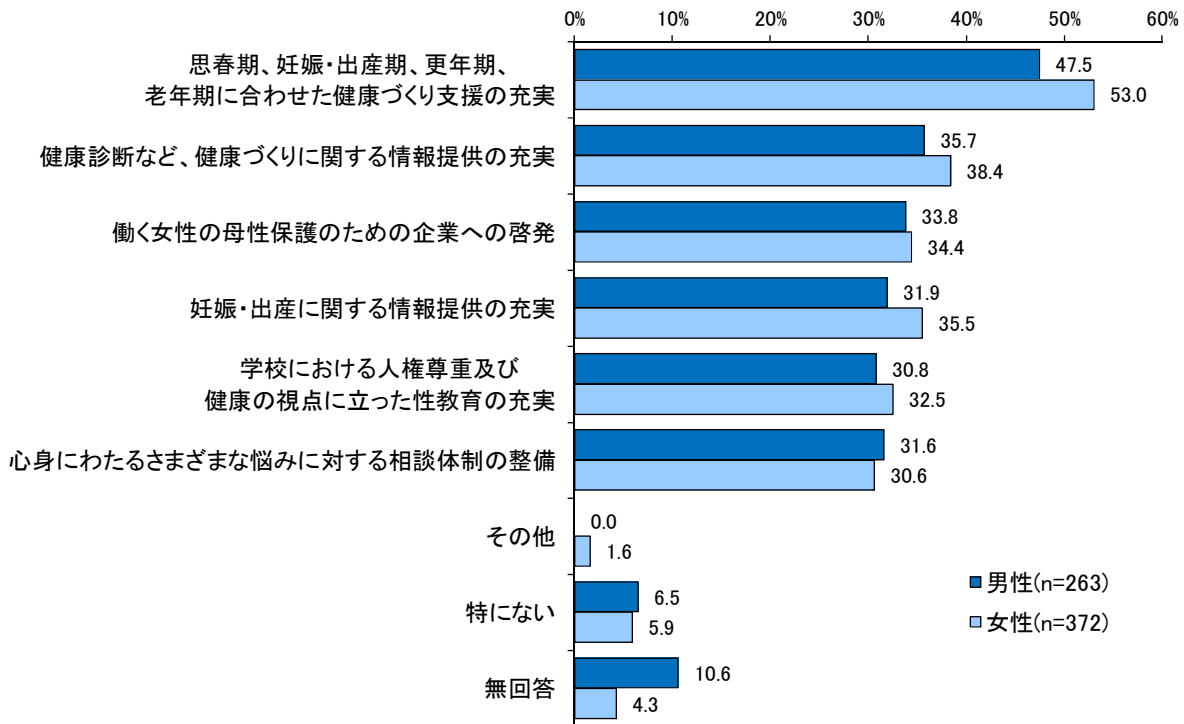
問 31 生涯にわたる健康の維持増進は、女性にとっても男性にとっても、充実した生活を営む上で重要な課題です。とりわけ女性は妊娠や出産のための仕組みが備わっており、男性とは異なる身体上の特徴がありますが、生涯を通じた健康を支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

【女性の生涯を通じた健康を支援するために必要なこと】



女性の生涯を通じた健康を支援するために必要なことについて、「思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期に合わせた健康づくり支援の充実」と回答した人の割合が50.5%と最も高く、次いで「健康診断など、健康づくりに関する情報提供の充実」（37.2%）となっている。

【女性の生涯を通じた健康を支援するために必要なこと（性別）】



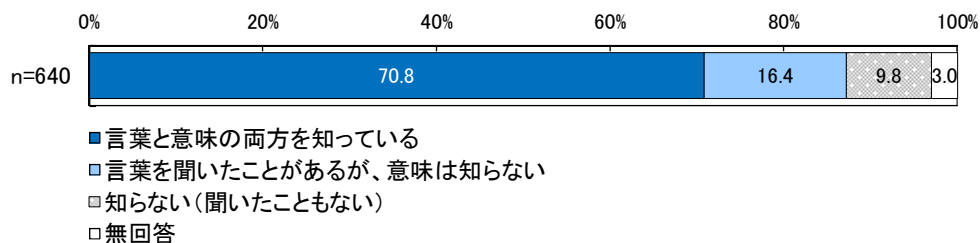
性別にみると、「思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期に合わせた健康づくり支援の充実」と回答した人の割合は、女性で5割台前半となっている。

## 11 性の多様性について

### (1) 性的マイノリティ（LGBT等）の認知度

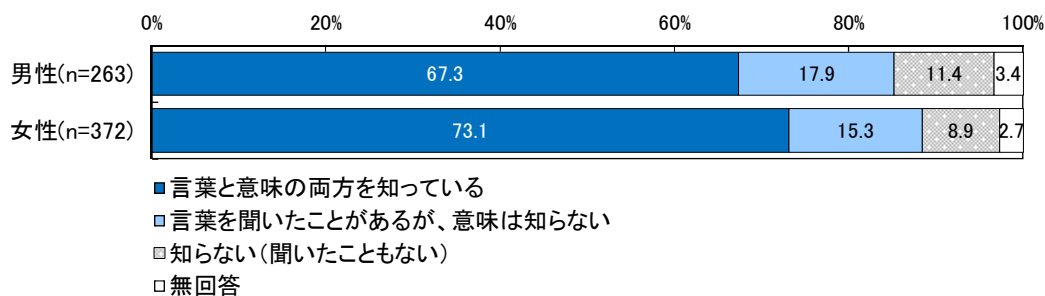
問 32 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

【性的マイノリティ（LGBT等）の認知度】



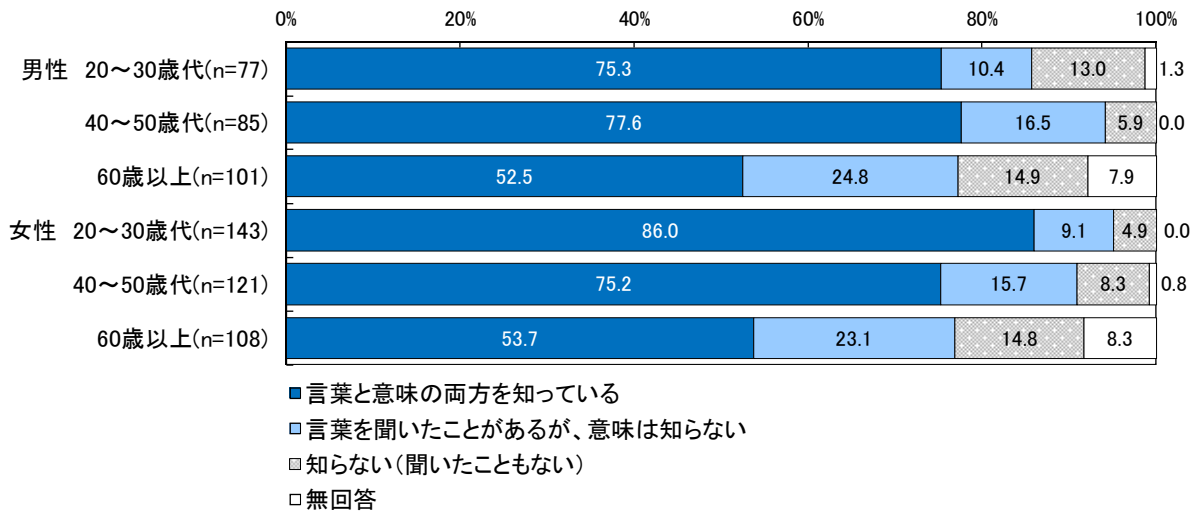
性的マイノリティ（LGBT等）の認知度について、「言葉と意味の両方を知っている」と回答した人の割合が70.8%、「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」と回答した人の割合が16.4%、「知らない（聞いたこともない）」と回答した人の割合が9.8%となっている。

【性的マイノリティ（LGBT等）の認知度（性別）】



性別にみると、「言葉と意味の両方を知っている」と回答した人の割合は、女性で7割台前半となっている。

【性的マイノリティ（LGBT等）の認知度（性・年齢別）】

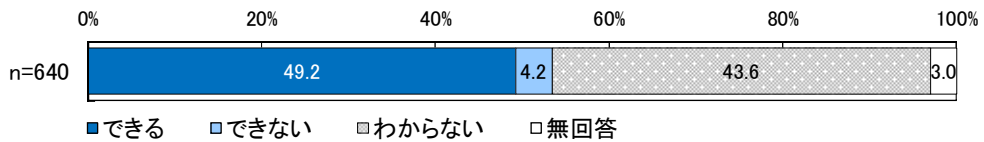


性・年齢別にみると、「言葉と意味の両方を知っている」と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代で 8 割台後半となっている。

(2) 身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるか

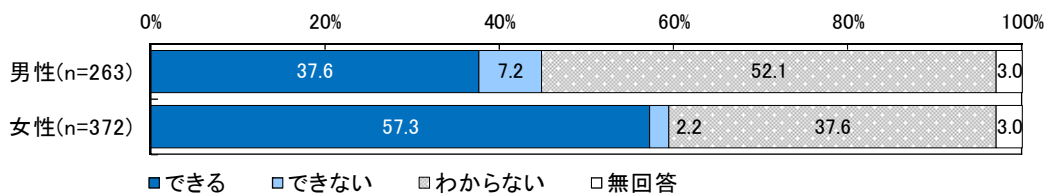
問 33 あなたは、身近な人（家族、友人など）から性的マイノリティ（LGBT等）と打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができますか。（○は1つ）

【身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるか】



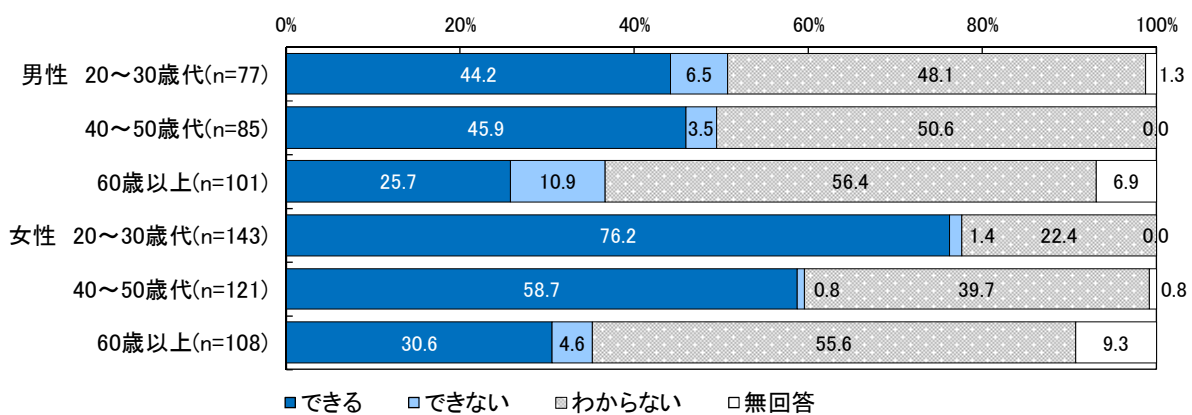
身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるかについて、「できる」と回答した人の割合が49.2%、「できない」と回答した人の割合が4.2%、「わからない」と回答した人の割合が43.6%となっている。

【身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるか（性別）】



性別にみると、「できる」と回答した人の割合は、女性で5割台後半となっている。

【身近な人が性的マイノリティの場合、変わりなく接することができるか（性・年齢別）】

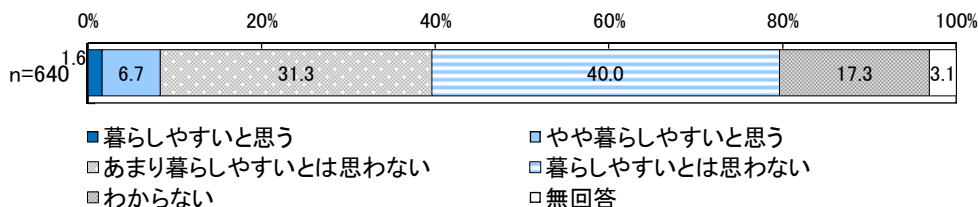


性・年齢別にみると、「できる」と回答した人の割合は、女性20～30歳代で7割台後半となっている。

### (3) 性的マイノリティの人にとっての生活環境

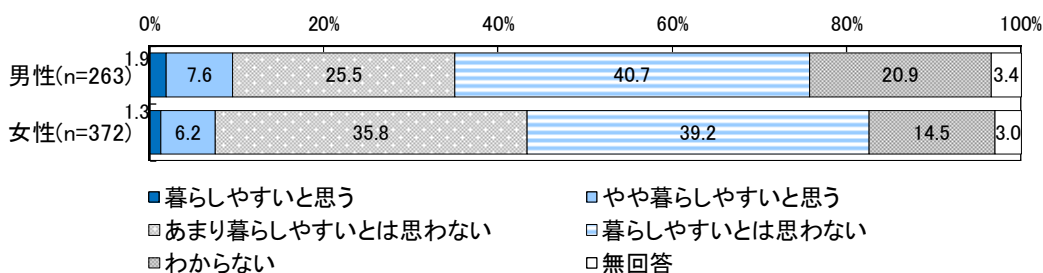
問 34 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）の人にとって、現在の社会は暮らしやすい社会になっていると思いますか。（〇は1つ）

【性的マイノリティの人にとっての生活環境】



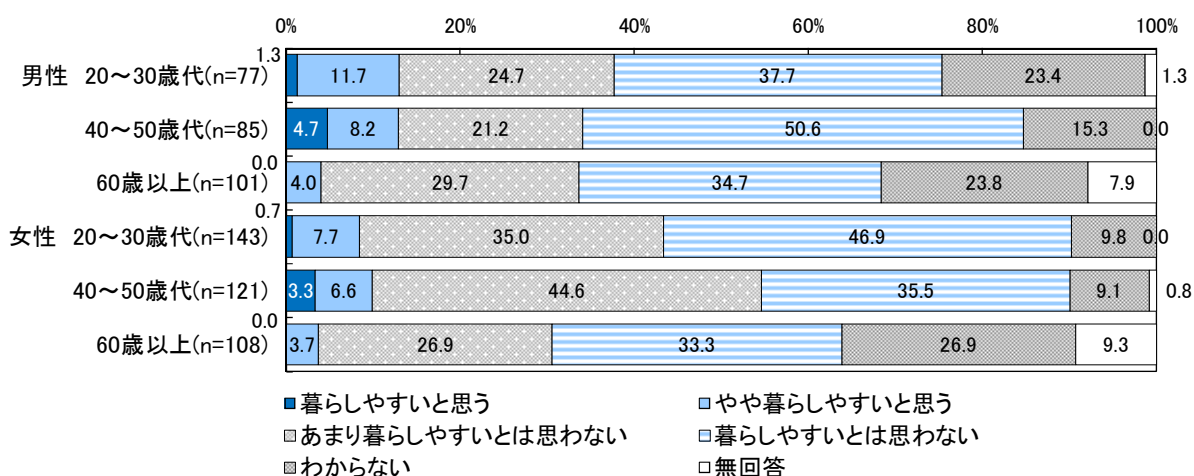
性的マイノリティの人にとっての生活環境について、『暮らしやすいと思う』（「暮らしやすいと思う」＋「やや暮らしやすいと思う」と回答した人の割合が 8.3%、『暮らしやすいとは思わない』（「暮らしやすいとは思わない」＋「あまり暮らしやすいとは思わない」と回答した人の割合が 71.3%となっている。

【性的マイノリティの人にとっての生活環境（性別）】



性別にみると、『暮らしやすいとは思わない』と回答した人の割合は、男性で6割台後半、女性で7割台半ばとなっている。

【性的マイノリティの人にとっての生活環境（性・年齢別）】



性・年齢別にみると、『暮らしやすいとは思わない』と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代、女性 40～50 歳代で 8 割を超えている。

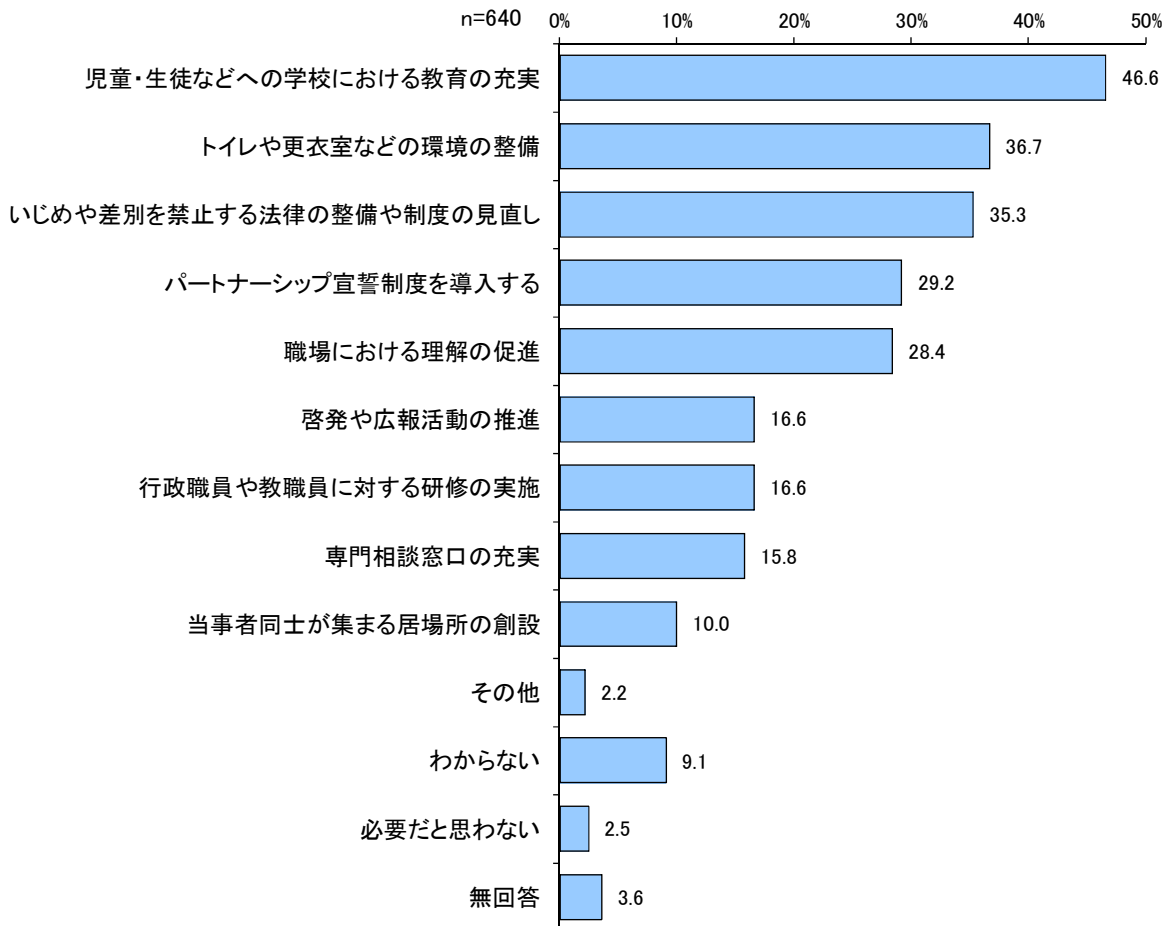


(4) 性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組

問 35 性的マイノリティ（LGBT等）の人への偏見や差別をなくし、性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるためにはどのような取組が必要だと思いますか。

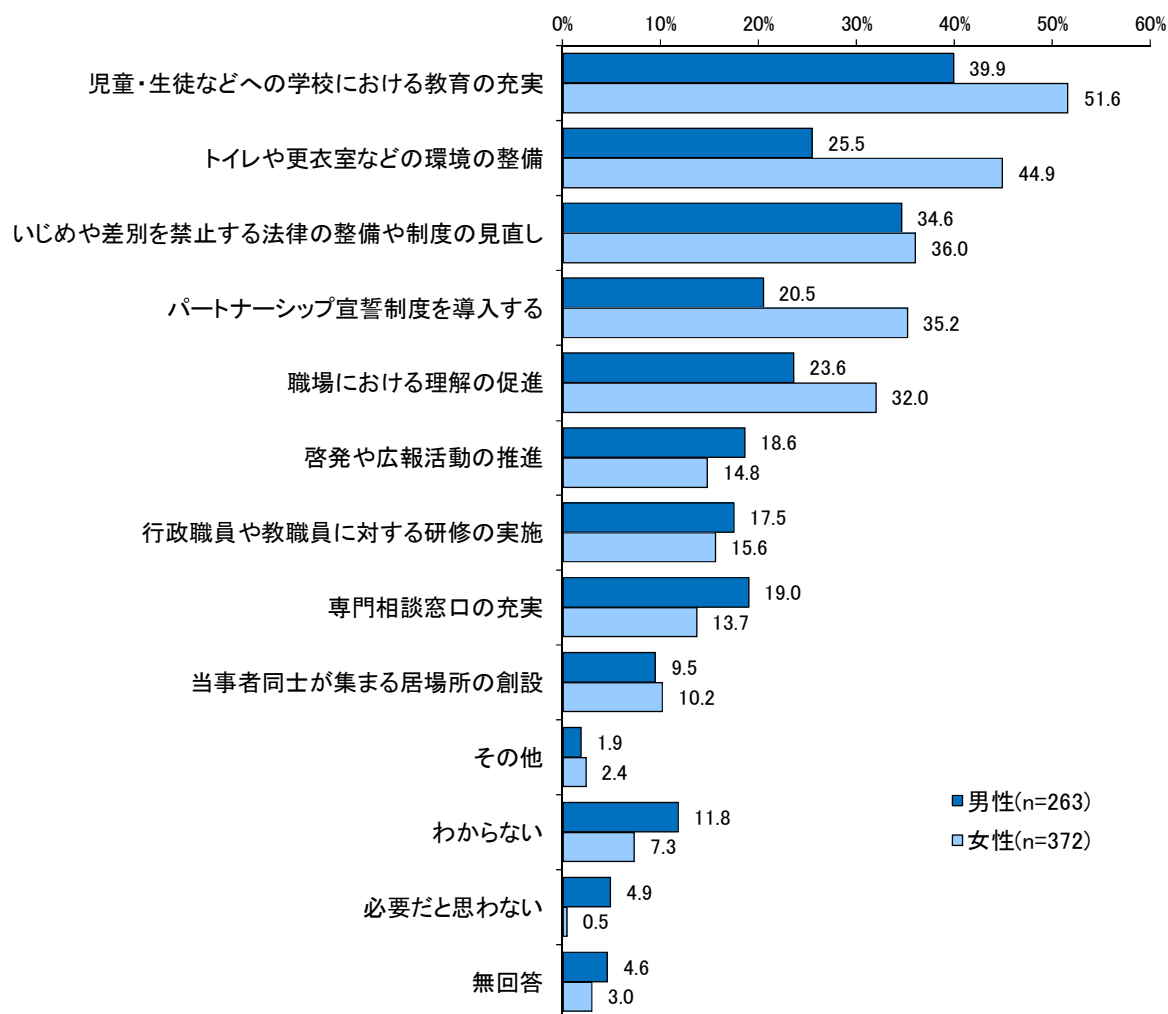
（〇は3つまで）

【性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組】



性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組について、「児童・生徒などへの学校における教育の充実」と回答した人の割合が46.6%と最も高く、「トイレや更衣室などの環境の整備」(36.7%)、「いじめや差別を禁止する法律の整備や制度の見直し」(35.3%)が続いている。

【性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組（性別）】



性別にみると、「児童・生徒などへの学校における教育の充実」、「トイレや更衣室などの環境の整備」と回答した人の割合は、女性で4割を超えている。

【性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組（性・年齢別）】

	回答数	児童・生徒などへの学校における教育の充実	トイレや更衣室などの環境の整備	いじめや差別を禁止する法律の整備や制度の見直し	パートナーシップ宣誓制度を導入する	職場における理解の促進	啓発や広報活動の推進	行政職員や教職員に対する研修の実施	専門相談窓口の充実
男性 20～30歳代	77	41.6%	26.0%	31.2%	23.4%	28.6%	15.6%	14.3%	18.2%
40～50歳代	85	52.9%	34.1%	44.7%	27.1%	27.1%	18.8%	22.4%	14.1%
60歳以上	101	27.7%	17.8%	28.7%	12.9%	16.8%	20.8%	15.8%	23.8%
女性 20～30歳代	143	60.8%	46.9%	40.6%	48.3%	25.9%	12.6%	16.1%	8.4%
40～50歳代	121	58.7%	53.7%	29.8%	38.8%	45.5%	11.6%	15.7%	17.4%
60歳以上	108	31.5%	32.4%	37.0%	13.9%	25.0%	21.3%	14.8%	16.7%

	回答数	当事者同士が集まる居場所の創設	その他	わからない	必要だと思わない	無回答
男性 20～30歳代	77	13.0%	3.9%	11.7%	5.2%	1.3%
40～50歳代	85	9.4%	2.4%	5.9%	3.5%	1.2%
60歳以上	101	6.9%	-	16.8%	5.9%	9.9%
女性 20～30歳代	143	14.7%	4.2%	4.9%	0.7%	-
40～50歳代	121	8.3%	1.7%	2.5%	0.8%	-
60歳以上	108	6.5%	0.9%	15.7%	-	10.2%

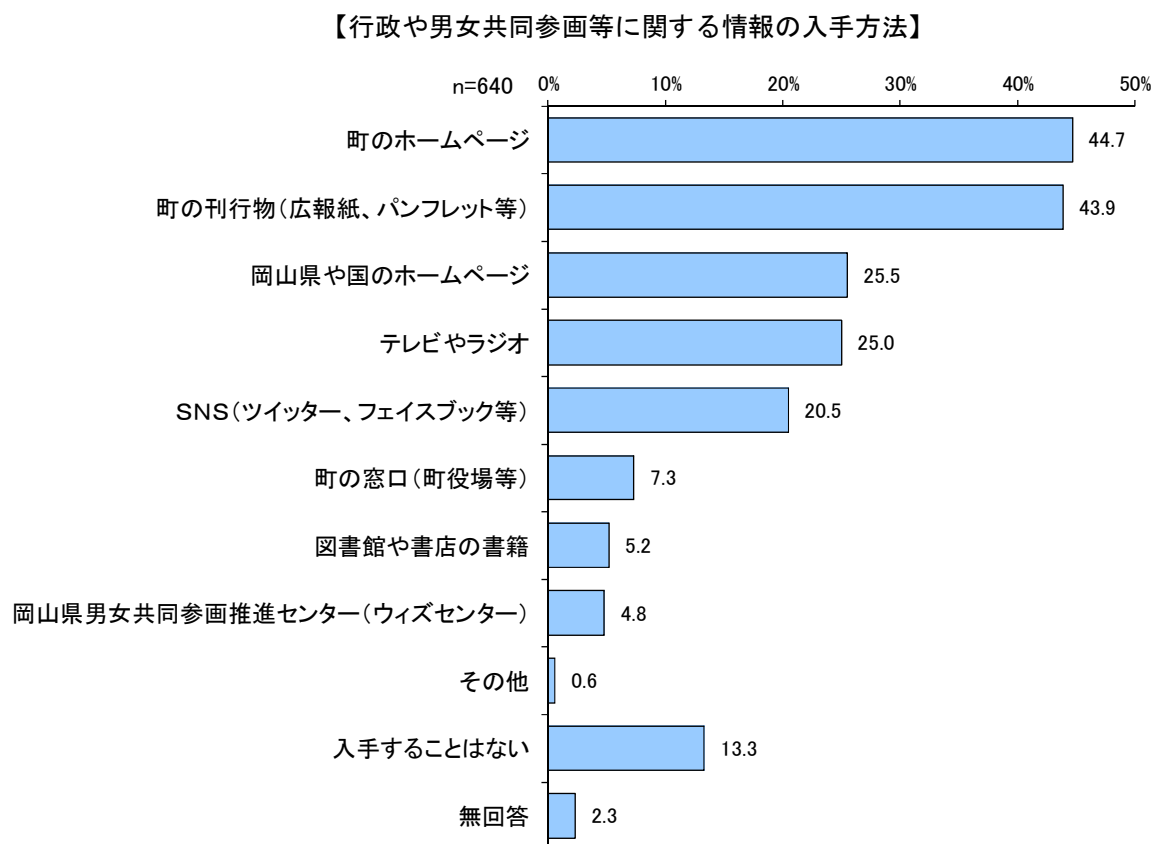
性・年齢別にみると、「児童・生徒などへの学校における教育の充実」と回答した人の割合は、男性 40～50 歳代、女性 20～30 歳代、女性 40～50 歳代で 5 割を超えている。

「トイレや更衣室などの環境の整備」と回答した人の割合は、女性 40～50 歳代で 5 割台前半となっている。

「パートナーシップ宣誓制度を導入する」と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代で 4 割台後半となっている。

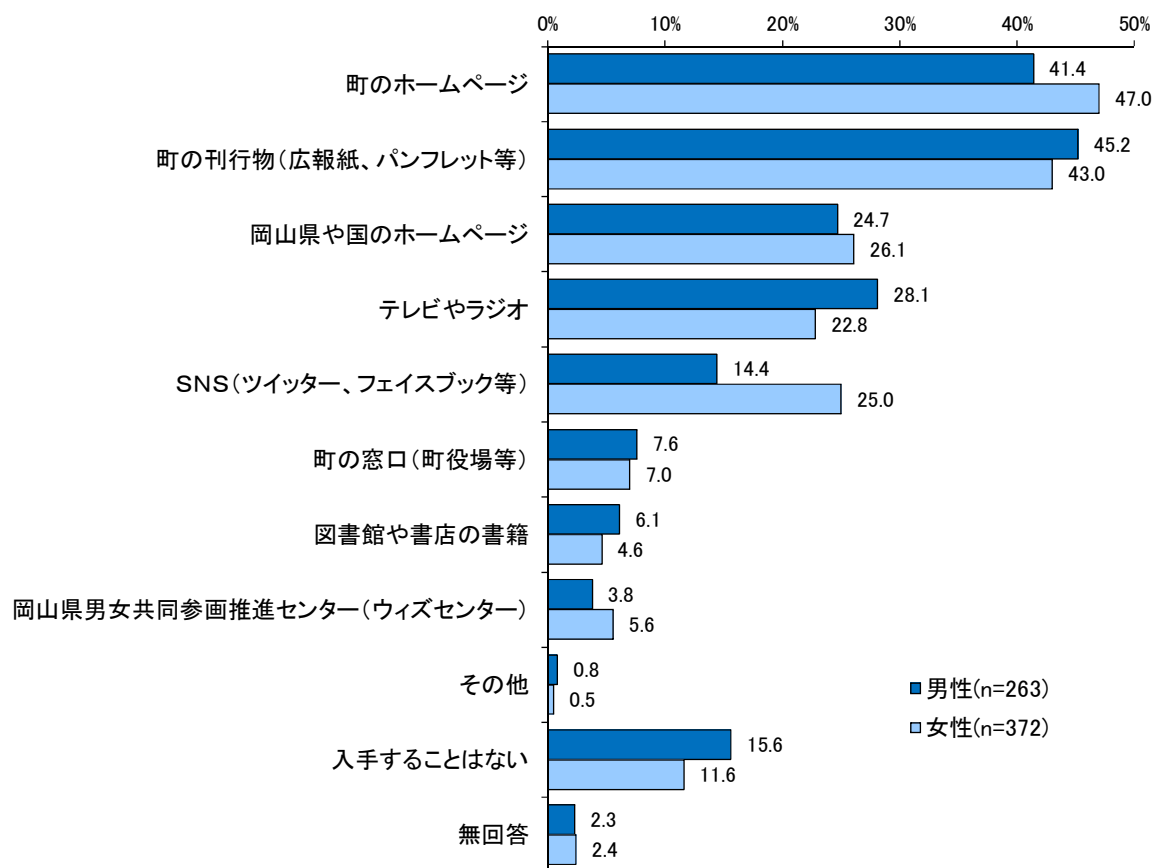
## 12 情報提供について

問 36 あなたは、行政や男女共同参画等に関する情報を探るとき、どのような方法で入手しますか。(〇はいくつでも)



行政や男女共同参画等に関する情報の入手方法について、「町のホームページ」と回答した人の割合が 44.7%と最も高く、「町の刊行物(広報紙、パンフレット等)」(43.9%)、「岡山県や国のホームページ」(25.5%)、「テレビやラジオ」(25.0%)、「SNS(ツイッター、フェイスブック等)」(20.5%)が続いている。

【行政や男女共同参画等に関する情報の入手方法（性別）】



性別にみると、「町のホームページ」、「町の刊行物（広報紙、パンフレット等）」と回答した人の割合は、男女ともに4割を超えている。

【行政や男女共同参画等に関する情報の入手方法（性・年齢別）】

	回答数	町のホームページ	町の刊行物（広報紙、パンフレット等）	岡山県や国のホームページ	テレビやラジオ	SNS（ツイッター、フェイスブック等）	町の窓口（町役場等）	図書館や書店の書籍	岡山県男女共同参画推進センター（ウイズセンター）
男性 20～30歳代	77	48.1%	35.1%	22.1%	19.5%	20.8%	9.1%	6.5%	1.3%
40～50歳代	85	45.9%	34.1%	37.6%	28.2%	16.5%	3.5%	3.5%	4.7%
60歳以上	101	32.7%	62.4%	15.8%	34.7%	7.9%	9.9%	7.9%	5.0%
女性 20～30歳代	143	54.5%	30.8%	32.9%	21.0%	44.8%	3.5%	3.5%	5.6%
40～50歳代	121	55.4%	42.1%	28.9%	21.5%	22.3%	9.9%	2.5%	3.3%
60歳以上	108	27.8%	60.2%	13.9%	26.9%	1.9%	8.3%	8.3%	8.3%

	回答数	その他	入手することはない	無回答
男性 20～30歳代	77	-	15.6%	1.3%
40～50歳代	85	2.4%	17.6%	-
60歳以上	101	-	13.9%	5.0%
女性 20～30歳代	143	-	11.9%	-
40～50歳代	121	0.8%	9.1%	-
60歳以上	108	0.9%	13.9%	8.3%

行政や男女共同参画等に関する情報の入手方法について、「町のホームページ」と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代、女性 40～50 歳代で 5 割台半ばとなっている。

「町の刊行物（広報紙、パンフレット等）」と回答した人の割合は、男女ともに 60 歳以上で 6 割台となっている。

「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」と回答した人の割合は、女性 20～30 歳代で 4 割台半ばとなっている。